

平安京右京四条三坊三町跡

2022年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

平安京右京四条三坊三町跡

2022年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

序 文

京都市内には、いにしへの都平安京をはじめとして、数多くの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が点在しています。平安京以前にさかのぼる遺跡及び平安京建都以来、今日に至るまで営々と生活が営まれ、各時代の生活跡が連綿と重なりあっています。このように地中に埋もれた埋蔵文化財（遺跡）は、過去の京都の姿をうかびあがらせてくれます。

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、遺跡の発掘調査をとおして京都の歴史の解明に取り組んでいます。その調査成果を市民の皆様に広く公開し、活用していただけるよう努めていくことが責務と考えています。現地説明会の開催、写真展や遺跡めぐり、京都市考古資料館での展示公開、小中学校での出前授業、ホームページでの情報公開などを積極的に進めているところです。

このたび、小学校校舎建設工事に伴う平安京跡の発掘調査について調査成果を報告いたします。本報告の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示賜りますようお願い申し上げます。

末尾になりましたが、当調査に際しまして多くのご協力とご支援を賜りました関係各位に厚く感謝し、御礼を申し上げます。

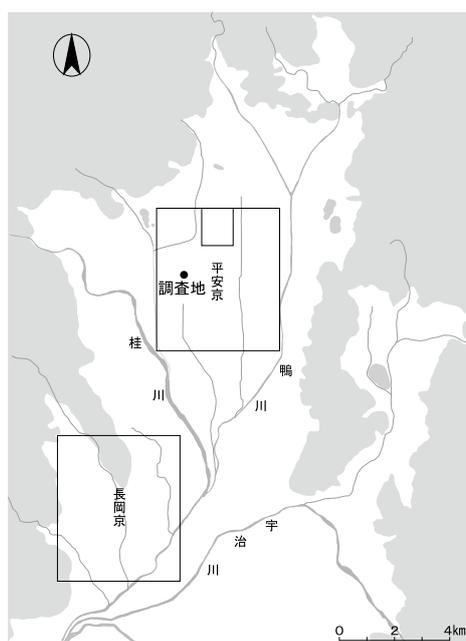
令和4年3月

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所
所 長 井 上 満 郎

例 言

- | | |
|----------|--|
| 1 遺 跡 名 | 平安京跡（京都市番号 19H777） |
| 2 調査所在地 | 京都市右京区西院春日町3番地1ほか |
| 3 委 託 者 | 京都市 代表者 京都市長 門川大作 |
| 4 調査期間 | 2020年12月14日～2021年6月30日 |
| 5 調査面積 | 1,113㎡ |
| 6 調査担当者 | 李 銀眞・松永修平・鈴木康高 |
| 7 使用地図 | 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「山ノ内」を参考にし、作成した。 |
| 8 使用測地系 | 世界測地系 平面直角座標系Ⅵ（ただし、単位（m）を省略した） |
| 9 使用標高 | T.P.：東京湾平均海面高度 |
| 10 使用土色名 | 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。 |
| 11 遺構番号 | 通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。 |
| 12 遺物番号 | 通し番号を付し、写真番号も同一とした。 |
| 13 本書作成 | 李 銀眞・松永修平 |
| 14 執筆分担 | 李 銀眞：1～3、4－(1)・(2)・(4)～(7)、5
松永修平：4－(3) |
| 15 備 考 | 上記以外に調査・整理ならびに本書作成には、調査業務職員及び資料業務職員があたった。 |

(調査地点図)



目 次

1. 調査経過	1
(1) 調査に至る経緯	1
(2) 調査の経過	2
2. 位置と環境	4
(1) 地理的環境	4
(2) 歴史的環境	5
(3) 周辺の調査	6
3. 遺 構	11
(1) 基本層序	11
(2) 遺構の概要	12
(3) 1区の遺構	12
(4) 2区の遺構	15
(5) 3区の遺構	20
4. 遺 物	22
(1) 遺物の概要	22
(2) 土器類	23
(3) 瓦類	27
(4) 土製品	31
(5) 木製品	31
(6) 石製品	31
(7) 金属製品	31
5. ま と め	34
(1) 奈良時代	34
(2) 平安時代前期から中期	34
(3) 平安時代後期から鎌倉時代前半	37
(4) 室町時代以降	38

図 版 目 次

- 図版 1 遺構 1 区平面図 (1 : 150)
- 図版 2 遺構 1 区南壁・西壁断面図 (1 : 80)
- 図版 3 遺構 1 区建物 1・2 実測図 (1 : 80)
- 図版 4 遺構 1 区建物 3・4 実測図 (1 : 80)
- 図版 5 遺構 2 区第 2 面平面図 (1 : 200)
- 図版 6 遺構 2 区第 1 面平面図 (1 : 200)
- 図版 7 遺構 2 区北壁断面図 (1 : 50)
- 図版 8 遺構 2 区西壁断面図 (1 : 50)
- 図版 9 遺構 2 区南壁断面図 (1 : 50)
- 図版 10 遺構 2 区溝 900 (道祖大路西側溝)、川 962 (道祖川)、溝 150・945 断面図 (1 : 50)
- 図版 11 遺構 2 区川 962 (道祖川)、溝 150・945 断面図 (1 : 50)、溝 351 断面図 (1 : 30)
- 図版 12 遺構 2 区溝 681・1102・1183・1199・1200 実測図 (1 : 60)
- 図版 13 遺構 2 区建物 6 実測図 (1 : 100)
- 図版 14 遺構 2 区建物 9 実測図 1 (1 : 100)
- 図版 15 遺構 2 区建物 9 実測図 2 (1 : 100)
- 図版 16 遺構 2 区建物 10 実測図 1 (1 : 100)
- 図版 17 遺構 2 区建物 10 実測図 2 (1 : 100)
- 図版 18 遺構 2 区建物 8 実測図 (1 : 100)
- 図版 19 遺構 3 区実測図 (1 : 100)
- 図版 20 遺物 溝 1183、落込み 1246・1175、井戸 211 出土土器実測図 (1 : 4)
- 図版 21 遺物 溝 900 出土土器実測図 (1 : 4)
- 図版 22 遺物 整地層・井戸 1037 出土土器実測図 (1 : 4)
- 図版 23 遺物 溝 150・945・351 出土土器実測図 (1 : 4)
- 図版 24 遺物 溝 351・176・121 出土土器実測図 (1 : 4)
- 図版 25 遺物 その他の土器実測図 (1 : 4)
- 図版 26 遺物 軒丸瓦拓影及び実測図 1 (1 : 4)
- 図版 27 遺物 軒丸瓦拓影及び実測図 2 (1 : 4)
- 図版 28 遺物 軒平瓦拓影及び実測図 1 (1 : 4)
- 図版 29 遺物 軒平瓦拓影及び実測図 2 (1 : 4)
- 図版 30 遺構 1 1 区全景 (東から)
2 1 区建物 5 (東から)
3 1 区建物 1・2 (東から)

図版31	遺構	1	2区第1面全景（北から）
		2	2区第2面全景（北から）
図版32	遺構	1	2区溝900（道祖大路西側溝）東西セクション断面（南西から）
		2	2区路面1100（道祖大道路路面）、川962（道祖川）（北東から）
図版33	遺構	1	2区溝681・1102・1183・1199・1200（北西から）
		2	2区井戸211（東から）
		3	2区井戸211詳細（南から）
図版34	遺構	1	2区建物6～10（北東から）
		2	2区溝900埋土下層上面（北西から）
図版35	遺構	1	2区溝351（北西から）
		2	2区溝351・150・945合流点（北西から）
		3	2区石列1075（南西から）
図版36	遺構	1	2区井戸1037（東から）
		2	2区井戸1037詳細（南西から）
		3	3区第1面全景（東から）
		4	2区第2面全景（東から）
図版37	遺物		溝4・溝1183・落込み1175・井戸211・溝900・整地層・井戸1037出土土器
図版38	遺物		溝150・溝351・溝121出土土器、その他の土器
図版39	遺物		軒丸瓦
図版40	遺物		軒平瓦

挿 図 目 次

図1	調査位置図（1：2,500）	1
図2	調査区配置図（1：1,000）	2
図3	調査前全景（北西から）	3
図4	1区重機掘削状況（南西から）	3
図5	2区作業状況（北西から）	3
図6	2区ドローン撮影状況（北西から）	3
図7	小学生発掘調査見学（北東から）	3
図8	小学生遺物洗浄体験（南東から）	3
図9	広報発表（南西から）	3
図10	現地説明会（北から）	3

図11	平安京城の地形分類図（1：80,000）	4
図12	周辺調査位置図（1：5,000）	6
図13	基本層序図（1：40）	11
図14	溝4断面図（1：50）	12
図15	建物5実測図（1：80）	13
図16	溝121断面図（1：50）	14
図17	井戸211実測図（1：50）	15
図18	柱穴列1実測図（1：50）	16
図19	柱穴列2実測図（1：50）	16
図20	建物7実測図（1：100）	17
図21	井戸1037実測図（1：40）	18
図22	溝176断面図（1：50）	19
図23	石列1075実測図（1：60）	19
図24	柱穴列3実測図（1：50）	20
図25	溝1303断面図（1：50）	20
図26	柱穴列4実測図（1：60）	21
図27	溝4出土土器実測図（1：4）	23
図28	建物4・10出土土器実測図（1：4）	25
図29	軒丸瓦拓影（1：6）	28
図30	軒平瓦拓影（1：6）	29
図31	瓦31「土 □松瓦屋」銘	30
図32	塼拓影及び実測図（1：6）	30
図33	土製品実測図（1：4）	32
図34	木製品実測図（1：4）	32
図35	石製品実測図（1：4）	32
図36	銭貨拓影（1：2）	33
図37	遺構変遷図（1：1,000）	35
図38	道祖大路・道祖川の断面模式図（1：300）	36
図39	平安京条坊図と調査地	37

表 目 次

表 1	周辺調査一覧表	7
表 2	遺構概要表	12
表 3	遺物概要表	22

付 表 目 次

付表 1	軒丸瓦観察表	40
付表 2	軒平瓦観察表	41

平安京右京四條三坊三町跡

1. 調査経過

(1) 調査に至る経緯

本調査は、京都市立西院小学校整備工事に係る新校舎建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査である。調査地は京都市立西院小学校敷地（京都市右京西院春日町3番地1他）に所在する。当地は、平安京右京四條三坊三町跡に当たり、北は四條坊門小路、南は錦小路、東は道祖大路、西は宇多小路に囲まれる。道祖大路を挟んで東側の平安京右京四條二坊十一町～十四町には、淳和天皇の離宮である淳和院が存在した。

本調査に先立ち、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下「文化財保護課」という）が試掘調査を行った結果、平安時代の道祖川と想定される河川堆積層が確認された。そのため、文化財保護課は京都市教育委員会に対して埋蔵文化財調査の実施を指導し、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所が委託を受けて調査を実施することとなった。今回の調査は、試掘調査や既往の周辺調査成果により、右京四條三坊三町の宅地利用の歴史の変遷と、道祖大路から道祖川への変遷と構造を解明することを目的とした。



図1 調査位置図（1：2,500）

(2) 調査の経過

調査は、2020年12月14日に開始した。調査区は、文化財保護課の指導により1～3区の調査区に分け、順に調査を進めた。調査面積は、合計1,113㎡である。調査は、現代盛土や中世から近現代の耕作土は重機を用いて掘削し、遺構の検出および掘削は人力で行った。今回の調査で検出した主な遺構には、平安時代前期から中期の溝・井戸・川、平安時代後期から鎌倉時代前半の建物・溝・井戸、室町時代の溝を検出した。検出遺構については、実測図の作成・写真撮影などの記録作業を行い、遺構の状況に応じてオルソ測量を併用した。調査後は埋め戻しを行い、2021年6月30日にすべての現地作業を終了した。

調査中は適宜、文化財保護課の臨検を受けた。また、調査の進展に伴い検証委員である近畿大学の網伸也教授、龍谷大学の國下多美樹教授の視察を受けた。

さらに2021年4月22・23日に西院小学校6年生（参加者154名）を対象に社会科授業の一環として受け入れ、発掘現場の見学と遺物洗浄体験を行った。同月30日に西院小学校教員（参加者8名）を対象に発掘現場の見学を受け入れた。

また、2021年6月15日に広報発表を行い、同月21日に地元向け現地説明会を開催して調査成果の公表に務めた。約30名の参加があった。

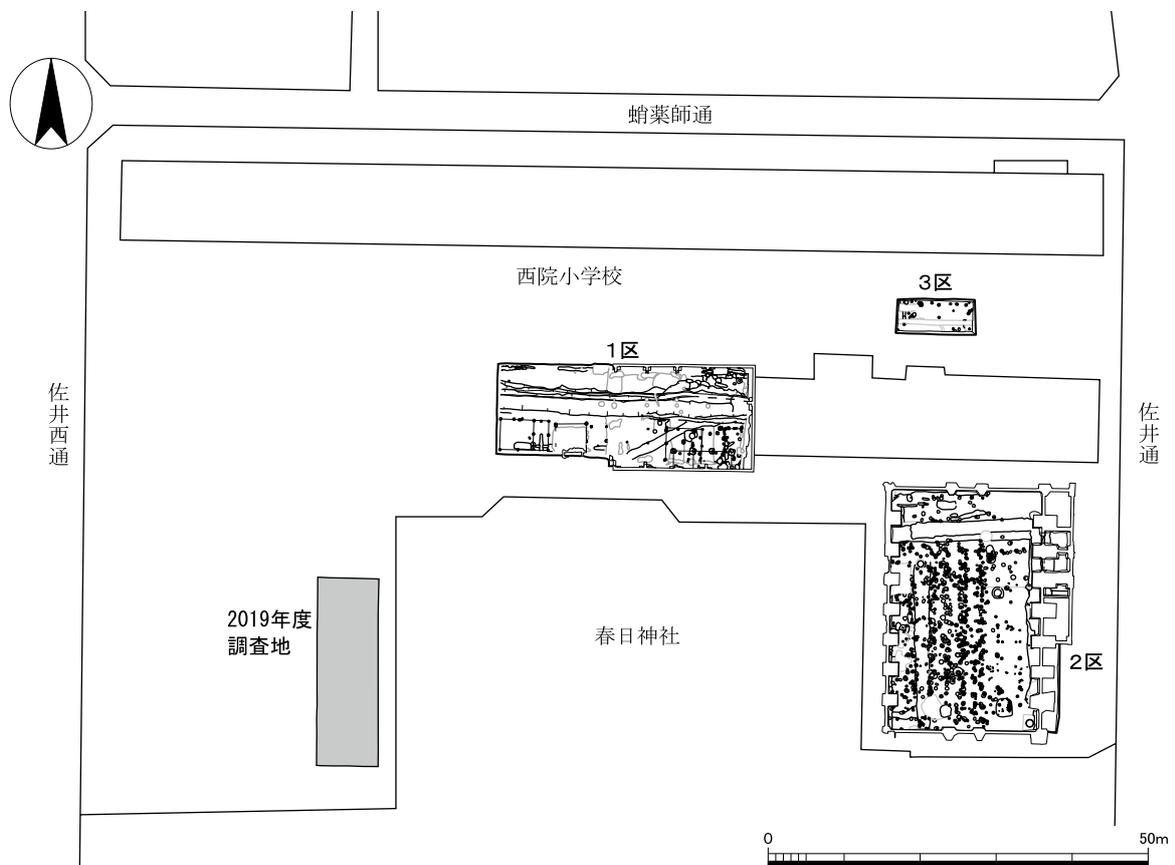


図2 調査区配置図（1：1,000）



図3 調査前全景（北西から）



図4 1区重機掘削状況（南西から）



図5 2区作業状況（北西から）



図6 2区ドローン撮影状況（北西から）



図7 小学生発掘調査見学（北東から）



図8 小学生遺物洗浄体験（南東から）



図9 広報発表（南西から）



図10 現地説明会（北から）

2. 位置と環境

(1) 地理的環境

京都盆地は北・東・西の三方を山地に囲まれた山間盆地である。盆地北部では、北からの賀茂川と北東部からの高野川が合流して鴨川となって南流し、さらに西側を流れる桂川と下鳥羽付近で合流する。平安京内の地形は、賀茂川や鴨川、紙屋川（天神川）などによって形成された複数の扇状地からなる¹⁾。

調査地は、京都盆地北西部に位置し、鴨川と紙屋川が形成した扇状地の末端付近に立地している。紙屋川扇状地の扇頂部標高は88m、扇端部標高は32mである。調査地の標高は29.3～29.6mを測り、旧河道の窪地であった可能性がある²⁾。

紙屋川は鷹ヶ峯を源流とし、京都盆地西部を南流して、西ノ京円町を経て流れを西に変え太秦の南東で御室川に合流した後、再び南流し吉祥院で桂川に合流する。現在の河道は昭和10年（1935）の京都大洪水の後に付け替えられたもので、それ以前はたびたび洪水を引き起こして流路の位置を変えていた。円町から南西に流れを変えた後、御池通と佐井通の交差点付近を通り、三条通で西へ、そして西小路（恵止利小路）を南下していたとされる。調査地の北側には、この旧河道の痕跡が北北東から南南西に向かう道路や地割として残っており、調査区一帯は紙屋川の下流域にあたり、その氾濫堆積物（砂礫層）の影響を受けていたと考えられる。

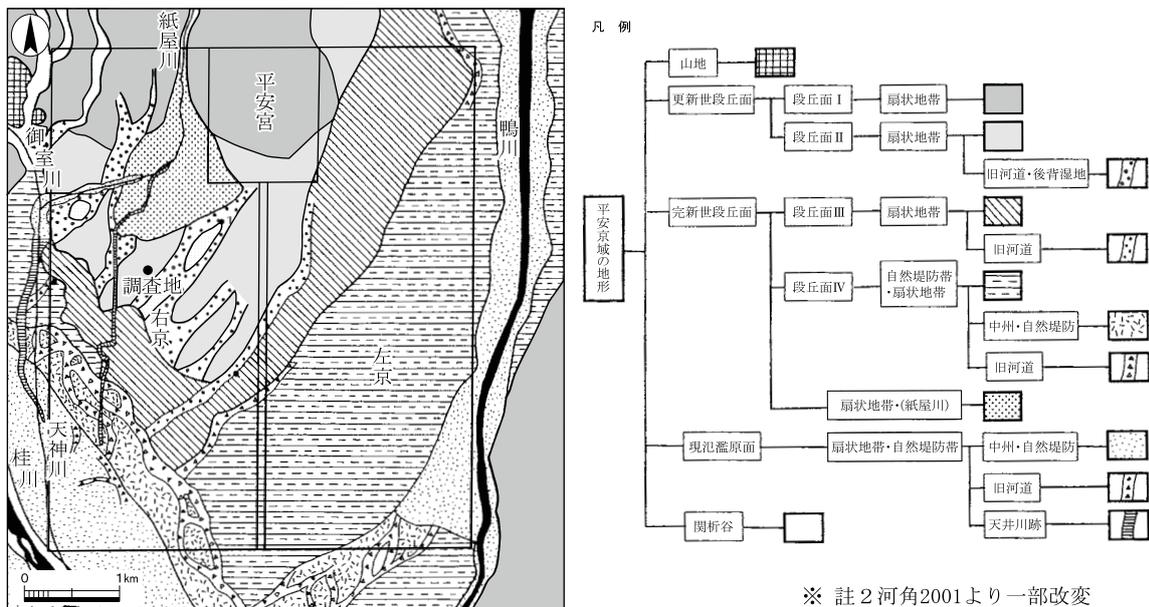


図11 平安京域の地形分類図（1：80,000）

(2) 歴史的環境

調査地は、延暦十三年（794）に長岡京から平安京へ都が遷ると平安京城となる。当地は平安京右京四条三坊三町跡に当たり、北は四条坊門小路、南は錦小路、東は道祖大路、西は宇多小路に囲まれる。道祖大路を挟んで東側の平安京右京四条二坊十一町から十四町には、淳和天皇の離宮である淳和院が存在した³⁾。

平安京右京四条三坊三町の居住者に関する記録は残っていないが、鎌倉時代中期に成立したとされる『拾芥抄』西京図によれば、当地は「小泉荘」の一部であったことがわかる⁴⁾。その範囲は、右京四条二坊から四坊、同五条一坊から四坊、同六条二坊から四坊内に飛び地ではあるが、総計62町を占める広大な荘園であったという。承暦二年（1078）の範俊解案（東寺観智院文書）によると、曼荼羅寺（後の随心院）寺務の執行をめぐって権律師義範と阿闍利伝燈大法師範俊との間に訴訟が起こっており、小泉荘の一部が曼荼羅寺寺務の管理下であったことがわかる。また、永保二年（1082）の永作手田宛行状（大徳寺文書）に「西院小泉御庄」の庄名がみえる。久安三年（1147）の源歆乃丸田路売券（同文書）や下野武至所領譲状（同文書）にも散見されるようになる。室町時代後期にも西院小泉の名は散見されるが、「親元日記別録」や「大乘院寺社雑事記」によれば、近衛家領西院庄と一乗院領西院庄があり、領有関係が錯綜していたとされる。

また、室町時代後期になると、調査地の南には小泉氏の築いた西院小泉城が存在したと推定されている⁵⁾。16世紀中頃に築かれ、短期間に破却されたとされる西院小泉城は、京都への西の入口付近に位置する重要な軍事拠点であった。

江戸時代になると、調査地周辺は数多くの寺社・堂上家の所領が複雑に入り組み分割領有されていたという。元和年中（1615～1624）に京都所司代が検地を行ったところ、158箇所の所領に分かれていたとされる。

江戸時代以降、調査地周辺は洛中の近郊農村として発達する。『京都府地誌』によると明治時代初期には西院村のほぼ半数が農業に従事していた。ところが、灌漑水路として御室川（天神川）があったものの、洪水の被害による田畑の被害が大きかったようである。そこで文化十二年（1815）に御室川上流に新堤を構築したが、二年後の大雨で決壊し、調査地付近は大被害を受けたとされる⁶⁾。

明治6年（1873）には第一区西院校（西院小学校）が開校した。『西院の歴史』によると、土地は西院春日神社境内を譲り受け、校舎は元唐橋家と若狭屋敷の建物を移して使用された⁷⁾。昭和6年（1931）に小学校の運動場を拡大した際に、西院春日神社と西院小学校との土地境界や校舎・校庭の配置が現在とほぼ同じ位置となったようである。なお、西院春日神社は、『山州名跡志』における記述や例祭の神輿に「元禄十四年」（1701）、鉾に「宝永七年」（1710）の銘があることから、18世紀初頭にはこの地に存在していたとみられる⁸⁾。

(3) 周辺の調査 (図12、表1)

調査地周辺では、これまでに多数の調査を実施している。主な調査成果については図12・表1にまとめた。以下では、主要な調査のみ取り上げ、時代順に概要を述べる。

旧石器時代から弥生時代 調査14で平安時代の整地層などから尖頭器・石鎌が出土している。周辺でこの時期に該当する遺構は検出されていないが、旧石器時代や縄文時代にさかのぼる遺跡が所在している可能性も考えられる。

古墳時代 調査14では、遺構は検出していないが、古墳時代中期の土師器・須恵器・滑石製模



図12 周辺調査位置図 (1 : 5,000)

表1 周辺調査一覧表

条坊	番号	所在地	調査期間	調査成果
三条二坊	十町	1 中京区西ノ京東中合町	2003.11.4 ～12.26	平安時代中期の掘立柱建物・土坑・溝、平安時代後期の野寺小路川・柵・柱穴群、室町時代の耕作溝・溝、江戸時代の耕作溝・溝・土採り穴。
		2 中京区西ノ京原町64	1982.6.17 ～7.10	古墳時代の溝・土坑、平安時代の西堀川・杭列・西堀川小路西側溝。
	十一町	3 中京区西ノ京下合町地内	2006.10.11 ～12.15	平安時代の溝・建物1棟・ピット群、平安時代中期の区画溝、鎌倉時代の耕作溝。
	十一町・十四町	4 中京区西ノ京下合町11(島津製作所)	1989.11.30 ～1990.2.23	平安時代中期の三条坊門小路南側溝・野寺小路西側溝、平安時代後期～鎌倉時代の野寺川・柱穴・柵列、室町時代の耕作溝、江戸時代の土取り穴。
		5 中京区西ノ京下合町20・21・22	2006.2.6 ～4.1	平安時代前期～中期前半頃の井戸・柱穴・溝、平安時代中期～鎌倉時代の川・水利施設・集石、室町時代～江戸時代の土取跡。
	十二町	6 中京区西ノ京新建町5-14～30	1978.11.10 ～1979.1.7	平安時代以前の溝、平安時代の溝・建物4棟・井戸。
	十三町	7 中京区西ノ京三条坊町14-1他	2005.2.22 ～3.8	平安時代の柱穴、室町時代の土採り跡、江戸時代の耕作関連溝、明治時代以降の畑地造成。
	十四町	8 中京区西ノ京下合町19ほか	2021.1.7 ～2.5	平安時代の柱穴列、室町時代の溝・土坑。
		9 中京区西ノ京下合町地内	1998.3.19 ～6.26	古墳時代の溝、平安時代前期～中期の三条坊門小路南側溝と内溝・道祖大路東側溝と内溝・掘立柱建物・塀・井戸、平安時代後期～室町時代の素掘り溝。
	十五町、三坊二町	10 中京区西ノ京東中合町、西中合町(御池通内)	2001.10.22 ～11.28	平安時代の土坑・柱穴群・溝・池・井戸、室町時代の土坑・溝、江戸時代の溝、近代の溝。
	十五町	11 中京区西ノ京東中合町7(西京商業高校)	1987.5.18 ～6.12	平安時代の東西溝・柱穴、室町時代の耕作溝群・土坑、江戸時代の耕作溝群・土坑。
	十五町、三坊三町	12 中京区西ノ京東中合町・桑原町	2005.8.8 ～9.2	平安時代前期の道祖大路東築地内溝・三条坊門小路南側溝・道祖川、平安時代中期の道祖大路西側溝・溝、中世～近世の耕作溝群。
三条三坊	三町	13 中京区西ノ京桑原町1	2012.11.26 ～2013.2.22	古墳時代の溝、平安時代の掘立柱建物・井戸・溝・道祖大路西側溝・土器埋納遺構、室町時代の溝。
		14 中京区西ノ京桑原町1	1980.4.10 ～7.15	古墳時代の溝、平安時代前期後半の掘立柱建物3棟・井戸。
		15 中京区西ノ京桑原町1	2009.4.6 ～6.23	古墳時代前期～中期の溝、平安時代前期の井戸・溝・土坑・柱穴、鎌倉時代～室町時代の溝・土坑・柱穴。
	四町	16 中京区西ノ京桑原町1	2012.3.5 ～6.1	古墳時代の溝、平安時代の大型掘立柱建物群・柱列・宇多小路と姉小路の内溝・礫敷・築地・柱穴、室町時代の耕作溝群・柱穴、江戸時代の土取穴。
		17 中京区西ノ京桑原町1(島津製作所)	1981.8.6 ～10.5	平安時代前期の道祖大路路面・西側溝・建物1棟・溝・土坑・落込、室町時代の溝・土坑。
	五町	18 中京区西ノ京桑原町1	1985.10.21 ～12.4	平安時代の建物2棟・柵・溝・土坑、室町時代以降の川・暗渠。
		19 中京区西ノ京日扇町地内	2017.5.1 ～12.14	古墳時代～飛鳥時代の流路・土坑、平安時代前期の大型建物・溝・土坑・姉小路路面・側溝・築地・水路、鎌倉時代以降の畦・耕作溝・土坑。
		20 中京区西ノ京桑原町1(島津製作所)	1988.8.22 ～11.18	平安時代前期の掘立柱建物2棟・柵・溝、室町時代後期の川(天神川旧流路)、時期不明の川。
十二町	21 中京区西ノ京桑原町1	1984.6.25 ～7.6	古墳時代の流路、鎌倉時代以降の耕土・暗渠。	
四条二坊	十一町	22 中京区壬生淵田町8他	2015.1.21 ～4.30	平安時代前期から中期の西堀川小路路面・西側溝・西堀川・築地底部・淳和院内溝、平安時代中期から後期の堤・石組溝・流路、鎌倉時代～室町時代の河川堆積層・土坑群(土取り穴)、安土桃山時代の御土居の土塁・堀。
	十三町	23 字淳和院第26	1927.4.23 ・25	平安時代の溝・瓦を検出。
		24 右京区西院巽町38-1・3～5、西淳和院町50-1・2、51	1992.11.10 ～1993.3.6	平安時代の大型建物・門・井戸・道路・鑄造施設・区画溝。
	十六町	25 右京区西院西今田町10	1988.5.6 ～8.16	平安時代前期～後期の道祖大路(川)・宅地内溝・区画溝・建物12棟以上・井戸(方形縦板組)・祭祀遺構2基・石組遺構・石敷遺構・土坑、室町時代の耕作溝。
四条三坊	三町	26 右京区西院春日町3-1	2019.6.17 ～8.9	平安時代前期の土坑、平安時代後期～鎌倉時代の柵・溝、室町時代の溝、江戸時代の建物。
	十一町	27 右京区西院春榮町41-3、41-7の一部	2013.4.9 ～5.10	平安時代前期の建物跡5基・柵2基・土坑3基、鎌倉時代の区画溝、室町時代の耕作溝・柱穴、江戸時代の杭跡。

造品が出土した。調査15では庄内式期の溝や落込を検出し、弥生土器や古墳時代の土師器・須恵器が出土した。

飛鳥時代 調査19では、平安京造営前の遺跡として西ノ京遺跡の古墳時代から飛鳥時代の流路・土坑を検出した。

平安時代 調査地の周辺では、平安時代前期から中期前半（8世紀末から10世紀前半）の建物・柵・井戸・土坑・柱穴など多数の遺構を検出している。特筆すべき調査として、三条三坊三町の調査14・15では、平安時代前期から中期前半の掘立柱建物5棟・柵・井戸・溝・湿地状の落込みなどを検出し、1町の範囲を分割して宅地として利用している状況が明らかとなった。三条三坊四町の調査16・17では、平安時代前期のコの字形に配置される3棟の大規模な掘立柱建物を検出した。三条三坊五町の調査18でも北東部で平安時代前期の建物2棟・柵・井戸などを検出した。調査19では、平安時代前期の掘立柱建物6棟・溝を検出した。調査20では、南東部で平安時代前期の大規模な掘立柱建物2棟・柵・井戸を検出した。調査19・20ともに平安京域で見つかった最大級の建物であることから、五町には1町規模の邸宅があったと推定された。三条三坊十二町の調査21では、ほぼ全域に広がる湿地を検出し、湿地や河川を避けた地形条件が良い場所に建物などの選地が行われたことがわかった。調査23・24は、淳和院の存在した平安京右京四条二坊十二・十三町で行われた発掘調査である。調査23は、昭和2年（1927）、平安京跡で初めて行われた考古学的調査で、平安時代の溝や瓦を検出した。調査24では、平安時代の前期から後期にわたる建物群を検出し、淳和院に関連すると考えられる前期の遺構として大型建物や門、鑄造施設を検出した。

平安京の街路では、調査1・4・5で野寺小路・野寺小路川、調査2・22で西堀川小路・西堀川、調査4・9・12で三条坊門小路、調査9・12・13・17・25で道祖大路・道祖川、調査16で宇多小路、調査16・18で姉小路にかかわる遺構を検出した。

調査地周辺では、西堀川が平安時代中期に埋没して機能を停止したのち、隣接する野寺小路や道祖大路の路面を掘削して、新たに大規模な溝（水路）を開削した状況が明らかとなったことが特筆できる。周辺地域の洪水・排水対策を目的とした平安京の都市整備事業の一つとして評価されている。⁹⁾

鎌倉時代以降 調査地周辺では、居住に関連する遺構は検出されておらず、広い範囲にわたって耕作土と耕作溝を検出している。調査5では野寺小路川が掘削され、用水を取水するためと思われる堰も検出していることから、周辺で水田などの土地利用が存在したことが考えられる。

註

- 1) 石田志郎「京都盆地北部の扇状地－平安遷都時の京都の地勢－」『古代文化』第34巻第12号 古代学協会 1982年
- 2) 河角龍典「平安京における地形環境変化と都市的土地利用の変遷」『考古学と自然科学』第42号 日本文化財科学会 2001年
- 3) 西田直二郎・梅原末治・中村直勝『京都府史蹟勝地調査会報告 第8冊』京都府 1927年（後、『京都史蹟の研究』吉川弘文館 1961年に再録）

- 4) 「小泉荘」に関しては以下の文献を参考にした。
 山田邦和「左京と右京」『平安京提要』角川書店 1994年
 『京都市の地名』日本歴史地名大系第27巻 平凡社 1979年
 竹内理三「講座 日本荘園史」『日本歴史』第145・156号 吉川弘文館 1960・1961年
- 5) 『京都府中世城館跡調査報告書 第三冊 -山城編1-』京都府教育委員会 2014年
- 6) 『京都市の地名』日本歴史地名大系第27巻 平凡社 1979年
- 7) 小澤嘉三「第二編 西院後記 第八章 西院教育史」『西院の歴史』西院の歴史編集委員会 1983年
- 8) 松吉祐希『平安京右京四条三坊三町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2019-5 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2019年
- 9) 山田邦和「左京と右京」『平安京提要』角川書店 1994年
 山本雅和「平安京の街路と宅地」『平安京の住まい』京都大学学術出版会 2007年
 南 孝雄「衰退後の右京-十世紀後半から十二世紀の様相-」『平安京の地域形成』京都大学学術出版
 2016年

文献（表1 周辺調査一覧表）

- 1 津々池惣一『平安京右京三条二坊十五町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2003-8 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2004年
- 2 平尾政幸・辻 純一「右京三条二坊」『昭和57年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1982年
- 3 モンペティ恭代『平安京右京三条二坊十一町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2006-24 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2007年
- 4 木下保明「平安京右京三条二坊2」『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1994年
- 5 布川豊治『平安京右京三条二坊十四町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2006-1 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2006年
- 6 平尾政幸「平安京右京三条二坊跡」『平安京跡発掘調査概要 京都市埋蔵文化財研究所概要集1978年』京都市文化観光局 1979年
 「平安京右京三条二坊十二町」『昭和53年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2011年
- 7 山口 眞『平安京右京三条二坊十三町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2004-19 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2005年
- 8 岡田麻衣子『平安京右京三条二坊十四町跡・西ノ京遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2020-9 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2021年
- 9 南 孝雄「平安京右京三条二坊」『平成10年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2000年
- 10 百瀬正恒・上村和直『平安京右京三条二坊十五町・三坊二町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2001-6 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2002年
 「平安京右京三条二坊十五町・三坊二町跡」『平成13年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2004年

- 11 本 弥八郎「平安京右京三条二坊」『昭和62年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1991年
- 12 卜田健司『平安京右京三条二坊十五町・三坊三町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2005-5 財団法人京都市埋蔵文化財研究所2005年
- 13 南 孝雄『平安京右京三条三坊三町跡・西ノ京遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2012-23 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2013年
- 14 『平安京右京三条三坊』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第10冊 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1990年
「平安京右京三条三坊三町」『昭和55年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2011年
- 15 山本雅和・田中利津子・竜子正彦『平安京右京三条三坊三町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2009-4 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2009年
- 16 田中利津子『平安京右京三条三坊四町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2012-4 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2012年
- 17 『平安京右京三条三坊』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第10冊 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1990年
平尾政幸・中村 敦「右京三条三坊」『昭和56年度 京都市埋蔵文化財調査概要（発掘調査編）』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1983年
- 18 平尾政幸・本 弥八郎「平安京右京三条三坊」『昭和60年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1988年
- 19 山本雅和・末次由紀恵『平安京右京三条三坊五町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2017-15 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2018年
- 20 平尾政幸「平安京右京三条三坊」『昭和63年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1993年
- 21 平尾政幸「平安京右京三条三坊」『昭和59年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1987年
『平安京右京三条三坊』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第10冊 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1990年
- 22 布川豊治・持田 透『平安京右京四条二坊十一町・西堀川小路跡、御土居跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2015-1 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2015年
- 23 西田直二郎・梅原末治・中村直勝『京都府史蹟勝地調査会報告 第8冊』京都府 1927年（後に『京都史蹟の研究』吉川弘文館 1961年に再録）
- 24 吉川義彦『淳和院跡発掘調査報告書 平安京右京四条二坊』関西文化財調査会 1997年
- 25 辻 裕司「平安京右京四条二坊」『昭和63年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1993年
- 26 松吉祐希『平安京右京四条三坊三町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2019-5 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2019年
- 27 近藤奈央『平安京右京四条三坊十一町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2013-1 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2013年

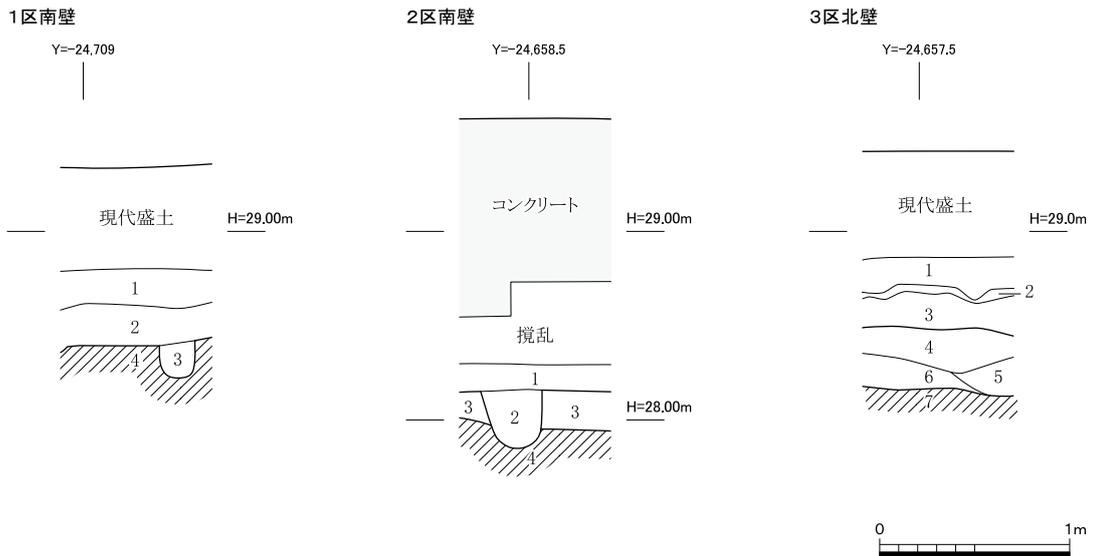
3. 遺 構

(1) 基本層序 (図13)

調査地は現状では現代盛土のためほぼ平坦になっており、標高は29.3～29.6mである。

1区の基本層序は、現地表面から順に現代盛土が0.6～1.0m、中世耕作土が0.3～0.4m堆積する。その下層は、細砂や砂礫層からなる基盤層となる。調査は基盤層上面で行った。

2・3区の基本層序は、現地表面から順に現代盛土が0.5～1.2m堆積する。2区の東半と3区では、現代盛土の下に砂礫を主体とする氾濫堆積層が0.2～0.3m堆積する。その下に中世耕作土が0.2～0.3m堆積し、平安時代中期後半の整地層が0.2～0.4m堆積する。その下がシルトや砂礫層からなる基盤層となる。調査は基盤層上面を遺構面として行い、平安時代中期後半の整地層が堆積するところでは、その上面を第1面、基盤層上面を第2面とした。



1区南壁

- | | | |
|---|--|-------|
| 1 | 10YR4/4褐色 細砂～粗砂 土器片・炭化物少量 | 近世耕作土 |
| 2 | 10YR3/3暗褐色 シルト～細砂 φ0.5～1cm礫多量 | 中世耕作土 |
| 3 | 10YR4/3こぶい黄褐色 粘土～細砂 φ0.2cm礫微量 | 柱穴125 |
| 4 | 2.5Y6/4こぶい黄色 シルト～細砂+2.5Y4/6オリーブ褐色 細砂～礫 | 基盤層 |

2区南壁

- | | | |
|---|---|-------|
| 1 | 10YR4/3こぶい黄褐色 細砂～礫 φ1.5cm礫・土器片少量 | 耕作土 |
| 2 | 10YR4/1褐灰色 粗砂～礫 φ0.5～3cm礫少量、土器片微量 | 柱穴988 |
| 3 | 10YR4/2灰黄褐色 細砂～礫 φ1～3cm礫・土器片・炭化物多量、φ20cm石少量 | 整地層 |
| 4 | 2.5Y6/4こぶい黄色 シルト | 基盤層 |

3区北壁

- | | | |
|---|--|-------|
| 1 | 10YR4/4褐色 粗砂～礫 φ0.2～1cm礫多量 | 洪水層 |
| 2 | 10YR5/3こぶい黄褐色 細砂 炭化物微量 | |
| 3 | 10YR4/2灰黄褐色 細砂～礫 φ1～2cmの礫・炭化物・土器片多量 | 中世耕作土 |
| 4 | 10YR4/2灰黄褐色 細砂 φ0.1cm礫・炭化物多量 | 整地層 |
| 5 | 10YR3/2黒褐色 細砂～粗砂 φ0.1cm礫多量、炭化物・土器片少量 | |
| 6 | 10YR3/2黒褐色 細砂～粗砂 φ0.1～0.5cm礫多量、粘土塊・炭化物少量 | |
| 7 | 2.5Y6/4こぶい黄色 シルト～細砂 φ0.2cm礫少量 | 基盤層 |

図13 基本層序図 (1:40)

(2) 遺構の概要 (表2)

遺構は、大きく4つの時期に分かれる。第1期は奈良時代、第2期は平安時代前期から中期、第3期は平安時代後期から鎌倉時代前半、第4期は室町時代以降である。

1区では、第1期の遺構は溝4、第2期の遺構は建物5、第3期の遺構は建物1～4、第4期の遺構は溝121と耕作溝を検出した。

2区では、第2期の遺構として、溝900(道祖大路西側溝)と路面1100(道祖大路路面)・川962(道祖川西肩部)を検出した。また、柱穴列1・2、井戸211、溝681・1102・1183・1199・1200、落込み1175・1246を検出した。第3期の遺構は、建物6～10、井戸1037、溝150・176・351・945、石列1075、柱穴列3、柱穴群を検出した。

3区では、第2期の遺構として、溝1303を検出した。第3期の遺構は柱穴列4、柱穴群を検出した。

以下、調査区ごとに各時期の主要な遺構について述べる¹⁾。

(3) 1区の遺構 (図版1～4・30、図14～16)

1) 第1期 奈良時代 (図版1・30)

溝4 (図14) 1区の南東部で検出した北東から南西方向の素掘り溝である。北東部は溝121によって削平されており、南西部は浅くなり途切れる。検出規模は幅1.4～1.65m、深さ約0.25m、長さ約13.0mある。底面の標高は28.06mである。断面形は浅い逆台形で、埋土は黒褐色の細砂からなる。平城宮Ⅱの土師器杯Aが1点出土した。

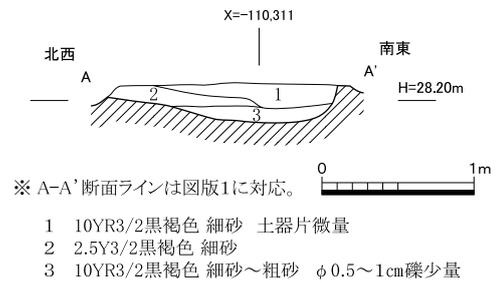


図14 溝4断面図 (1:50)

表2 遺構概要表

時代	遺構	備考
奈良時代	1区: 溝4	第1期
平安時代前期 ～中期	1区: 建物5 2区: 井戸211、溝900(道祖大路西側溝)、路面1100(道祖大路路面)、川962(道祖川)、溝681・1102・1183・1199・1200、落込み1175・1246、柱穴列1・2 3区: 溝1303	第2期
平安時代後期 ～鎌倉時代前半	1区: 建物1～4 2区: 建物6～10、井戸1037、溝150・176・351・945、石列1075、柱穴列3、柱穴群 3区: 柱穴列4、柱穴群	第3期
室町時代	1区: 溝121、耕作溝	第4期

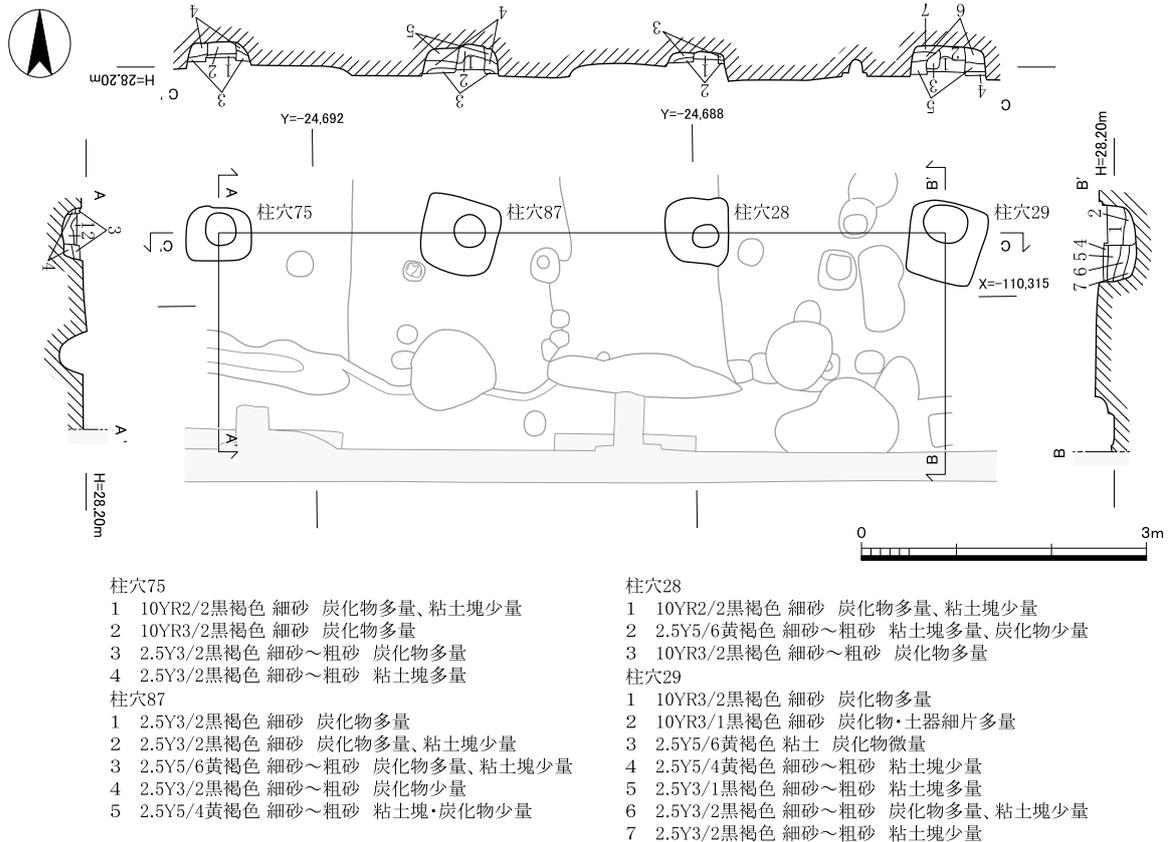


図15 建物5実測図（1：80）

2) 第2期 平安時代前期から中期（図版1・30）

建物5（図15、図版30） 1区の南東部で検出した掘立柱建物である。建物の方位は正方位である。検出規模は東西3.68m、南北2.3m以上ある。北側では対応する柱穴が検出されていないため、南へ延びる梁行3間×桁行1間以上の建物であったと考えられる。北側の柱列は3間で柱間は2.5～2.6m（約8.5尺）ある。柱穴の掘形は隅丸方形を呈する。検出規模は一辺0.68～0.84m、深さ0.2～0.36mある。柱痕跡は径0.3～0.48mある。

3) 第3期 平安時代後期から鎌倉時代前半（図版1・30）

建物1（図版3・30） 1区の南西部で検出した掘立柱建物である。桁行2間×梁行2間の身舎の東面に庇が付く。建物の方位は北に対して西へ約5度振れる。検出規模は東西6.4m、南北4.0mある。身舎の東西柱列は2間で柱間は1.92～2.4m、南北柱列は2間で柱間は1.8mと不揃いである。庇の出は約2.0mである。柱穴の掘形は円形または楕円形を呈する。柱穴の検出規模は径0.24～0.4m、深さ0.08～0.28mある。柱痕跡は径0.12～0.16mある。埋土から5B～6A段階の土器器皿の細片が少量出土した。

建物2（図版3・30） 1区の南西部で検出した掘立柱建物である。建物の方位は北に対して東へ約1度振れる。南部は、攪乱を受けて失われている。検出規模は東西4.5m、南北2.3m以上ある。東西柱列は1間で柱間は4.5mであり、南北柱列は1間で柱間は2.3mである。柱穴の掘形は円形ま

で27.3m、東端では27.2mで、西から東へわずかに低くなる。断面形は逆台形状を呈する。埋土の下層では流水堆積が確認できるが、部分的に南肩の崩れ落ちた土が認められる。また溝121の東半の北肩は、粘土で人為的に埋めている。埋土から9～10段階の土器が出土した。

(4) 2区の遺構 (図版5～18・31～36、図17～24)

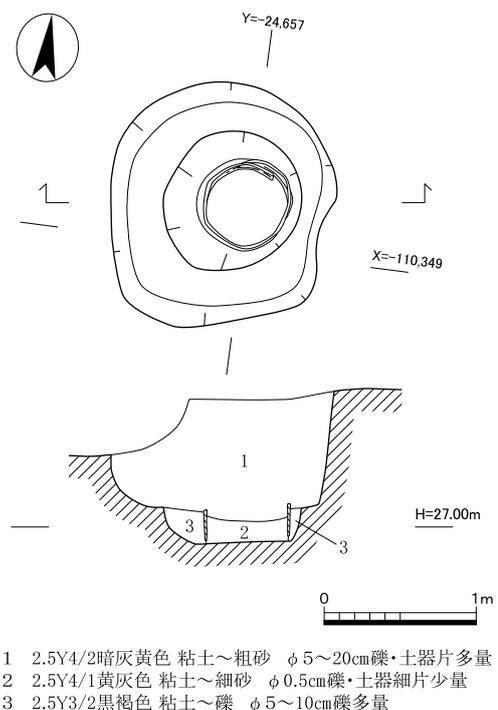
1) 第2期 平安時代前期から中期 (図版5・31)

井戸211 (図17、図版33) 2区の南部で検出した。掘形の平面形は隅丸方形を呈し、検出規模は東西約1.5m、南北約1.6mで、深さ約1.0mある。底面の標高は26.9mである。井戸枠の最下部には径0.58m、高さ0.26mの水溜の曲物が据え付けられている。埋土から3B段階の遺物が出土した。

溝900 (道祖大路西側溝) (図版7・9～10・32) 2区の中央東寄りで検出した南北方向の素掘り溝である。南北両端は調査区外へ延びる。道祖大路西築地推定ラインより約1m東に位置する。検出規模は幅4.5～5.4m、深さ0.4～0.6m、長さ約31.5mある。断面形は逆台形状を呈する。底面の標高は北端で27.45m、中央で27.27m、南端では27.01mで、北から南へ低くなる。東西の肩部はほぼ一直線をなしており、底面は凹凸がある。西岸には、西肩より1.3～2.0m東に砂礫からなる基盤層に打ち込まれた護岸の杭が断続的に残っている。埋土は上下2層に大別できる。上層は、黒褐色シルトを主体とし、西側溝が機能を失ってからのもどみ堆積層である (図版9-31・32層、図版10-39層)。下層は、径1～6cmの礫を多く含む堆積層である (図版9-33～35層、図版10-40～43層)。上層からは4B～4C段階の遺物、下層からは3A～3B段階の遺物が出土した。

路面1100 (道祖大路路面) (図版10・11・32) 2区中央東寄りに位置する道祖大路の道路相当部である。検出規模は幅約4.4m、長さ約29.0m、標高は27.64m前後である。溝900と川962の間で検出したが、上面には溝150・945が掘り込まれているため、南北に土手状に検出した。北端は調査区外へ延びるが、南端は溝150・945に削平される。基盤層上面である暗灰黄色の礫層が露出したもので、当時機能面であるかは不明である。

川962 (道祖川) (図版10・11・32) 2区の東端部で検出した南北方向の水路である。北端は調査区外へ延びており、南端は建物基礎の解体が不可能であったため確認できなかった。西肩部は浸食され、底部は凹凸がみられる。東肩部は未検出である。検出規模は幅1.0～1.2m、深さ約0.4m、長さ約13.5mある。断面形は逆台形状を呈する。底面の標高は北端で27.6m、中央で27.2m、南端では27.5mで、北から南へ低くなる。埋土は径3～8cmの砂礫層が堆積し、3段階と思われる須恵器片が少量出土した。



- 1 2.5Y4/2暗灰黄色 粘土～粗砂 φ5～20cm礫・土器片多量
- 2 2.5Y4/1黄灰色 粘土～細砂 φ0.5cm礫・土器細片少量
- 3 2.5Y3/2黒褐色 粘土～礫 φ5～10cm礫多量

図17 井戸211実測図 (1:50)

溝681・1102・1183・1199・1200 (図版12・33) 2区中央部で検出した溝群である。平面形は不正形である溝1183と細長形の溝681・1102・1199・1200からなり、各々の溝が合流するような形で検出した。溝1183の検出規模は、幅2.1～3.4m、深さ0.1～0.15m、長さ約7.8mある。他の溝681・1102・1199・1200の検出規模は、幅0.3～0.8m、深さ約0.2m、長さ3.6～4.8mある。断面形は浅いU字形と逆台形状を呈する。底面の標高は、北端で27.9m、西端で27.9m、南端では27.86m、溝が合流する中央は27.8m、東端は27.76で低い。埋土から2B～2C段階の遺物が出土した。

落込み1175 (図版7) 2区北端で検出した。平面形は不整形で、北は調査区外へ延びる。検出規模は南北約6.2m、東西約3.4m、深さ0.25～0.45mある。軟弱な地盤にできた窪みを埋めた整地の単位の可能性がある。埋土から2B段階の遺物が出土した。

落込み1246 (図版8) 2区北西部で検出した。平面形は北東から南西に延びる縦長形を呈する。北東は溝352によって削平されており、南西は調査区外へ延びる。検出規模は南北約2.4m、東西約5.1m、深さ0.5～0.63mある。落込み1175と同じく、軟弱な地盤にできた窪みを埋めた整地土の可能性がある。埋土から2B段階の遺物が出土した。

柱穴列1 (図18) 2区の南西部で検出した南北方向の柱穴列である。方位は北に対して西へ約2度振れる。検出長は4.8mである。柱間は1.9～2.4mである。柱穴の掘形は円形または楕円形を

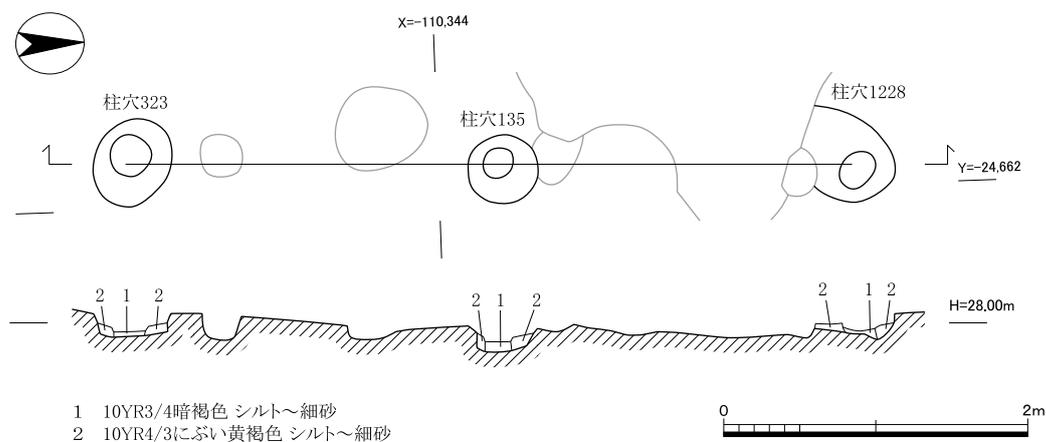


図18 柱穴列1実測図 (1:50)

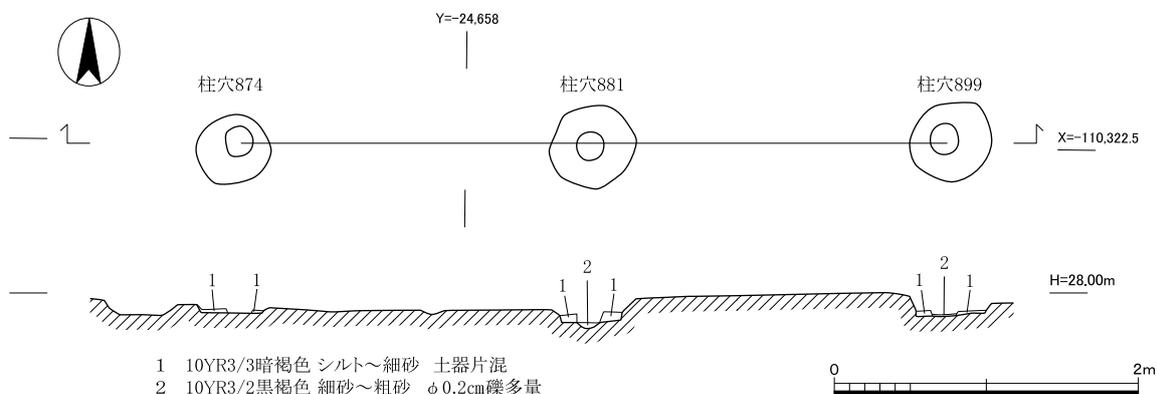


図19 柱穴列2実測図 (1:50)

呈する。検出規模は径0.45～0.6m、深さ0.10～0.16mある。埋土から2C～3B段階と思われる遺物細片が少量出土した。

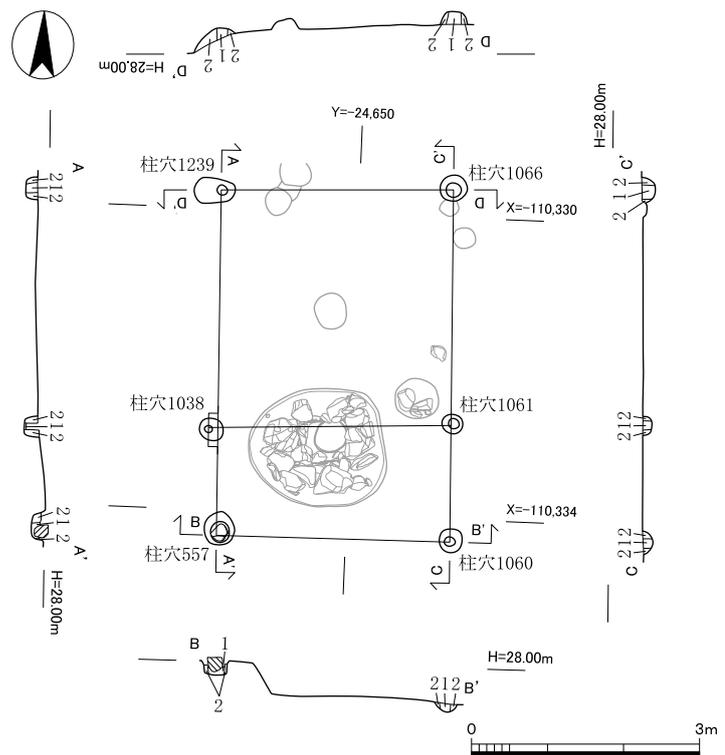
柱穴列2 (図19) 2区の北部で検出した東西方向の柱穴列である。方位は北に対して東へ約1.5度振れる。検出長は4.6mである。柱間は約2.3mである。柱穴の掘形は円形を呈する。検出規模は径0.5～0.58m、深さ0.05～0.15mある。埋土から3B～3C段階と思われる遺物の細片が少量出土した。

2) 第3期 平安時代後期から鎌倉時代前半 (図版6・34)

建物6 (図版13・34) 2区の北西部で検出した東西棟の総柱掘立柱建物である。建物の方位は、ほぼ正方位である。桁行4間×梁行3間を検出した。柱間は桁行が1.9～2.4m (6.5～8尺)、梁行が2.1～2.3m (7～7.5尺)である。柱穴の平面形は、円形ないし楕円形を呈する。検出規模は径0.3～0.4m、深さ0.15～0.35mある。柱穴542の底部には柱根が遺存している。柱穴597の底部には、平瓦を3枚積み重ねて据え付けており、礎石に転用したと思われる。

建物7 (図20、図版34) 2区の中央東寄りで検出した南北棟の掘立柱建物である。井戸1037に伴う屋形と思われる。検出規模は桁行不等間の2間、梁行は1間である。建物の方位は、ほぼ正方位である。柱間は北から桁行3.1・1.4m (10尺・4.5尺)、梁行3.0m (10尺)である。柱穴の平面形は、円形ないし楕円形を呈する。検出規模は径0.3～0.4m、深さ0.15～0.35mある。柱穴557の底部には礎石を据える。

建物8 (図版18・34) 2区の南西部で検出した東西棟の総柱掘立柱建物である。建物の方位は、ほぼ正方位である。桁行3間×梁行3間を検出した。柱間は桁行が2.1～2.4m (7～8尺)、梁行が2.1～2.4m (7～8尺)である。柱穴の平面形は、ほぼ円形を呈する。検出規模は径0.3～0.6m、深さ0.1～0.4mある。柱穴299の底部には礎石、柱



- | | |
|----------------------------|----------------------------|
| 柱穴1239 | 柱穴1060 |
| 1 10YR4/3にぶい黄褐色 細砂 土師器片 | 1 2.5Y4/2暗灰黄色 細砂 炭化物少量 |
| 2 10YR3/2黒褐色 粗砂 φ1～5cm礫少量 | 2 2.5Y3/3暗オリーブ褐色 細砂 土師器片少量 |
| 柱穴1038 | 柱穴1061 |
| 1 2.5Y3/2黒褐色 細砂 | 1 10YR3/1黒褐色 シルト 土師器片 |
| 2 2.5Y3/3暗オリーブ褐色 細砂 炭化物少量 | 2 10YR3/1黒褐色 粗砂 炭化物少量 |
| 柱穴557 | 柱穴1066 |
| 1 10YR3/2黒褐色 細砂 炭化物・土師器片少量 | 1 10YR3/2黒褐色 細砂 |
| 2 10YR4/3にぶい黄褐色 細砂 炭化物少量 | 2 10YR3/1黒褐色 細砂～粗砂 土師器片 |

図20 建物7実測図 (1:100)

穴309には根石に転用したと思われる丸瓦が据え付けている。

建物9（図版14・15・34） 2区の北東部で検出した東西棟の総柱掘立柱建物である。建物の方位はほぼ正方位である。桁行4間×梁行4間を検出した。柱間は桁行0.21～0.25m（7～8.5尺）、梁行0.19～0.21m（6.5～7尺）である。柱穴の平面形は、円形ないし楕円形を呈する。検出規模は径0.25～0.56m、深さ0.12～0.45mある。

建物10（図版16・17・34） 2区の南部で検出した南西棟の掘立柱建物である。桁行6間×梁行5間を検出した。建物の方位は、ほぼ正方位である。柱間は桁行2.1～2.85m（7～9.5尺）、梁行2.1～2.4m（7～8尺）である。柱穴の平面形は、円形ないし楕円形を呈する。検出規模は径0.3～0.55m、深さ0.15～0.47mある。柱穴275には根固め石として軒丸瓦を据える。

井戸1037（図21、図版36） 2区の中央東寄りで検出した。井戸枠の上部は円形の石組、下部は方形の木組みである。掘形の平面形は円形を呈し、検出規模は東西約1.8m、南北約1.6mで、深さ約0.88mある。底面の標高は26.98mである。石組に使用された石材は自然石で、石の大きさは径34～55cmある。木組みには直径約5cm、長さ約38cmの丸木を並べて方形に組み立てられており、丸木の両端は尖らせ杭のように加工している。横棧は、直径約5cm、長さ約56cmで、方形に組み立てられているが、東側の横棧は残っていない。木組みに使われた木材は、すべてモミ属である。井戸枠の最下部には径0.45m、高さ0.25mの水溜の曲物が据え付けられている。出土遺物には4B～4C段階の土器類が出土したほか、瓦類・木製品などがある。

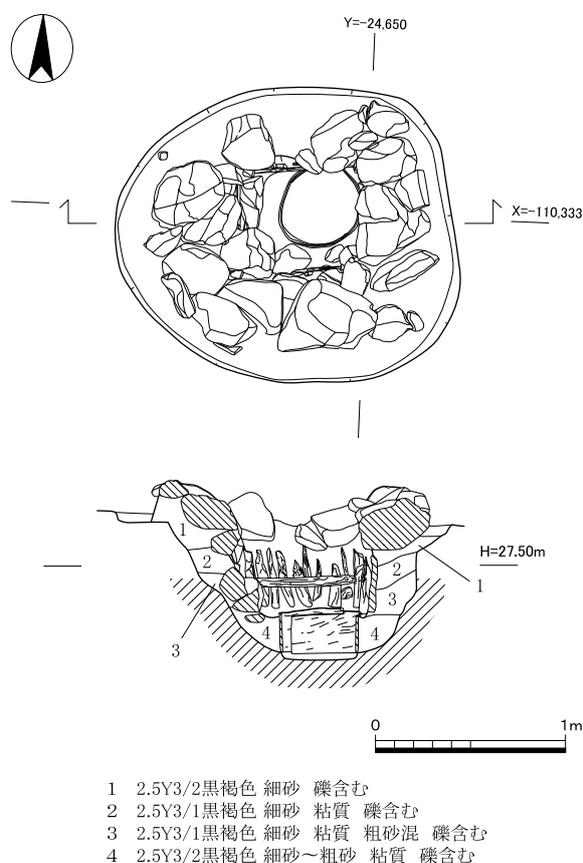


図21 井戸1037実測図（1：40）

溝176（図22） 2区の西部で検出した南北方向の素掘り溝である。北端・南端は浅くなり途切れる。検出規模は幅1.7～2.2m、深さ約0.2m、長さ約19mある。断面形は逆台形状を呈する。底面の標高は中央が約30mである。埋土から6段階と思われる土師器皿の細片が少量出土した。

溝150（図版10・11・35） 2区の東部で検出した南北方向の素掘り溝である。溝の方位は、北に対して西へ約2度振れる。部分的に既存の建物基礎による攪乱を受けているが、北端は溝351と接続して逆L字状に曲がることを確認した。東肩は溝945に削平される。南端は調査区外に延びるが、南壁断面では確認できない。検出規模は幅1.4～1.7m、深さ約0.5m、長さ約23.0mある。断面形は逆台形状を呈する。底面の標高は北端で27.3m、南端では27.2mで、北から南へ低くなる。埋

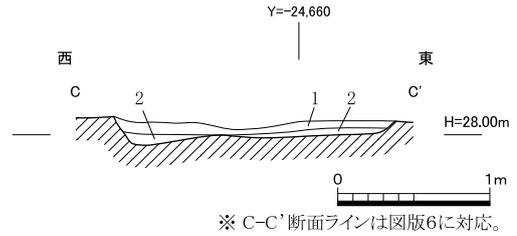
土は黒褐色細砂が主体で、5A～6A段階の遺物が出土した。

溝945（図版9～11・35）2区の東部で検出した南北方向の素掘り溝である。北半は既存の建物基礎による攪乱を受けており、北壁断面では確認できない。南半は建物基礎の解体が不可能であったため確認できていないが、南壁断面で確認できる（図版9-8～13層）。溝の方位は、北に対して東へ約3

度振れる。検出規模は幅1.3～1.6m、深さ0.3～0.42m、長さ約8.3mある。断面形は逆台形状を呈する。底面の標高は北端で27.33m、中央で27.28m、南端では27.32mで、北から南へわずかに低くなる。埋土は大きく2層に分かれるが、上層はオリーブ褐色粗砂～礫が主体となり、下層は黒褐色シルト～細砂が堆積する。下層から5A～5B段階の遺物が出土した。

溝351（図版11・35）2区の北部で検出した東西方向の素掘り溝である。西端は調査区外へ延びるが、東端は溝150・945と接続して逆L字状に曲がる。検出規模は幅2.2～2.9m、深さ0.20～0.66m、長さ約18.2mある。断面形はU字状を呈する。Y=-24,662ライン付近から東部は二段掘りで掘削され、底面の標高は西端で27.66m、東端では27.20mで、西から東へ低くなる。埋土の下層では流水堆積が確認できる。埋土から6A～6B段階の遺物がまとまって出土した。

石列1075（図23、図版35）2区の北東部で検出した東西方向の石列である。全長約4.5mである。石の大きさは、大きいもので短辺25cm・長辺35～40cm、小さいもので短辺8～15cm・長辺12～30cmである。東側は石がほぼ直線に並んでいるが、溝900（道祖大路西側溝）を埋め立て整地する際の作業単位である可能性がある。西側は土坑状の窪みを石や瓦で埋めている。人為的に掘り込んだものではなく整地する際に窪みを瓦と石で埋めたものと思われる。



- 1 10YR4/3にぶい黄褐色シルト φ5cm礫少量
- 2 10YR4/2～3/2黒褐色シルト
+10YR5/2～6/2灰黄褐色 微砂～シルト φ4cm礫少量

図22 溝176断面図（1：50）

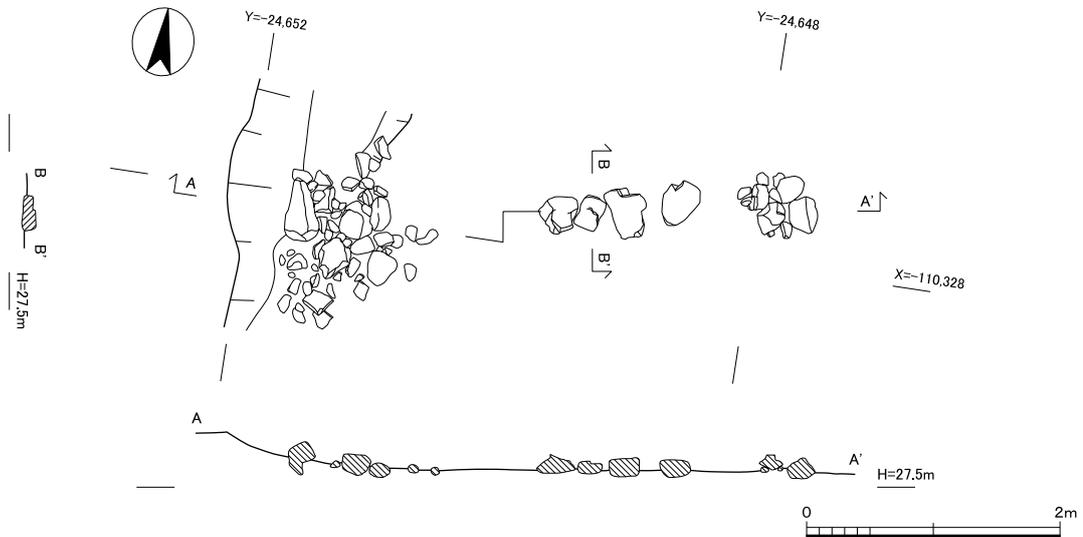


図23 石列1075実測図（1：60）

柱穴列3 (図24) 2区の東部中央で検出した南北方向の柱穴列である。平安時代中期整地層と溝150の埋土上面で成立する。方位は北に対して西へ約1度振れる。1間分の柱穴列で、柱間は2.6mである。柱穴の掘形は円形を呈する。検出規模は径0.65～0.80m、深さ0.23～0.55mある。埋土から5段階と思われる遺物の細片が少量出土した。柱穴の位置や規模から、門の可能性も考えられる。

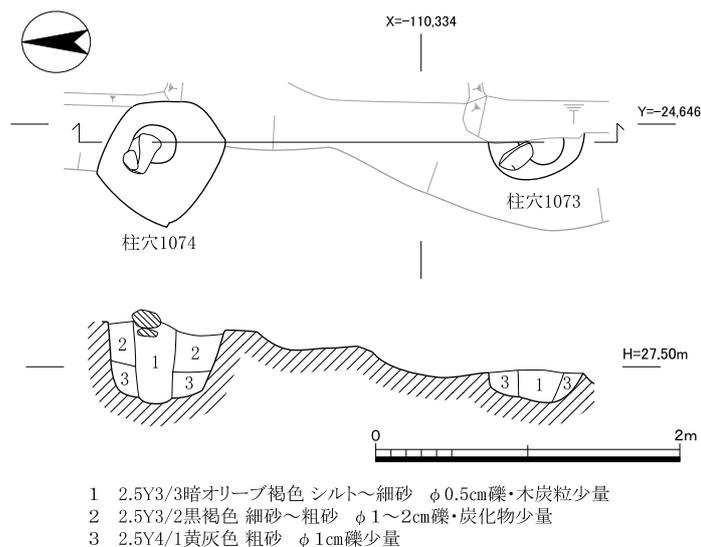


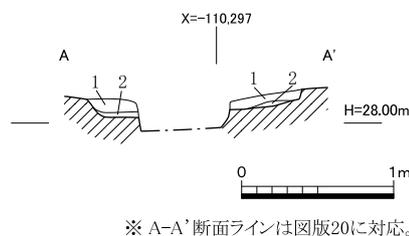
図24 柱穴列3実測図 (1 : 50)

柱穴群 2区全域で900基以上の柱穴を検出した。平安時代中期後半の整地層の上面で成立する。柱穴の掘形は円形または楕円形を呈する。検出規模は径0.2～0.6m、深さ0.05～0.6mある。地下式礎石をもつものや、瓦を据えるものもある。各柱穴の埋土からは、5～6段階の土器類や奈良時代から平安時代後期までの瓦類が出土した。

(5) 3区の遺構 (図版19・36、図25・26)

1) 第2期 平安時代前期から平安時代中期 (図版19・36)

溝1303 (図25) 3区の中央で検出した。東西方向の素掘り溝が数条からなる。東西両端は調査区外へ延びる。溝の中央部は、攪乱を受けて失われている。検出規模は幅1.7～2.0m、深さ0.13～0.15m、長さ約9.7mある。断面形は逆台形状を呈する。底面の標高は西端で27.92m、東端では28.05mで、東から西へ低くなる。軟弱な地盤にできた窪みを埋めた整地土の可能性がある。埋土は黒褐色のシルト～粗砂からなり、3段階と思われる土師器の細片が少量出土した。



- 1 10YR2/2黒褐色 シルト～細砂
 φ0.2cm礫・木炭粒少量
 2 10YR3/2黒褐色 粗砂
 φ0.1cm礫多量、炭化物微量

図25 溝1303断面図 (1 : 50)

2) 第3期 平安時代後期から鎌倉時代前半 (図版19・36)

柱穴列4 (図26) 3区の北部で検出した東西方向の柱穴列である。方位は北に対して東へ約3度振れる。検出長は6.2mである。柱間は0.9～1.6mの不等間隔で、作り替えが考えられる。柱穴の平面形は円形または楕円形を呈し、検出規模は径0.25～0.3m、深さ0.15～0.2mある。埋土から3段階と思われる土師器の細片が少量出土した。

柱穴群 3区全域で数基の柱穴を検出したが、建物として復元できるものはない。平安時代中期

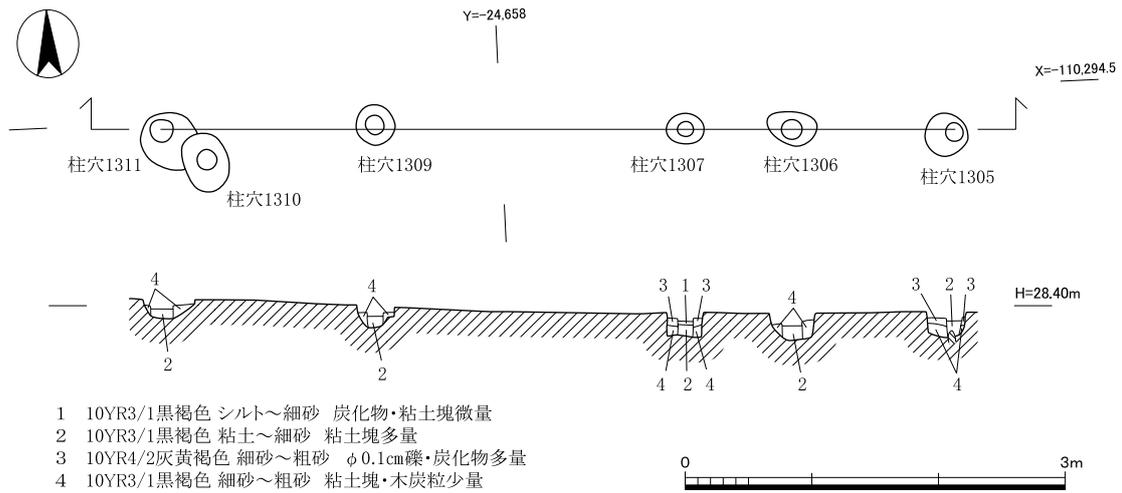


図26 柱穴列4実測図(1:60)

後半の整地層の上面で成立する。柱穴の平面形は円形または楕円形である。検出規模は径0.2～0.4m、深さ0.1～0.3mある。各柱穴の埋土からは、4B段階と思われる土師器皿の細片が少量出土した。

註

1) 各遺構から出土した土器の型式は、以下の文献に拠る。

西弘海1978「考察 土器」『平城宮発掘調査報告』Ⅶ 奈良国立文化財研究所(『土器様式の成立とその背景』真陽社 1986年に所収)

平尾政幸「土師器再考」『洛史 研究紀要 第12号』公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2019年

750年	840年	930年	1020年	1110年	1170年	1260年	1350年	1410年	1500年	1590年	1680年	1740年	1800年	1860年
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
A B C	A B C	A B C	A B C	A B	A B C	A B C	A B A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B A B	A B	A B

4. 遺 物

(1) 遺物の概要

遺物は、整理用コンテナに263箱出土した。出土遺物には土器・陶磁器類、瓦類、土製品、木製品、石製品、金属製品、動物・植物遺存体などがある。土器・瓦類が全体の9割以上を占め、それ以外は少量である。

出土遺物の時期は、奈良時代、平安時代前期から中期、平安時代後期から鎌倉時代、室町時代の各時期である。平安時代前期から中期、平安時代後期から鎌倉時代のものが大半を占める。奈良時代、室町時代の遺物は少量で1割に満たない。

奈良時代の遺物は、1区の溝4から土師器皿が1点出土した。

平安時代前期から中期の遺物は、溝900（道祖大路西側溝）と井戸211からまとまって出土した。

平安時代後期から鎌倉時代の遺物は、溝352から多量に出土した。特徴的な遺物として、2区整地層と3期の柱穴群から淳和院に関連すると考えられる土器・瓦類が一定量出土した。

室町時代の遺物は、1区の溝121から少量出土した。

以下では、主要遺構から出土した遺物について、種類別に概要を述べる。なお、出土遺物の分類と時期については、平城宮編年¹⁾と平尾政幸氏の編年案²⁾に拠る。

表3 遺物概要表

時 代	内 容	コンテナ箱数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
奈良時代	土師器、瓦類		土師器1点、瓦類26点		
平安時代前期～中期	土師器、白色土器、須恵器、黒色土器、灰釉陶器、緑釉陶器、輸入陶磁器、青磁、瓦類、土製品、金属製品、動植物遺存体		土師器23点、白色土器2点、須恵器19点、黒色土器11点、灰釉陶器8点、緑釉陶器13点、輸入陶磁器3点、青磁2点、瓦類68点、土製品2点、金属製品2点		
平安時代後期～鎌倉時代	土師器、須恵器、黒色土器、灰釉陶器、緑釉陶器、瓦器、輸入陶磁器、瓦類、土製品、石製品、木製品、金属製品、動植物遺存体		土師器60点、須恵器3点、黒色土器2点、灰釉陶器3点、瓦器18点、輸入陶磁器13点、金属製品2点、木製品5点、土製品1点、石製品2点、瓦類2点		
室町時代以降	土師器、瓦器、施釉陶器、染付、焼締陶器、金属製品		土師器2点、瓦器3点、施釉陶器4点、染付1点、焼締陶器3点、金属製品3点		
合 計		281箱	307点 (18箱)	4箱	259箱

※ コンテナ箱数の合計は、整理後、Aランクの遺物を抽出したため、出土時より18箱多くなっている。

(2) 土器類

1) 奈良時代

溝4出土土器(図27、図版37 1) 1は土師器の杯Aである。底部内面には内螺旋状暗文を施す。体部内面には、内面の中心から1段目に右放射状暗文、2段目に斜放射状暗文を施す。時期は平城宮Ⅱに相当する。

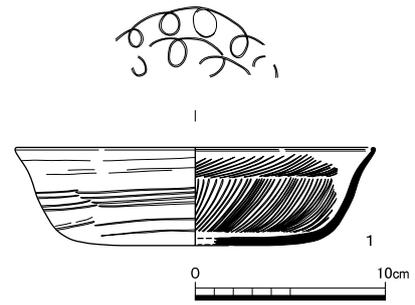


図27 溝4出土土器実測図(1:4)

2) 平安時代前期から中期

溝1183出土土器(図版20・37 2~7) 土師器皿・杯・高杯・甕、須恵器杯・鉢・壺・甕、黒色土器椀、丸瓦・平瓦などが出土した。

2は土師器の杯Bである。外面はヘラケズリ、内面はナデ調整を施す。底部に貼り付け高台をもつ。3・4は黒色土器のA類椀である。5・6は須恵器である。5は杯B、6は鉢の口縁部である。7は土師器甕の体部で、外面に煤が付着する。いずれも2B~2C段階に属する遺物である。

落込み1246出土土器(図版20 8~10) 土師器皿・壺・高杯、須恵器杯・壺・甕、黒色土器椀、緑釉陶器椀、丸瓦・平瓦が出土した。

8は土師器皿である。9は須恵器の壺である。底部は平底で、轆轤成形による糸切り痕が残る。10は猿投産の緑釉陶器椀である。体部外面に輪花が1箇所あり、全面に黄味を帯びた緑釉を掛ける。いずれも2B段階に属する遺物である。

落込み1175出土土器(図版20・37 11~20) 土師器皿・杯、須恵器鉢・壺・甕、黒色土器椀・甕、灰釉陶器椀、緑釉陶器椀、丸瓦・平瓦などが出土した。

11~14は土師器である。11・12は皿、13・14は底部に貼り付け高台をもつ杯Bである。15~17は黒色土器である。15・16はA類の椀で、内面に緻密なヘラミガキ、暗文が施される。外面上位は黒色化がみられる。17はA類の甕である。口縁部外面に黒色化がみられる。18は須恵器鉢の口縁部である。19は猿投産の灰釉陶器皿である。20は緑釉陶器で、体部の中央に稜をもつ稜椀である。口縁部の一部は赤変する。愛知県名古屋市所在の熊ノ前古窯跡群第4地区(NN285号窯・NN-85号窯)に類例がみられる³⁾。猿投産である。いずれも2B段階に属する遺物である。

井戸211出土土器(図版20・37 21~33) 土師器皿・盤・高杯・羽釜、須恵器杯・鉢・壺・甕、黒色土器椀・鉢・甕、灰釉陶器椀・壺、緑釉陶器椀、軒瓦・丸瓦・平瓦などが出土した。

21~24・33は土師器である。21~23は皿Aで、口径は10.0~10.7cmにまとまる。口縁部はいわゆる「て」の字状に屈曲する。24は高杯の脚部である。断面は10角形である。25・26は黒色土器である。25はB類の甕、26はB類の大型の鉢である。27~29は須恵器である。27は鉢の口縁部である。28は壺の肩部に付く耳部で、円孔をもつ。29は壺の底部である。30は灰釉陶器である。壺の口縁部で、美濃産である。31・32は緑釉陶器の椀で、近江産である。33は土師器の羽釜である。外面には鏝を貼り付け、横方向のナデや指押さえを施す。鏝の下面と体部外面に煤が付着する。い

ずれも3B段階に属する遺物である。

溝900（道祖大路西側溝）下層出土土器（図版21・37 34～48） 土師器皿・高杯・羽釜・甕、須恵器皿・杯・鉢・壺・甕、黒色土器椀・甕、灰釉陶器皿・椀・壺、緑釉陶器皿・椀・壺・浄瓶、輸入青磁椀、軒瓦・丸瓦・平瓦、木製品、金属製品、貝・骨類、種子などが出土した。

34は黒色土器である。B類の椀である。35～39・48は須恵器である。35は皿B、36～39は壺である。36・38・39の底部は平底で、轆轤成形による糸切り痕が残る。40～42は灰釉陶器である。40は美濃産の皿である。41は椀の底部で、内面に墨痕が残存することから硯に転用したと考えられる。42は壺の頸部で、ほぼ直立気味で立ち上がる。43～46は緑釉陶器である。43～45は皿である。45の底部は平底で、轆轤成形による糸切り痕が残る。46の体部と底部の内面には、緑釉が体部から垂れて底部で溜まっているように残存しており、浄瓶の底部とみられる。47は土師器の羽釜である。48は須恵器の甕である。体部の外面には平行叩き目を施し、内面には当て具で調整している痕跡が残る。いずれも3A～3B段階に属する遺物である。

溝900（道祖大路西側溝）上層出土土器（図版21・37 49～63） 土師器皿・高杯・羽釜・甕、須恵器杯・鉢・壺・甕、黒色土器椀・甕、灰釉陶器皿・椀、緑釉陶器椀、輸入青磁椀、軒瓦・丸瓦・平瓦・塼などが出土した。

49～56・63は土師器である。49～54は皿Aで、口径は9.7～10.8cmでまとまる。口縁部はいわゆる「て」の字状に屈曲する。55・56は皿Nである。57～59は黒色土器で、B類の椀である。内外面に緻密なヘラミガキを施す。61・62は灰釉陶器である。61は皿、62は椀である。60は須恵器の鉢である。63は土師器の甕である。口縁部と体部の外面一部に煤が付着する。いずれも4B～4C段階に属する遺物である。

3) 平安時代後期から鎌倉時代

整地層出土土器（図版22・37 64～81） 土師器皿・高杯・羽釜・壺・甕、須恵器杯・鉢・壺・甕、黒色土器椀・甕、灰釉陶器皿・椀・壺、緑釉陶器椀、瓦器椀、輸入青磁椀・白磁椀、軒瓦・丸瓦・平瓦などが出土した。

64～74は土師器である。64～68は皿A、69は皿Ac、70～74は皿Nである。75・76は黒色土器である。B類の椀で、内外面ともに緻密なヘラミガキを施す。77～79は灰釉陶器の椀である。78は高台断面が三角形を呈する。80・81は輸入陶磁器の白磁椀である。いずれも4B～4C段階に属する遺物である。

井戸1037出土土器（図版22・37 82～99） 土師器皿・高杯・甕、須恵器杯・鉢・甕、灰釉陶器椀、緑釉陶器椀、瓦器椀、輸入白磁椀、軒瓦・丸瓦・平瓦、木製品などが出土した。

82～94は土師器である。82～89は皿Aで、口径は9.4～10.7cmにまとまる。90は皿N小、91～93は皿N中である。94は高杯の脚部である。断面は7角形で、混入品である。95・96は瓦器の椀である。内外面ともに密なヘラミガキを施す。97～99は白磁椀の口縁部である。いずれも4B～4C段階に属する遺物である。

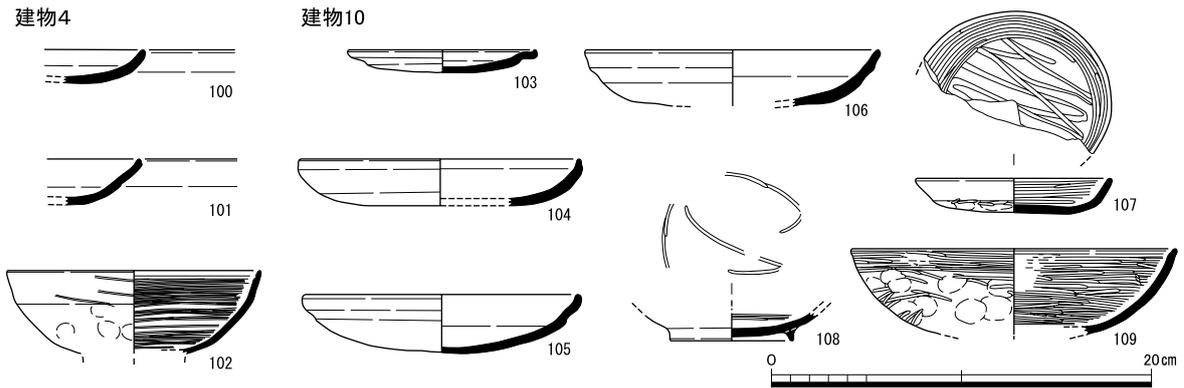


図28 建物4・10出土土器実測図（1：4）

建物4出土土器（図28 100～102） 各柱穴の埋土から4～6段階に属する土師器皿、須恵器の杯、瓦器椀、丸瓦などが出土した。いずれも小片で図化できるものは100～102の3点のみである。100は柱穴13、101・102は柱穴15から出土した。100・101は土師器の皿、102は瓦器椀の口縁部である。100～102は5B～6A段階に属する遺物である。

建物10出土土器（図28 103～109） 各柱穴の埋土から4～6段階に属する土師器皿・高坏・甕・壺・鍋、須恵器杯・鉢・甕、灰釉陶器椀・鉢、瓦器皿・椀、輸入白磁椀、丸瓦・平瓦などが出土した。いずれも小片で図化できるものは103～109の7点のみである。103・104は柱穴1027、105は柱穴207、106～109は柱穴357から出土した。

103～106は土師器の皿である。103は皿A、104～106は皿Nである。107～109は瓦器である。107は皿、108・109は椀である。103～109は4B～5A段階に属する遺物である。

溝150出土土器（図版23・38 110～121） 土師器皿・甕・羽釜、須恵器杯・鉢・壺・甕、灰釉陶器椀・壺、瓦器皿・椀・盤、輸入白磁椀、軒平瓦・丸瓦・平瓦、木製品、骨類、種子などが出土した。

110～117は土師器である。110・111は皿N小、112～117は皿N中である。118・119は瓦器である。118は皿で、底部内面に暗文を施す。119は椀である。120・121は輸入白磁椀である。いずれも5A～6A段階に属する遺物である。

溝945出土土器（図版23 122～130） 土師器皿・甕、須恵器杯・鉢・甕、瓦器椀、輸入白磁椀、軒平瓦、丸瓦・平瓦、木製品などが出土した。

122～127は土師器である。122～125は皿N小、126・127は皿N中である。128～130は瓦器椀である。130は底部内面に暗文を施す。いずれも5B段階に属する遺物で、混入品である。

溝351出土土器（図版23・24・38 131～158） 土師器皿・壺・甕、須恵器杯・鉢・壺・甕、灰釉陶器椀、瓦器椀・盤・鍋・羽釜、施釉陶器椀・甕、輸入青磁皿・椀・白磁椀、軒瓦・丸瓦・平瓦、石製品、木製品、土製品、骨類などが出土した。

131～144は土師器である。131～141は皿N小で、口径は8.3～9.1cmにまとまる。142・143は皿Ndである。144は皿Sである。145～150は瓦器である。145は皿で、底部内面にジグザグの暗文を施す。146は鍋の口縁部である。147は盤の口縁部である。148～150は羽釜で、149は脚部である。

151～156は輸入陶磁器である。151は青磁皿、152～154は青磁碗である。152の底部内面には釉剥ぎする。151・153・154は龍泉窯系青磁である。156は中国産の褐釉陶器壺の口縁部である。157・158は須恵器である。157は片口鉢、158は東播系甕の口縁部である。いずれも6A～6B段階に属する遺物である。

溝176出土土器（図版24 159～162） 土師器皿、須恵器鉢・壺・甕、灰釉陶器碗、瓦器碗・盤、丸瓦・平瓦などが出土した。いずれも小片で図化できるものは159～162の4点のみである。

159・160は土師器皿Nである。161は瓦器盤の口縁部である。162は須恵器鉢の口縁部である。いずれも6段階に属する遺物である。

4) 室町時代

溝121出土土器（図版24・38 163～175） 土師器皿・甕・羽釜、須恵器鉢・甕、瓦器碗・盤、焼締陶器壺・播鉢・甕、施釉陶器皿・碗・鉢・壺・甕、輸入青磁碗、青磁碗・壺、白磁皿・碗、丸瓦・平瓦・道具瓦、金属製品、土製品、木製品などが出土した。

163・164は土師器皿である。163は皿Sh、164は皿Nである。165～167は瓦器である。165は羽釜の鏝部と口縁部である。166は平面方形の火鉢である。2条の突帯の間に雷文のスタンプが連続押捺される。167は火鉢または風炉で、肩部に菊花文スタンプが押捺される。168～170は施釉陶器である。168は古瀬戸の皿、169は古瀬戸鉢である。170は天目茶碗の高台部である。171は、輸入青磁皿である。172は輸入青磁碗である。底部内面に鳥文を施す。173～175は焼締陶器である。173・174は備前、175は信楽の播鉢である。いずれも9～10段階に属する遺物である。

5) その他の土器（図版25・38）

2区の溝900上層・下層と整地層、柱穴から淳和院に関連する可能性も考えられる遺物が出土した。

176は土師器の高杯で、脚部である。残存高21.2cmを測るやや大型のものである。断面7角形に面取りを施す。2区溝900下層から出土した。

177・178は白色土器である。177は碗の高台である。外面に「⊕」が墨書される。2区溝900上層から出土した。178は短頸壺の高台である。底径は15.4cmを測る。平安京左京二条二坊十町（高陽院）跡に類例がみられる¹¹⁾。2区溝900下層から出土した。

179～183は須恵器である。179は須恵器壺である。平底で、轆轤成形による糸切り痕が残る。「×」字状のヘラ記号がある。2区溝900下層から出土した。180は薬壺の蓋である。2区整地層から出土した。181は短頸壺である。頸部と体部の一部が残存し、自然釉が掛かる。体部外面に輪花が1箇所ある。2区溝150から出土した。182は壺である。肩部に付く耳部は円孔をもつ。口径は11.9cmを測る。2区柱穴884から出土した。183は壺である。体部外面の一部と底部の内外面に自然釉が掛かる。底径は16.8cmを測る。2区柱穴408から出土した。

184は灰釉陶器である。火舎または薬壺の高台である。底径は26.2cmを測る。体部と接合した剥

離面が残存する。2区整地層から出土した。

185～189は緑釉陶器である。185～187は椀である。185は全面に黄味を帯びた緑釉を掛ける。底部内面に陰刻花文が施される。2区溝900下層から出土した。186は高台に「×」字状のヘラ記号がある。2区整地層から出土した。187は2区溝900下層から出土した。いずれも京都産である。188は鉢である。全面に暗緑色の緑釉が掛かる。口縁部に重ね焼きの痕跡が残る。美濃産か。2区溝900上層から出土した。189は花瓶である。体部と台脚部の境界に圈線が巡り、体部と台脚部の外面に淡緑色の釉を施す。密教法具の垂字形花瓶を模したものとみられる。2区整地層から出土した。京都市東山区所在の総山遺跡に類例がみられる¹²⁾。

190～194は、輸入青磁である。190は椀で、蛇の目高台である。2区溝900下層から出土した。191は椀で、底部内面と高台外面には重ね焼き痕が残る。2区溝900上層から出土した。192は壺の底部である。底径は9.4cmを測る。底部は削り出しの蛇の目高台で、高台外面には目跡が付く。胎土や釉からみて優品と思われる。2区柱穴598から出土した。193・194は緑釉陶器である。193は香炉蓋の小片である。透かし孔の間に陰刻文の細工が施される。東海産である。2区溝900上層から検出した。194は大椀の底部である。底径は約22.4cmと推定される。2区整地層から出土した。

(3) 瓦類

今回の調査では、遺物整理箱約115箱分の瓦類が出土した。瓦の種類は、軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦、塼である。

1) 軒瓦 (図版27～30・39・40、図29～31)

軒瓦の出土点数は、軒丸瓦40点、軒平瓦54点の計94点で、瓦範の違いから軒丸瓦は18型式19種、軒平瓦は20型式21種に分類した。ただし瓦当面残存部が少なく種類を分類できなかったものもある。出土した遺構は、大半が溝900の埋土および整地層であるが、柱穴から出土しているものが少数あり、これらは根固めとして2次利用されていたと考えられる。こうした出土状況から、今回出土した瓦のほとんどは、当地で検出した建物に葺かれていたものではなく、東側の淳和院跡で使用された瓦と考えられる。

出土した瓦の時期は、大きく奈良時代、平安時代前期、平安時代中期、平安時代後期に分けられる。奈良時代は26点(瓦1～8・21～26・41～48・61～64)、平安時代前期は60点(瓦9～13・27～37・50～58・65～93)、平安時代中期は6点(瓦15～18・61・39)、平安時代後期は2点(瓦20・40)である。

以下では、今回の調査で出土した軒瓦の全体の概要・特徴を中心に報告する。個々の軒瓦の文様的特徴・手法の特徴、生産窯・型式について判明しているものは付表1・2に記載した。また、瓦の遺物番号については、瓦1～40が実測図を掲載しているもので、瓦41～94が瓦当面拓影のみを掲載しているものである。瓦1～40は図29・30にも再掲載している。

軒丸瓦では、大山崎瓦窯産OY105型式⁴⁾が最多で9点(軒丸瓦の内約22%)、次いで難波宮式の重圈文が8点出土(軒丸瓦の内20%)しており、この2型式で軒丸瓦全体の半数近くを占める。瓦

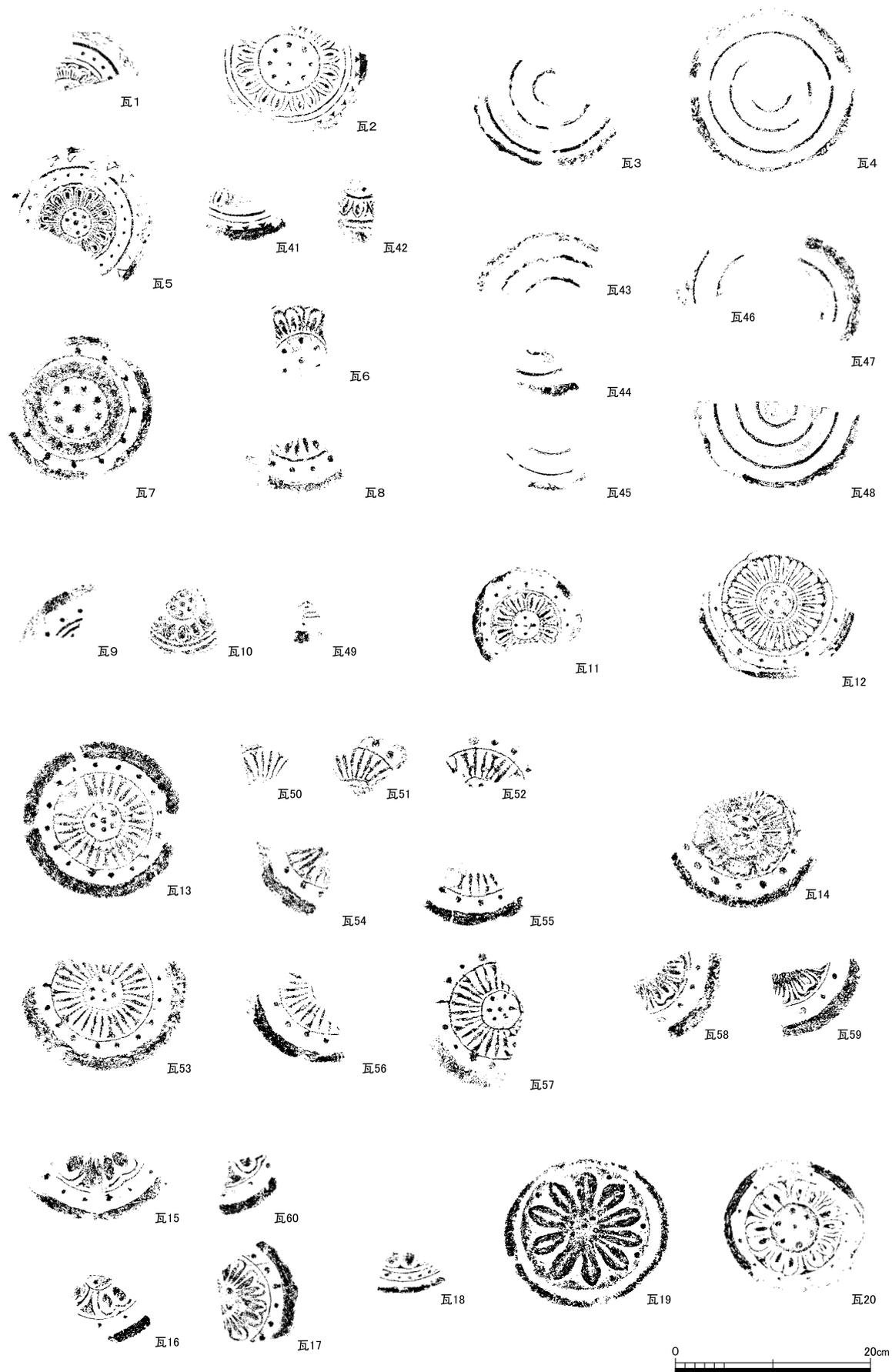


图29 軒丸瓦拓影 (1 : 6)

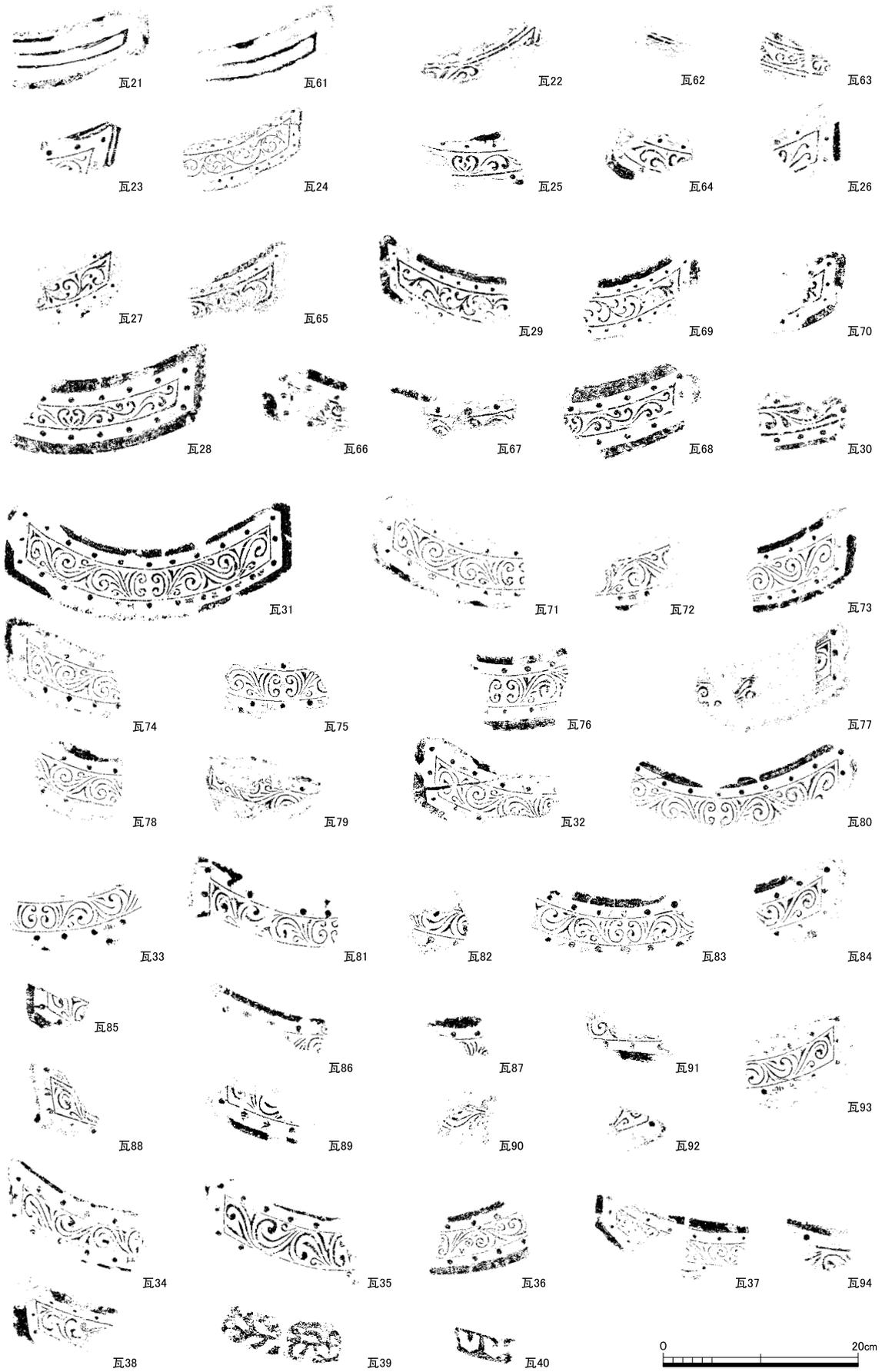


图30 軒平瓦拓影 (1 : 6)

9・10・49は西賀茂瓦窯産のNS154型式に分類できるが、9・49は小片のためA・Bの判別はできなかつた⁵⁾。瓦11は複弁8葉蓮華文で瓦当径12.2cmの小型瓦である。生産窯は不明である。瓦19は単弁10葉蓮華文で、瓦当は楕円形を呈する。生産地、時期ともに不明である。

軒平瓦では、瓦当面に銘があるものが複数種類出土している。1つは下部珠文間に「土 □松瓦屋」銘があるもの⁶⁾（図31）で、今回の調査では2種12点（軒平瓦の内約22%）出土している。この瓦の銘は生産窯を示していると考えられるが、いまだ場所の特定にはいたっていない⁷⁾。またこの内、瓦32・80は瓦当部左側が大きく范割れをしており、同様のものが檀林寺からも収集されている。2つめは、右下部珠文間に「西」銘があるもので、大山崎瓦窯産OY205b型式である。この瓦が今回出土した軒平瓦の中で最も多く、14点出土（軒平瓦の内約26%）している。上記2型式で軒平瓦全体の半数近くを占める。3つめは左下部珠文間に「上」銘があるもので、この瓦は上ノ庄田瓦窯産である⁸⁾。4つめは、瓦36の「大井寺」銘唐草文軒平瓦で、唐草文の右第1主葉中の「大」が逆字である。同范瓦が嵐山などで出土している¹⁰⁾。



図31 瓦31
「土 □松瓦屋」銘

2) 塼 (図32)

塼は計8点出土したが、厚さにより2種類に分けられる。すべて敷塼である。

塼1は残存長さ17.3cm、残存幅13.6cm、厚さ5.9cmある。側面に指頭痕が残り、割れた面には成形型に粘土を押し込んだ痕跡が認められる。2区溝900上層から出土した。ほかに、2区整地層か

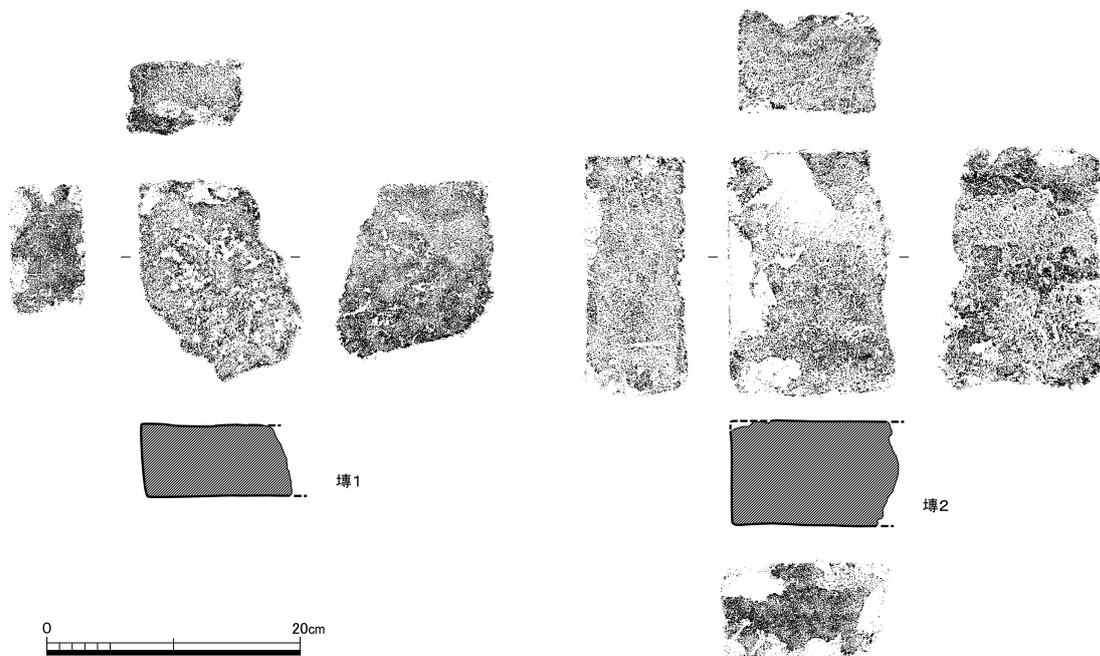


図32 塼拓影及び実測図（1：6）

ら2点、2区溝900の上層から1点、2区柱穴183から1点出土した。

埴2は残存長さ19.6cm、残存幅15.0cm、厚さ9.5cmある。割れた面を含め全面に被熱した痕跡が認められ、割れた面には成型時に粘土を押し込んだ痕跡が認められる。2区整地層から出土した。ほかに、2区整地層から1点、2区溝900の上層から1点出土した。

(4) 土製品 (図33)

土1は土製円塔である。鏝部は欠損する。半球状の円塔部に緑釉が施されるが、一部剥離している。2区溝351から出土した。

土2は須恵器で、風字硯の硯面片である。全面を丁寧なケズリ調整を施す。縁部の内面に墨痕が認められる。2区整地層から出土した。

土3は須恵器で、圈足円面硯の破片である。回転ナデ調整によって海部が作られているが、浅い。硯面の一部には平滑になっており、墨痕と使用痕が認められる。脚台部には切り込みが残る。外堤径は約14.0cmを測る。2区溝900下層から出土した。

(5) 木製品 (図34)

木1は下駄である。台と歯を一木から作る連歯下駄である。歯の一部は欠損する。

指圧痕の状況から左足用と考えられる。1区井戸1037から出土した。

木2は部材である。木釘が5.7cmの等間隔で3箇所残存する。残存長さ18.0cm、幅1.8cm、厚さ2.3cm。2区溝351から出土した。

木3は木栓である。細かいケズリで先細りに加工する。先端部はやや尖るように加工し、中央に穴をあけている。長さ5.4cm、直径3.5cm。2区溝150から出土した。

木4・5は円形曲物の底板である。木4は、表面にケズリ調整による加工痕が残り、柿渋が塗ってある。直径13.2cm、厚さ1.1cm。2区井戸1037から出土した。木5は、半分欠損する。側面には木釘の痕跡が1箇所認められる。直径9cm、厚さ0.4cm。2区溝945から出土した。

(6) 石製品 (図35)

石製品には、砥石、石鍋、凝灰岩片などがある。図化できたものを掲載する。

石1は砥石である。4面に使用痕が認められる。2区溝900上層から出土した。

石2は滑石製鍋の口縁部である。内外面に煤が付着する。2区溝351から出土したが、図示したもの以外に小片が5点出土している。

(7) 金属製品 (図36)

銭貨7点が出土した。その他に、鎌の刃とみられるものが出土したが、腐食が激しいため掲載していない。

金1～4は皇朝十二銭である。金1は「貞観永寶」で、貞観12年(870)に铸造された。2区溝

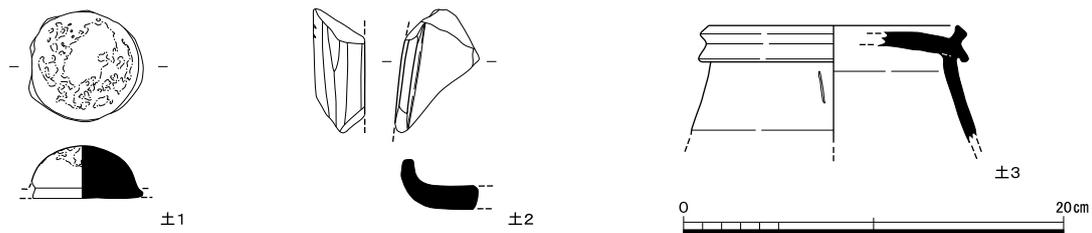


图33 土製品実測図 (1 : 4)

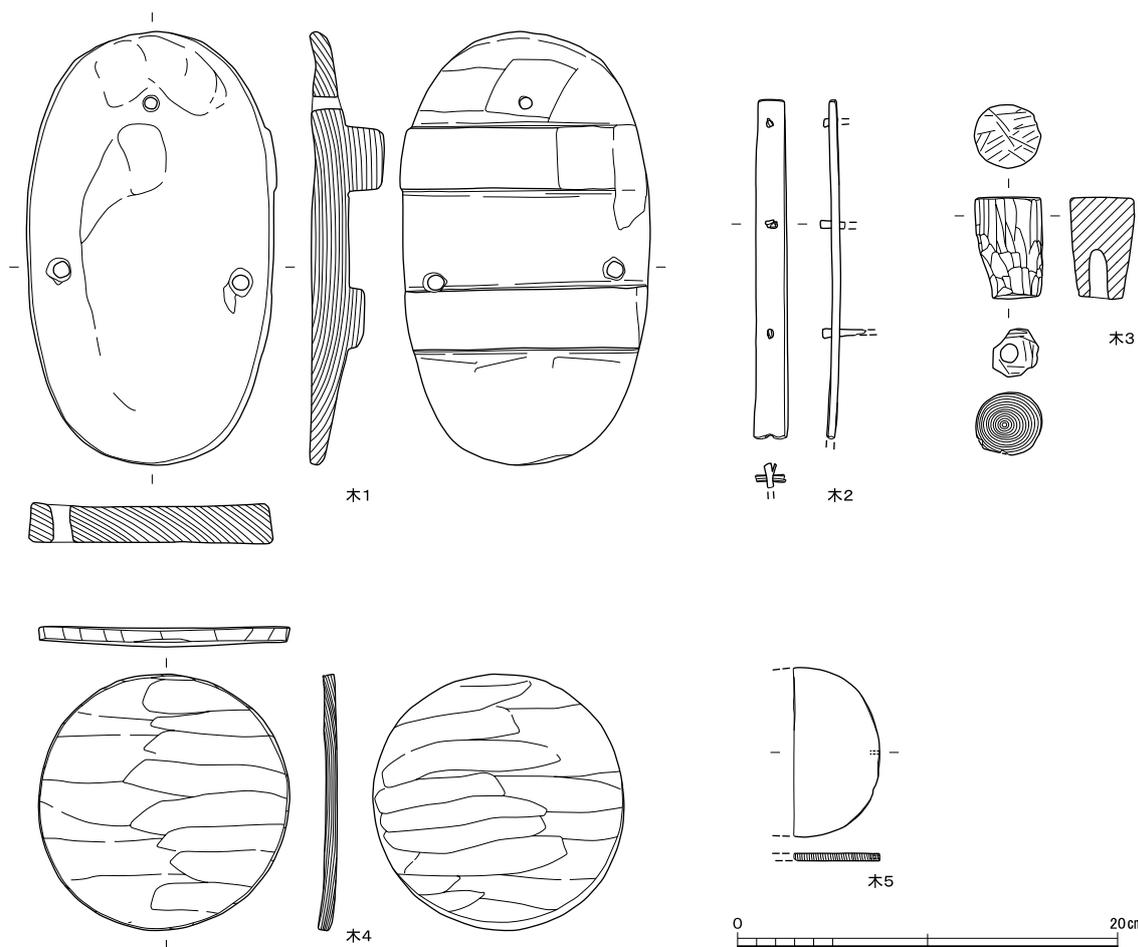


图34 木製品実測図 (1 : 4)

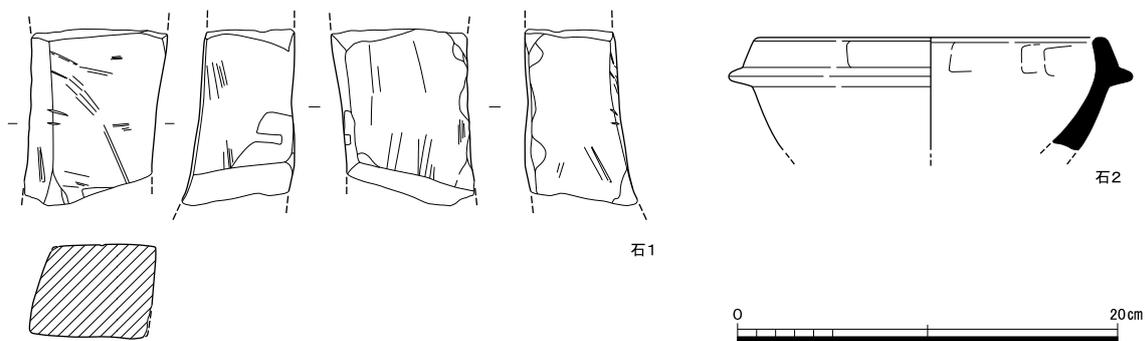


图35 石製品実測図 (1 : 4)

900下層から出土した。

金2は「寛平大寶」で、寛平2年（890）に铸造された。2区柱穴581から出土した。

金3は「延喜通寶」で、延喜7年（907）に铸造された。2区柱穴581から出土した。

金4は「乾元大寶」で、天徳2年（958）に铸造された。2区溝900上層から出土した。

金5～7は「寛永通寶」である。寛永13年（1636）から幕末にかけて铸造された。金5・6

は背面の上側に「文」の文字を配置する。金5～7は1区の溝1から出土したが、溝1は東西方向に延びる溝121の北肩を切り込んで成立する幕末の東西溝である。

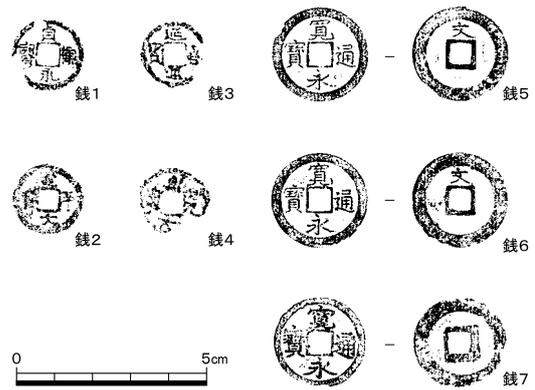


図36 錢貨拓影（1：2）

註

- 1) 西弘海1978「考察 土器」『平城宮発掘調査報告』Ⅶ 奈良国立文化財研究所（『土器様式の成立とその背景』真陽社 1986年に所収）
- 2) 平尾政幸「土師器再考」『洛史 研究紀要 第12号』公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2019年

750年	840年	930年	1020年	1110年	1170年	1260年	1350年	1410年	1500年	1590年	1680年	1740年	1800年	1860年
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B

- 3) 尾野善裕「熊ノ前古窯跡群第4地区」『古代の土器研究 - 平安時代の緑釉陶器・生産地の様相を中心に -』古代の土器研究会第7回シンポジウム 古代の土器研究会 2003年
- 4) 『大山崎町埋蔵文化財調査報告書』第31集 大山崎町教育委員会 2005年
- 5) 『平安京跡研究調査報告 第4輯 西賀茂瓦窯跡』財団法人古代学協会 1978年
- 6) 文字の判読については、大山崎町教育委員会の古閑正浩氏に御教示いただいた。
- 7) 古閑正浩氏は軒平瓦にみられる対向C字型の麻手が単数で表現されるものが造宮職の瓦窯の中では大山崎瓦窯でのみ出現が確認されていることから、この「土 □松瓦屋」銘軒平瓦の生産窯も大山崎瓦窯と同様の役割を有していた可能性を指摘しており、この2窯は何らかの関係を有している可能性が考えられる。

古閑正浩「弘仁期における平安京の瓦生産」『古代』第141号 早稲田大学考古学会 2018年

- 8) 『木村捷三郎収集瓦図録』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1996年の図版51 - 834
- 9) 「上」は左右が反転しており「下」と解釈する考えもある。網 伸也「造瓦体制の変革期としての仁明朝」『仁明朝史の研究 承和転換期とその周辺』思文閣出版 2011年
- 10) 小松武彦『史跡・名勝 嵐山』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2012-3 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2012年 図33-22・23・30・44など。
- 11) 平尾政幸・山口 真『平安京左京二条二坊十町（高陽院）跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2005-7 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2005年
- 12) 樽崎章一『陶磁大系 第五巻 三彩 緑釉 灰釉』平凡社 1973年

5. まとめ

今回の調査では、奈良時代から室町時代までの遺構を検出し、その土地利用の変遷が明らかとなった。とりわけ道祖大路と道祖川に関連する遺構を検出し、藤原摂関家が伝領したとされる「小泉庄」に関連する建物跡を初めて検出したことは、当地の土地利用の実態や変遷を考える上で重要な成果を得る結果となった。

以下では、周辺の調査成果もあわせて今回の調査成果を時代ごとにまとめる。

(1) 奈良時代

今回の調査で検出した奈良時代の遺構は、1区南東部で検出した溝4のみである。溝4は、断面形は逆台形を呈することから、人為的に掘削された溝であることがわかる。平城宮Ⅱ（西暦730年頃）に相当する土師器の杯Aが1点出土し、埋土も明らかに平安時代の遺構埋土とは異なる。調査地周辺では、弥生時代から古墳時代の遺物散布地である西ノ京遺跡と壬生遺跡、同時代の集落遺跡である山ノ内遺跡が広がる。これまでの調査では（図12－調査19）、古墳時代から飛鳥時代の遺構が見つまっているものの、流路・土坑を検出しているのみで、奈良時代の遺構や、居住と関連する遺構が検出されたことはない。溝4の性格は不明であるが、これらの遺跡に関連する可能性はある。今後、周辺調査による資料の増加を期待する。

(2) 平安時代前期から中期

右京四条三坊三町の土地利用（図37） 平安時代前期の遺構としては、1区の建物5、2区の井戸211、溝681・1102・1183・1199・1200の溝群、柱穴列1・2、落込み1175・1246、3区の溝1303などを検出した。

2区の北西部の基盤層は主に細砂からなるが、落込み1175・1246は部分的に軟弱な地盤を埋め立てて整地したものとみられる。埋土から2B段階（9世紀後半）の遺物が出土しており、この頃に宅地造成が行われた可能性が高い。

2区の中央は道祖大路西築地心推定ライン（ $Y = -24,652.88$ 付近）に当たるため、2区の西半が宅地として利用されていたと考えられる。しかし、確実に建物として想定できる遺構は、1区の建物5のみで、2・3区では検出されていない。建物5は北端梁行の柱列のみ検出したが、南へ延びる梁行1間×桁行1間以上の小規模建物と考えられる。それに対して明確ではないものの、2区の柱穴列1は西側へ延びる小規模の建物、柱穴列2は北五門と北六門の境界を区画する柵である可能性もある。建物の東側には井戸211や排水溝と考えられる溝681・1102・1183・1199・1200が配置される¹⁾。

調査地が三町の東端に当たることから、平安時代前期から中期における宅地利用の全容については不明な点が多い。しかし小規模建物と井戸、溝群の規模や検出位置などからみると、調査地の東側に位置する淳和天皇の離宮である淳和院とは規模・構造とも対照的であることがわかる。

道祖大路と道祖川(図37・38) 右京の河川は、平安京造営当初から流れていた河川が機能を停止し、その代わりとして9世紀前半以降に本来の道路が人工河川(水路)に造り替えたことが明らかになっている²⁾。そのうち道祖大路は、右京三条二坊十四町(図2-調査9)と右京四条二坊十六町(図2-調査25)で行われた発掘調査により10世紀以降に道祖大路の大部分を壊して人工河川(水路)に変化していることが確認されている。

今回の調査では、平安時代中期の遺構として、2区の東半で道祖大路西側溝(溝900)、道祖川(川962)を検出し、その間で土手状に残存する道祖大路の路面(路面1100)を検出した。

西側溝は、道祖大路西築地心推定ラインから約1m東側で検出した。東西の肩部がほぼ一直線をなしており、『延喜式』左右京職京程条の規定よりも幅5.4m(1丈8尺)で拡幅されて掘削されていることがわかる。埋土は深さ0.4~0.6mのうち0.3~0.5mに径1~6cmの砂礫が最下層に堆積しており、10世紀中頃の遺物が出土した。本来の幅より大きく掘削したものの、大雨に伴う土砂の流入によって短期間に埋まってしまい、その機能を失ったと考えられる。

道祖川は、2区の東端で西肩部から幅約1.2mを検出した。埋土は最大深さ約0.4mの中に径3~8cmの砂礫

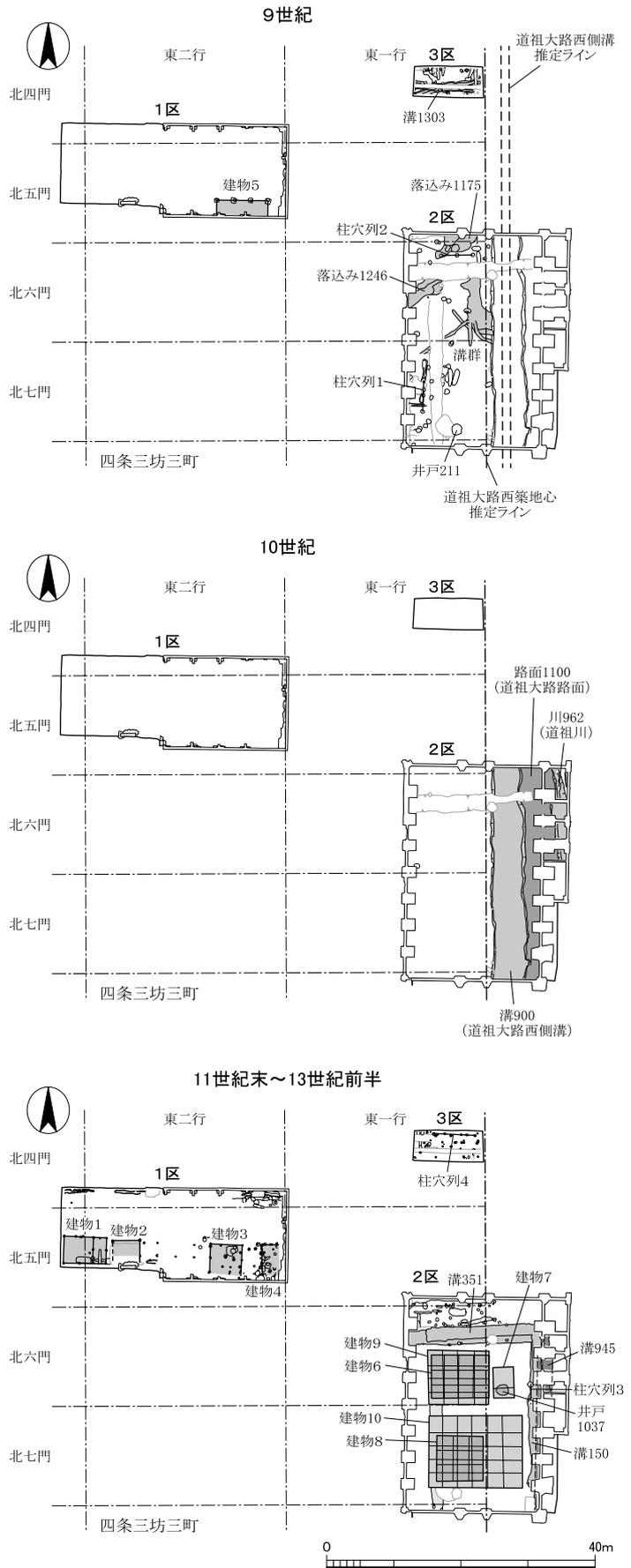


図37 遺構変遷図(1:1,000)

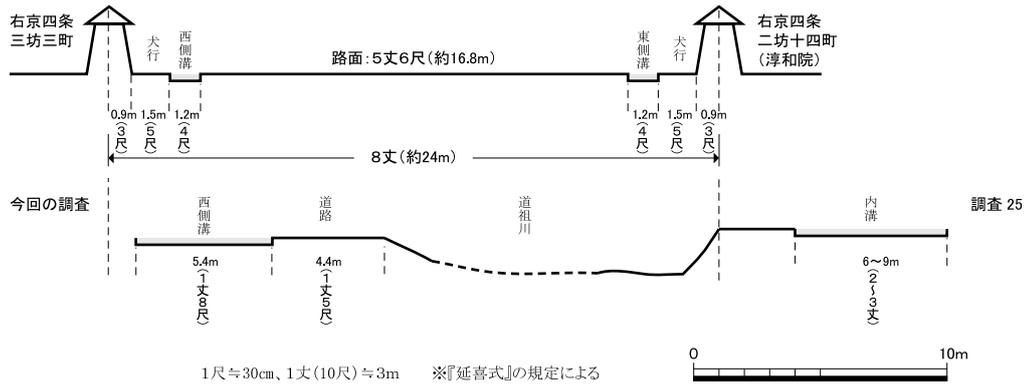


図38 道祖大路・道祖川の断面模式図（1：300）

が堆積しており、西肩部と底部にみられる凹凸形状からみると、大雨や氾濫などによる水量の勢いが強かったと推察できる。埋土から出土した遺物は細片で少量であるものの、10世紀代の須恵器細片と確認できた。右京三条二坊十四町（図2 - 調査9）の調査によって、道祖川は10世紀前半には存在したことが明らかになっているため、西側溝と同様に10世紀中頃に砂礫などによって埋没したと考えられる³⁾。

道祖大路の路面は、平安時代後期に掘削される溝150・945によって土手状に残存するが、全体の残存幅は約4.4m（1丈5尺）ある。路面は後世の耕作によって削平されるが、径3～5cmの砂礫からなる基盤層を用いて路盤として構築している。

今回の調査と調査25の調査成果を併せて、道祖大路と道祖川の構造を考えてみる（図38）。調査25では、道祖大路東築地心推定ラインで道祖川の東肩部を検出しており、幅9.0m以上、深さ1.8m以上あることが確認されている。東築地の存在は不明であるが、ちょうどその築地心推定ラインに沿って深く掘られていることから、おそらく道祖大路の東築地心ラインを施工基準として河川にした可能性がある。この際に、東側溝と犬行を含めて道路を壊しているが、今回の調査では路面の全体を川にするのではなく、一部を残すことで交通路としての機能を残していたことが明らかになった⁴⁾。また西側溝は幅を広げているが、これは道祖川からオーバーフローする余水を受けるためと考えられる。同じく、調査25でも東築地心推定ラインから東側には、幅6～9m、深さ約30cmの内溝が検出された。さらに東側には10世紀代の建物が2棟見つかっており、宅地内の排水処理の機能を併せもったと考えられる。

このように道祖川は幅約13.4m、深さ1.8m以上の規模をもつことが明らかになった。9世紀前半以降に新たに増設される人工河川（水路）の中では最大規模を有する。しかしながら、開削されてから大量の砂礫の流入によって埋没し、10世紀中頃には河川としての機能を失ってしまう。調査25では、道祖川の下層から10世紀代の遺物とともに径1～10cmの砂礫が約1.0m堆積していることが確認されており、相当の水量や勢いで水が流れてきたことが容易に推察される⁵⁾。今回の調査でこの時期の人々の居住痕跡が確認できなかったことを考え合わせると、10世紀中頃、道祖川や道路側溝の埋没と同時に、宅地利用も断絶してしまうと考えられる。

道祖川の上層には11世紀後半から12世紀前半の遺物を含む整地層が堆積する。西側溝の上層に

は流水が淀んで堆積する黒褐色のシルト層が確認されており、同時期の遺物が出土した。その点を考えると、道祖川と西側溝が埋まってから、再掘削されることなく、おおよそ100年間は放置されていたと推察される。このような堆積状況は調査25でも認められ、12世紀には完全に廃絶したと⁶⁾考えられる。

(3) 平安時代後期から鎌倉時代前半

道祖大路西側溝と道祖川が完全に埋没したのち、11世紀末になると、整地が行われ大型建物が建てられる。今回の調査では、1区の建物1～4、2区の建物6～10、井戸1037、溝150・945・351、柱穴列3、3区の柱穴列4などを検出した(図37)。調査地は、藤原摂関家が伝領したとされる「小泉庄」の一部であったとされており(図39)、それに関連する遺構と考えられる。

2区では4～6期に属する遺物を含む柱穴が900基以上検出された。それらの重複が激しく密集しているため、建物を明確に復元するには困難があった。しかしながら、柱列の重複が東西・南北列に集中的に認められることから、複数棟の総柱掘立柱建物が建て替えられたと考えることができた。建物群の存続時期は、井戸1037と溝351の出土遺物から11世紀末から13世紀の前半と考えられる。少なくとも2時期にわたり、ほぼ同じ場所に連続して建物が建て替えられたと推定される。またX = -110,336付近で南北の柱列が0.3～0.4m東にずれる傾向が認められ、2棟の建物が南北に建ち並んでいたと考えられる。柱穴の深さと柱列の柱間、礎石の有無、出土遺物の時期を考え合わせて、大きく2つグループに分けることができる。Aグループ：面積約50㎡の建物6・8と井戸1037に伴う建物7、Bグループ：面積約73・147㎡をもつ建物9・10である。

これらの建物群は、北東側を溝によって囲まれる。南北方向の溝150と溝945は、東西方向の溝351と接して逆L字状に曲がる。溝150の埋土からは12世紀前半代の遺物、溝945の埋土からは12世紀前半から中頃の遺物が出土しており、土層断面の堆積状況から、溝150の埋没後、溝945が掘り直されたことが分かる。また溝351は二段掘りになっており、埋土から12世紀前半から13世紀前半までの遺物が出土している。掘り直しや改修を繰り返しながら長く維持されたとみられる。

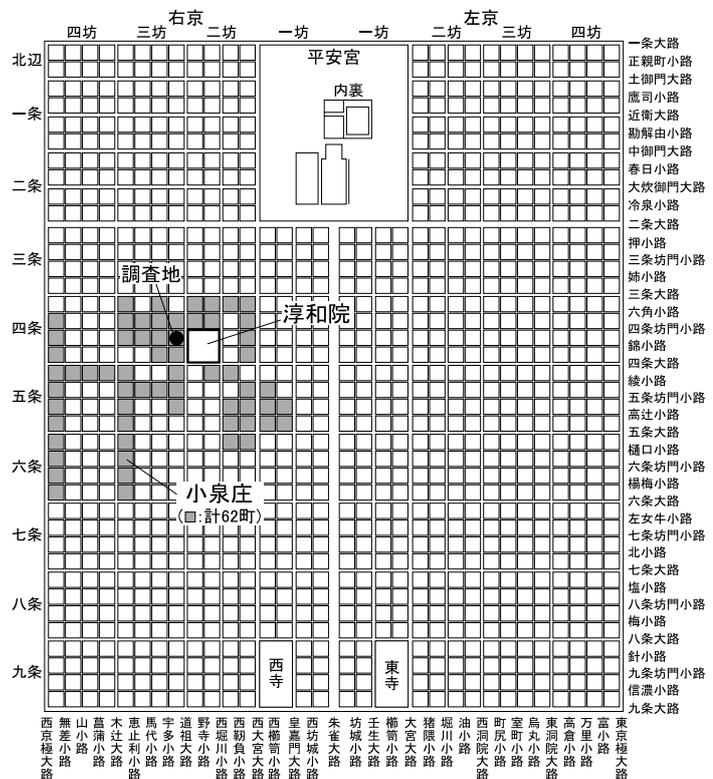


図39 平安京条坊図と調査地

このように大溝に囲まれた建物群は、その規模や配置から考えて、「小泉庄」の中で中心的な施設である可能性が高い。これまでの周辺調査では、この時期の大型建物が確認された事例はなく、柱穴の密集状況からみても非常に異例である。「小泉庄」の荘園全体を管理するために置かれた「荘家」のような施設であった可能性⁷⁾を考慮しておきたい。一方、1区で検出した小規模の建物1～4は、ほぼ北列に合わせて東西に建ち並んでいることに注目される。12世紀前半から後半の遺物が出土することから、2区に位置する大型建物と併存すると考えられる。大型建物の附属施設である可能性⁸⁾がある。

(4) 室町時代以降

本調査で検出した室町時代の遺構は、1区の中央部を東西方向に横断する溝121のみである。幅3.8～5.6m、深さ0.9～1.1mの大きい東西溝である。埋土は平安時代後期から鎌倉時代の遺物を多く含むが、溝の底より室町時代後期から末期の遺物が少量ながら確認された。この溝の機能については不明であるが、調査地周辺は小泉庄が廃絶してからも広い範囲で耕作地が展開していたと考えられており、耕作に伴う用水路または区画溝であった可能性がある。

なお、2・3区では、調査区の壁断面を観察すると、耕作土層の上に洪水・氾濫に伴う砂礫層の堆積が顕著に確認される。砂礫の堆積様子からみて単発的な発生ではなく、繰り返されていたことが認められるため、調査地周辺には度重なる水害で悩まされていた可能性が高い。平安時代以来、室町時代に至るまでも水に向き合い、治水に苦勞してきた右京ゆえの様相を如実に物語る。

註

- 1) 溝群は、堆積土の科学的な分析を行うことはできなかったが、溝群の形状や道路側溝との関係から宅地内の悪水を側溝へ流し込むための排水溝あるいは水洗トイレ遺構の可能性も考慮しておく必要がある。平安京跡の発掘調査においては、トイレと断定できる遺構は確認されていない。しかし、右京六条一坊、右京八条二坊二町、鳥羽離宮跡から籌木の出土や黒色土の存在が確認された。さらに弘仁2年(815)や斉衡2年(855)の『類聚三代格』の太政官符の文献史料によると、役所や邸宅などが条坊側溝の水を水洗トイレに利用しようと競って敷地内に引水したため、排泄物が墻外に露すのを禁止したことがわかる。平安京も藤原京や長岡京と同様に、土坑式・水洗式のトイレが存在したことは間違いないと考えられている。

黒崎 直『水洗トイレは古代にあった トイレ考古学入門』吉川弘文館 2009年

- 2) 山田邦和「第3章 左京と右京」『平安京提要』角川書店 1994年
堀内明博『ミヤコを掘る－出土した京都の都市と生活－』淡交社 1995年
南 孝雄「衰退後の右京－十世紀後半から十二世紀の様相－」『平安京の地域形成』京都大学学術出版会 2016年
- 3) 『類聚国史』卷八「神祇八 大嘗会」弘仁十四年(823)十月甲辰条には、「佐比川」で淳和天皇が禊を行ったという記録があるため、道祖川が平安時代前期に流れていた可能性が指摘されている。
前掲註2) 南 孝雄2016。

- 4) 南氏は、調査9と調査25の成果から考えて、道祖大路が排水路としての河川と道路がある時期併存していた可能性があり、道路としての機能を残しながら河川を掘削するのに大路の規模は必要であったためと指摘している。

南 孝雄『平安京右京三条三坊三町跡・西ノ京遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2012-23
公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2013年

- 5) 南氏は、10世紀中頃に埋没する西堀川へ多量の砂礫が流入される原因について、西堀川が京外の紙屋川とつながっていることや右京周辺の山地で行われた樹木採伐の影響による可能性を示唆した。前掲註2) 南 孝雄2016。

- 6) 調査25の報告には道祖川の堆積状況に関する詳細な記述はないが、調査時の原図を確認した。

辻 裕司「平安京右京四条二坊」『昭和63年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1993年

- 7) 荘園経営のために設置された荘家あるいは荘官舎として考えられている遺跡として、石川県白山市東大寺領横江荘遺跡、静岡県浜松市伊場遺跡、滋賀県多賀町水沼荘遺跡などが挙げられる。一概には言えないが、大型建物を中心に中小規模の総柱建物が複数存在しており、これらは溝などによって区画され、その中に配されていることに類似性を見出せる。水害防止あるいは水運を利用して貢納物を運送するためかもしれない。

- 8) これらの建物の性格については、調査地の南に位置する西院春日神社との関連性を考慮する必要があるという指摘がある。しかし、西院春日神社の創建時期については、昭和10年（1935）の京都大水害の際に古文書を散失したとされ、確定することはできないのが実情である。『山州名跡志』における記述や例祭の神輿に「元禄十四年」（1701）、鉾に「宝永七年」（1710）の銘があることから18世紀初頭にはこの地に存在していたことが推定できるのみである。

小澤嘉三『西院の歴史』西院の歴史編集委員会 1983年

松吉祐希『平安京右京四条三坊三町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2019-5 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2019年

付表1 軒丸瓦観察表

番号	瓦当文様の特徴	手法の特徴	径 (cm)	厚さ (cm)	出土遺構	備考
瓦1	複弁蓮華文。蓮子数不明。界線、外区に珠文・圏線。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。	—	—	整地層	平城宮6282型式。
瓦2	複弁8葉蓮華文。蓮子1+6。二重界線。周縁やや傾斜、凸鋸歯文。	瓦当成形不明。	16.9	3.3	整地層	平城宮6225型式。
瓦3	重圏文。三重の圏線。	瓦当成形不明。	(17.6)	3.4	土坑908	難波宮式。
瓦4	重圏文。三重の圏線。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。 瓦当部から丸瓦部凸面 縦方向ケズリ。	18.3	3.5	溝900上層	難波宮式。
瓦5	複弁8葉蓮華文。蓮子1+6。界線、外区に珠文22。周縁は傾斜、線鋸歯文。	瓦当成形不明。	15.8	2.2	柱穴609	平城宮6285型式。
瓦6	複弁8葉蓮華文。蓮子1+6。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。	—	2.9	整地層	平城宮6235型式。
瓦7	文様は摩滅が著しいため不明。複弁12葉蓮華文か。蓮子1+8。界線、外区に珠文12。	瓦当成形不明。	15.6	3.0	柱穴275	平城宮6236-I型式か。
瓦8	単弁蓮華文。界線、外区に珠文。	瓦当成形不明。	—	2.9	溝900上層	長岡宮7193型式か。
瓦9	複弁蓮華文。二重界線、外区に珠文。	瓦当成形不明。	—	1.5	整地層	西賀茂瓦窯産。NS154型式。
瓦10	複弁蓮華文。蓮子1+6。二重界線。	瓦当成形不明。	—	1.4	整地層	西賀茂瓦窯産。NS154B型式。
瓦11	複弁8葉蓮華文。蓮子1+4。界線、外区に珠文16。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。	12.2	1.3	整地層	生産窯不明。
瓦12	複弁8葉蓮華文。蓮子1+6。中房外側と外区に界線。外区に珠文16。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。	(16.7)	2.4	整地層	牧野阪瓦窯産。
瓦13	複弁10葉蓮華文。蓮子1+6。界線、外区に珠文16。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。	17.6	2.1	整地層	大山崎瓦窯産。OY105型式。
瓦14	複弁9葉蓮華文。蓮子1+5。界線、外区に珠文16(推定)。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。	(17.5)	1.6	整地層	上ノ庄田瓦窯産。『平成8年度京都市埋蔵文化財調査概要』図69-2と同範。
瓦15	複弁4葉蓮華文。蓮子数不明。界線、外区に珠文。	一本造り技法。瓦当部裏面から丸瓦部にかけて一連の布目。	—	2.1	土坑908	生産地不明。
瓦16	複弁4葉蓮華文。蓮子数不明。界線、外区に珠文。	一本造り技法か。	(15.0)	—	整地層	生産地不明。
瓦17	複弁8葉蓮華文。蓮子数不明。界線、外区に珠文16(推定)。	一本造り技法。瓦当部裏面に布目。	(17.0)	2.0	整地層	生産地不明。
瓦18	単弁蓮華文(12葉か)。界線、外区に珠文24(推定)・圏線。	瓦当成形不明。	—	2.2	溝900検出	生産地不明。
瓦19	単弁10葉蓮華文。蓮子1+6。弁間に珠文10(推定)。	瓦当成形不明。	(15.6)	1.5	柱穴308	生産地不明。
瓦20	複弁6葉蓮華文。蓮子1+6。珠文12。花卉と間弁で界線をなす。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。	14.9	2.1	溝351	大和産 法隆寺46A型式。
瓦41	複弁8葉蓮華文。外区二重界線。周縁やや傾斜、凸鋸歯文。	瓦当成形不明。	—	3.8	井戸211	平城宮6225型式。
瓦42	複弁8葉蓮華文。外区二重界線。	瓦当成形不明。	—	—	溝900上層	平城宮6225型式。
瓦43	重圏文。三重の圏線。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。	—	(3.3)	溝900下層	難波宮式。
瓦44	重圏文。	瓦当成形不明。	—	—	2区北東部掘り下げ	難波宮式。
瓦45	重圏文。三重の圏線。	瓦当成形不明。	—	2.9	整地層	難波宮式。
瓦46	重圏文。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。	—	3.0	土坑188	難波宮式。
瓦47	重圏文。三重の圏線。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。	—	2.1	整地層	難波宮式。

番号	瓦当文様の特徴	手法の特徴	径 (cm)	厚さ (cm)	出土遺構	備考
瓦48	重圏文。三重の圏線。	瓦当成形不明。	(18.0)	3.4	溝900上層	難波宮式
瓦49	蓮華文。二重界線。外区に珠文。	瓦当成形不明。	—	—	柱穴228	西賀茂瓦窯産。NS154型式か。
瓦50	複弁10葉蓮華文。界線。外区に珠文。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。	—	—	溝900上層	大山崎瓦窯産。OY105型式。
瓦51	複弁10葉蓮華文。蓮子1+6。界線。外区に珠文16。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。	—	—	整地層	大山崎瓦窯産。OY105型式。
瓦52	複弁10葉蓮華文。蓮子1+6。界線。外区に珠文16。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。	—	—	整地層	大山崎瓦窯産。OY105型式。
瓦53	複弁10葉蓮華文。蓮子1+6。界線。外区に珠文16。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。丸瓦部上面と側面に刻みを入れて接合。	17.8	2.6	整地層	大山崎瓦窯産。OY105型式。
瓦54	複弁10葉蓮華文。蓮子1+6。界線。外区に珠文16。	瓦当成形不明。	—	1.7	溝900上層	大山崎瓦窯産。OY105型式。
瓦55	複弁10葉蓮華文。蓮子1+6。界線。外区に珠文16。	瓦当成形不明。	—	2.1	整地層	大山崎瓦窯産。OY105型式。
瓦56	複弁10葉蓮華文。蓮子1+6。界線。外区に珠文16。	瓦当成形不明。	(16.5)	2.1	整地層	大山崎瓦窯産。OY105型式。
瓦57	複弁10葉蓮華文。蓮子1+6。界線。外区に珠文16。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。	(18.0)	(2.8)	整地層	大山崎瓦窯産。OY105型式。
瓦58	複弁8葉蓮華文。界線。外区に珠文16。	瓦当成形不明。	(17.0)	1.5	整地層	上ノ庄田瓦窯産。
瓦59	複弁8葉蓮華文(推定)。蓮子数不明。外区に圏線、珠文16(推定)。	瓦当成形不明。	(17.0)	1.6	溝900上層	上ノ庄田瓦窯産。
瓦60	蓮子数不明。界線、外区に珠文。	瓦当成形不明。	—	1.9	土坑908	生産地不明。

付表2 軒平瓦観察表

番号	瓦当文様の特徴	手法の特徴	縦 (cm)	横 (cm)	出土遺構	備考
瓦21	重郭文。	曲線顎。	6.1	(14.5)	溝900上層	難波宮式。
瓦22	外行唐草文。二重界線。	曲線顎。	(4.5)	(14.5)	整地層	平城宮6681型式。
瓦23	外行唐草文。外区に珠文。	曲線顎。凸面叩き技法。	(4.7)	(8.2)	溝900上層	平城宮6732型式。
瓦24	内向唐草文。外区に珠文。	曲線顎。凸面叩き技法。	5.4	(13.4)	整地層	平城宮6760A型式。
瓦25	外行唐草文。中心飾りに三葉形。外区に珠文。	曲線顎。凸面叩き技法。	5.8	(14.5)	整地層	長岡宮7757型式。
瓦26	外行唐草文。外区に珠文。	曲線顎。瓦当成形不明。	(6.9)	(9.4)	2区北西部 遺構検出	長岡宮7731型式。
瓦27	外行唐草文。外区に珠文。	曲線顎。	7.6	(11.7)	柱穴1191	西賀茂瓦窯産。NS202A型式。
瓦28	外行唐草文。中心飾りに三葉形。外区に珠文。	曲線顎。凸面押圧技法。	8.7	(21.2)	川962	西賀茂瓦窯産。NS203型式。
瓦29	外行唐草文。外区に珠文。	曲線顎。凸面叩き技法。	6.8	(12.9)	溝150検出	西賀茂瓦窯産。NS206A型式。
瓦30	外行唐草文。外区に珠文。	曲線顎。凸面押圧技法。	(6.5)	(9.5)	溝900上層	生産地不明。
瓦31	外行唐草文。中心飾りに対向C字形。外区に珠文。下部珠文間に「土 □ 松瓦屋」銘。	曲線顎。凸面押圧技法。平瓦部凸面に一部布目。	8.3	(29.6)	溝900上層	生産地不明。
瓦32	外行唐草文。中心飾りに対向C字形。外区に珠文。瓦当部左側上部に范割れ跡。	曲線顎。瓦当成形不明。	9.2	(16.1)	溝150	檀林寺出土瓦と同じ范割れをす るものが出土している。

番号	瓦当文様の特徴	手法の特徴	縦 (cm)	横 (cm)	出土遺構	備考
瓦33	外行唐草文。中心飾りに対向C字形。外区に珠文。右下珠文間に「西」銘。	曲線顎。瓦当成形不明。	7.1	(18.3)	溝150	大山崎瓦窯産。OY205b型式。
瓦34	外行唐草文。中心飾りに対向C字形。C字の間に紡錘形の小葉。外区に珠文。下部珠文間に「上」銘。	曲線顎。凸面叩き技法。	7.0	(15.3)	柱穴631	上ノ庄田瓦窯産。Ks201b型式。『平成8年度 京都市埋蔵文化財調査概要』図69-8と同範か。
瓦35	外行唐草文。中心飾りに対向C字形。C字の間に紡錘形の小葉。外区に珠文。	曲線顎。凸面押圧技法。	7.2	(17.6)	整地層	おうせんだう廃寺で同文の瓦が出土『木村捷三郎収集瓦図録』図版59-983。
瓦36	外行唐草文。中心飾りに対向C字形。外区珠文。右第1主葉間に逆位「大」銘。	曲線顎。	6.4	(11.1)	柱穴653	「大井寺」銘『史跡・名勝 嵐山』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2012-3 図33-22・23・30と同範。
瓦37	外行唐草文。中心飾りに三葉形。外区に珠文。	曲線顎。凸面押圧技法。	6.3	(16.3)	溝900上層	芝本瓦窯産。
瓦38	外行唐草文。外区珠文。	凸面押圧技法。	(5.2)	(11.9)	溝351	平安京大極殿・豊楽院・朝堂院で同文が出土『平安京古瓦図録』345・346と同文。
瓦39	唐草文。主葉は直線的。	曲線顎。凸面押圧技法。	4.9	(13.3)	整地層	山城産。『平安京跡発掘調査概報 昭和63年度』図版24-24と同文。
瓦40	剣頭文。剣頭文は垂直に配置される。	折り曲げ技法。	2.6	(6.3)	溝900検出	山城産。
瓦61	重郭文。	直線顎。	5.2	(15.3)	柱穴1223	難波宮式。
瓦62	外行唐草文。二重界線。	直線顎。瓦当成形不明。	(4.4)	(10.3)	2区北部掘り下げ	平城宮6681型式。
瓦63	外行唐草文。二重界線。	直線顎。	(5.5)	(10.0)	整地層	平城宮6681型式。
瓦64	外行唐草文。外区に珠文。	曲線顎。瓦当成形不明。	(6.2)	(9.6)	2区北部掘り下げ	長岡宮7757型式。
瓦65	外行唐草文。外区に珠文。	瓦当成形不明。	(6.0)	(11.2)	整地層	西賀茂瓦窯産。NS202A型式。
瓦66	外行唐草文。外区に珠文。	曲線顎。凸面押圧技法。	7.5	(9.4)	整地層	西賀茂瓦窯産。NS203型式か。
瓦67	外行唐草文。外区に珠文。	曲線顎。凸面押圧技法。瓦当部凹面に縄目。	7.4	(18.5)	1区南東部遺構検出	西賀茂瓦窯産。NS203型式か。
瓦68	外行唐草文。中心飾りに三葉形。外区に珠文。	曲線顎。凸面押圧技法。	8.0	(14.8)	整地層	西賀茂瓦窯産。NS203型式。
瓦69	外行唐草文。外区に珠文。	曲線顎。凸面押圧技法。	6.9	(12.2)	溝351	西賀茂瓦窯産。NS206A型式。
瓦70	外行唐草文。外区に珠文。	凸面押圧技法。	6.1	(13.7)	整地層	西賀茂瓦窯産。NS206A型式。
瓦71	外行唐草文。中心飾りに対向C字形。外区に珠文。下部珠文間に「土」銘。	曲線顎。凸面押圧技法。	8.8	(17.1)	溝351	生産窯不明。
瓦72	外行唐草文。中心飾りに対向C字形。外区に珠文。下部珠文間に「口」銘。	曲線顎。凸面押圧技法。	7.6	(16.0)	井戸1037	生産窯不明。
瓦73	外行唐草文。外区に珠文。下部珠文間に左から「口松瓦屋」銘。	曲線顎。凸面押圧技法。	7.0	(12.0)	整地層	生産窯不明。
瓦74	外行唐草文。外区に珠文。	曲線顎。凸面押圧技法。	6.8	(12.2)	整地層	生産窯不明。
瓦75	外行唐草文。中心飾りに対向C字形。外区に珠文。下部珠文間に「土」銘。	瓦当成形不明。	(6.3)	(13.0)	整地層	生産窯不明。
瓦76	外行唐草文。中心飾りに対向C字形。外区に界線・珠文。下部珠文間に「土 口」銘。	曲線顎。凸面押圧技法。	7.8	(15.0)	溝150	生産窯不明。
瓦77	外行唐草文。中心飾りに対向C字形。外区に珠文。	曲線顎。凸面押圧技法。	7.2	(17.7)	柱穴742	生産窯不明。
瓦78	外行唐草文。外区に珠文。	曲線顎。凸面押圧技法。	7.1	(11.1)	整地層	生産窯不明。

番号	瓦当文様の特徴	手法の特徴	縦 (cm)	横 (cm)	出土遺構	備考
瓦79	外行唐草文。外区に珠文。	曲線顎。凸面押圧技法。	(4.8)	(19.1)	柱穴1294	生産窯不明。
瓦80	外行唐草文。中心飾りに対向C字形。外区に珠文。瓦当部左側上部に筈割れ跡。	瓦当成形不明。	(5.7)	(24.4)	溝900上層	瓦32と同筈。
瓦81	外行唐草文。中心飾りに対向C字形。外区に珠文。	曲線顎。凸面押圧技法。	(5.8)	(15.4)	溝900上層	大山崎瓦窯産。OY205b型式。
瓦82	外行唐草文。外区に珠文。	曲線顎。成形技法不明。	(7.6)	(11.3)	溝900上層	大山崎瓦窯産。OY205b型式。
瓦83	外行唐草文。中心飾りに対向C字形。外区に珠文。	曲線顎。凸面押圧技法。	6.9	(26.1)	溝900上層	大山崎瓦窯産。OY205b型式。
瓦84	外行唐草文。外区に珠文。	曲線顎。凸面押圧技法。	7.2	(21.8)	土坑605	大山崎瓦窯産。OY205b型式。
瓦85	外行唐草文。外区に珠文。	曲線顎。凸面押圧技法。	(4.7)	(6.8)	溝900下層	大山崎瓦窯産。OY205b型式。
瓦86	外行唐草文。外区に珠文。	凸面叩き技法。 瓦当部側面布目痕。	(4.7)	(12.5)	溝900下層	大山崎瓦窯産。OY205b型式か。
瓦87	外行唐草文。外区に珠文。	瓦当成形不明。	(5.2)	(7.2)	溝900下層	大山崎瓦窯産。OY205b型式か。
瓦88	外行唐草文。外区に珠文。	曲線顎。凸面押圧技法。	(7.6)	(8.6)	2区北部掘り下げ	大山崎瓦窯産。OY205b型式。
瓦89	外行唐草文。外区に珠文。	曲線顎。凸面押圧技法。	7.6	(15.7)	整地層	大山崎瓦窯産。OY205b型式。 二次被熱により一部赤色化。
瓦90	外行唐草文。	曲線顎。凸面押圧技法。	(6.7)	(11.0)	溝900上層	大山崎瓦窯産。OY205b型式。
瓦91	外行唐草文。外区に珠文。	曲線顎。凸面押圧技法。	(7.4)	(14.6)	溝150	大山崎瓦窯産。OY205b型式。
瓦92	外行唐草文。外区に珠文。	曲線顎。成形技法不明。	(5.0)	(29.4)	整地層	大山崎瓦窯産。OY205b型式。
瓦93	外行唐草文。外区に珠文。右下珠文間に「西」銘。	曲線顎。凸面押圧技法。	8.0	(12.2)	2区北西部遺構検出	大山崎瓦窯産。OY205b型式。
瓦94	外行唐草文。外区に珠文。	瓦当成形不明。	(5.5)	(11.5)	柱穴404	芝本瓦窯産か。 二次被熱により全体が赤色化。

付表1・2 軒丸瓦・軒平瓦観察表 文献

『平安京古瓦図録』雄山閣 1977年

『平安京跡研究調査報告 第4輯 西賀茂瓦窯跡』財団法人古代学協会 1978年

『向日市埋蔵文化財調査報告書第20集 長岡京古瓦聚成(本文編)〈図版編〉』向日市教育委員会 1987年

『平安京発掘調査概報 昭和63年度』京都市文化観光局 1989年

『木村捷三郎収集瓦図録』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1996年

『平城京・藤原京出土軒瓦形式一覧』奈良市教育委員会 1996年

『平成8年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1998年

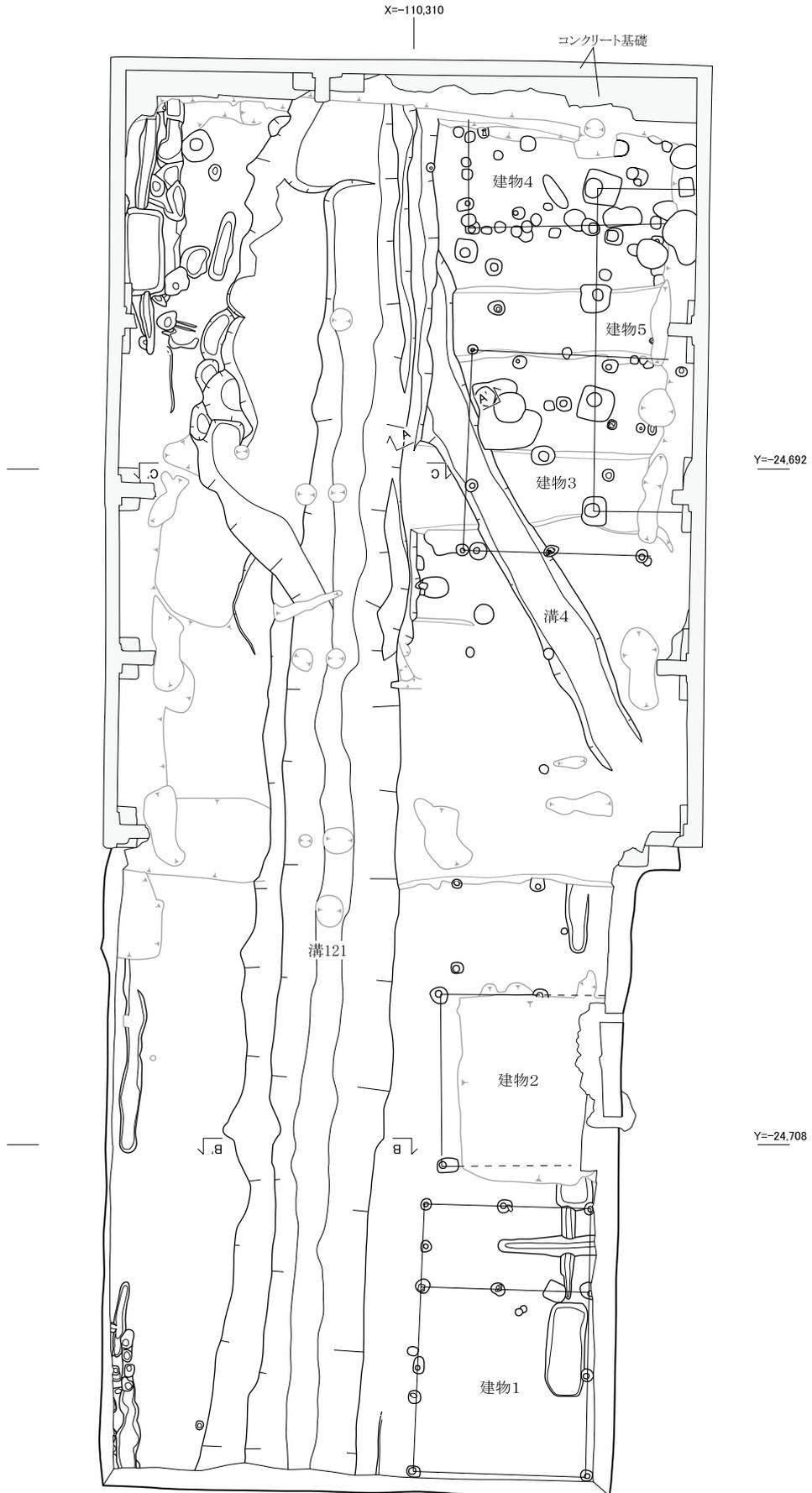
『史跡・名勝 嵐山』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2012-3 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2012年

『平城京・藤原京出土軒瓦形式一覧』奈良市教育委員会 1996年

「平安京初期の造瓦組織」『考古学雑誌 第99巻 第1号』日本考古学会 2017年

『史跡 西寺跡発掘調査 総括報告書』京都市文化市民局 2021年

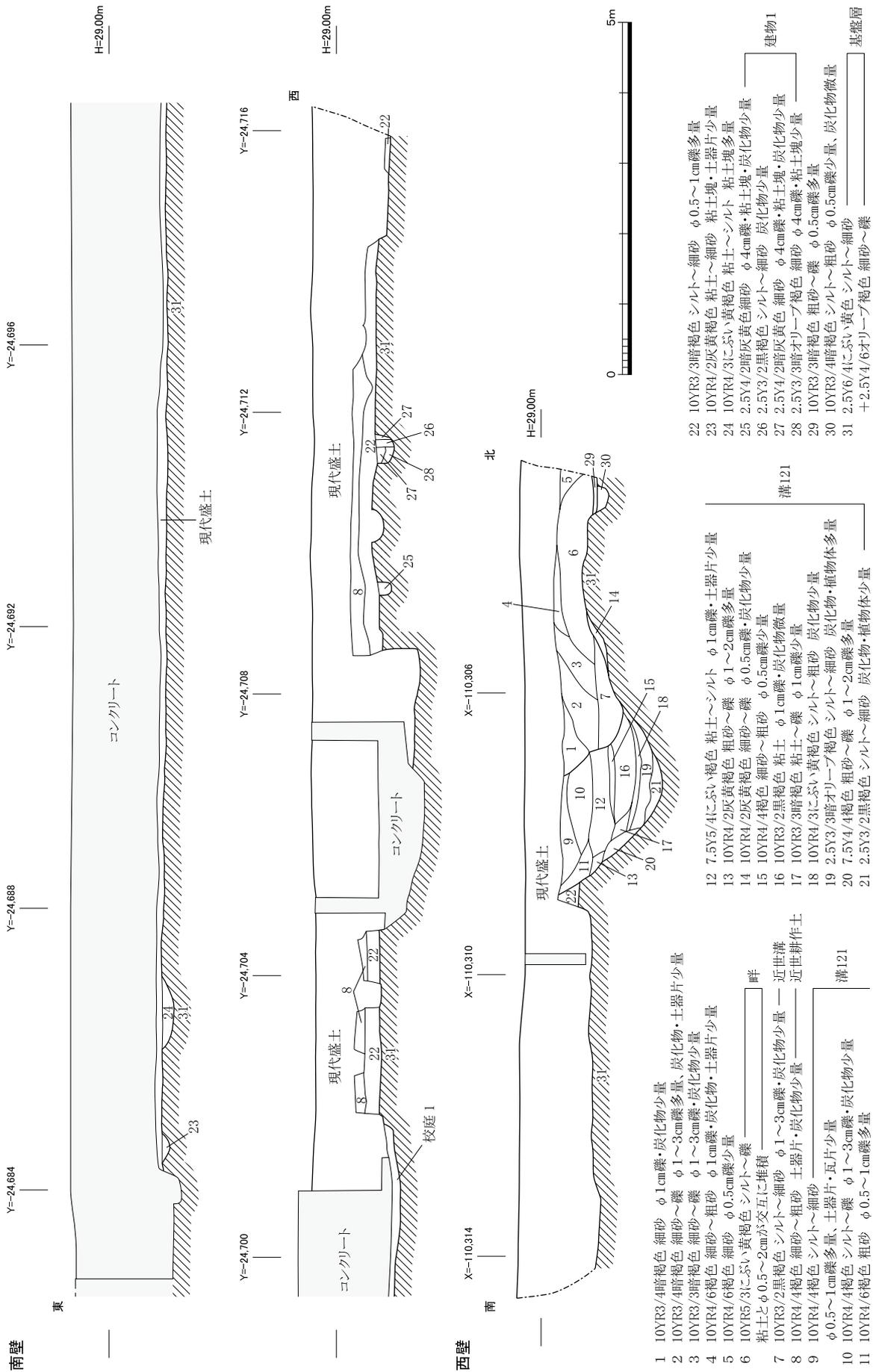
圖 版



※ A-A'断面ラインは図14、B-B'・C-C'断面ラインは図16に対応。

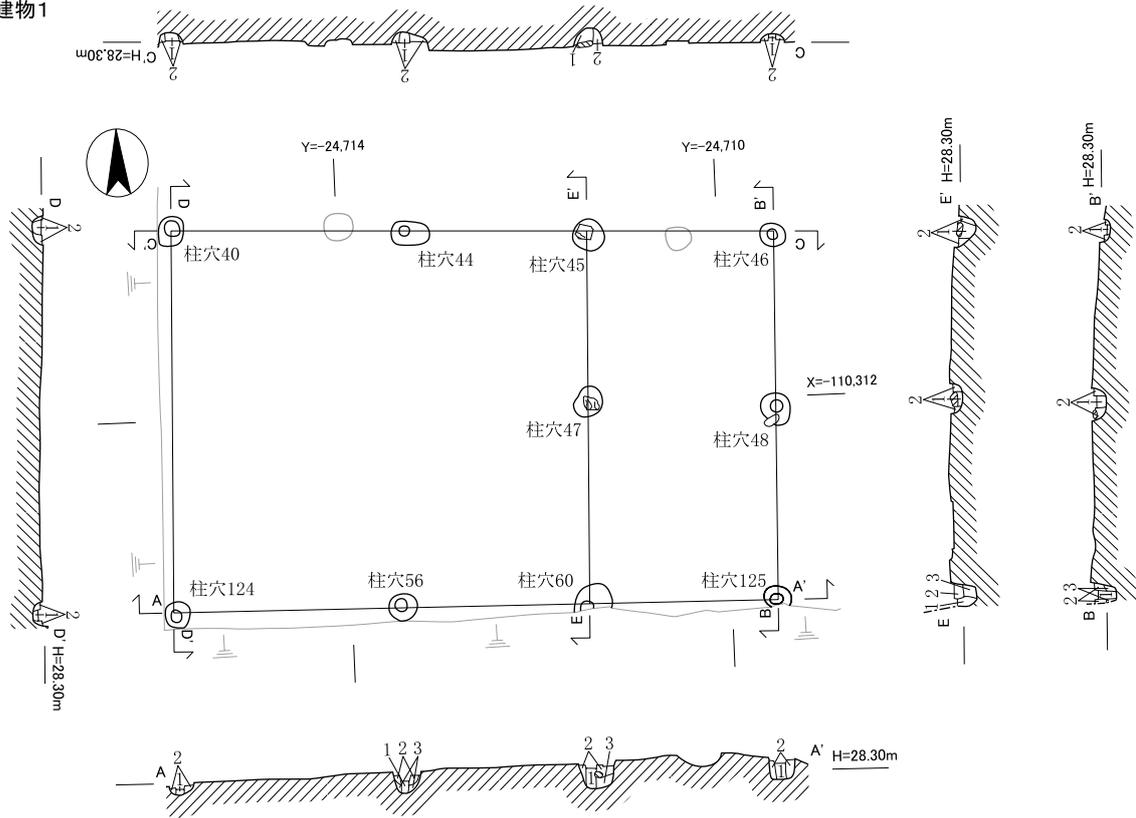
1区平面図 (1 : 150)





1区南壁・西壁断面図(1:80)

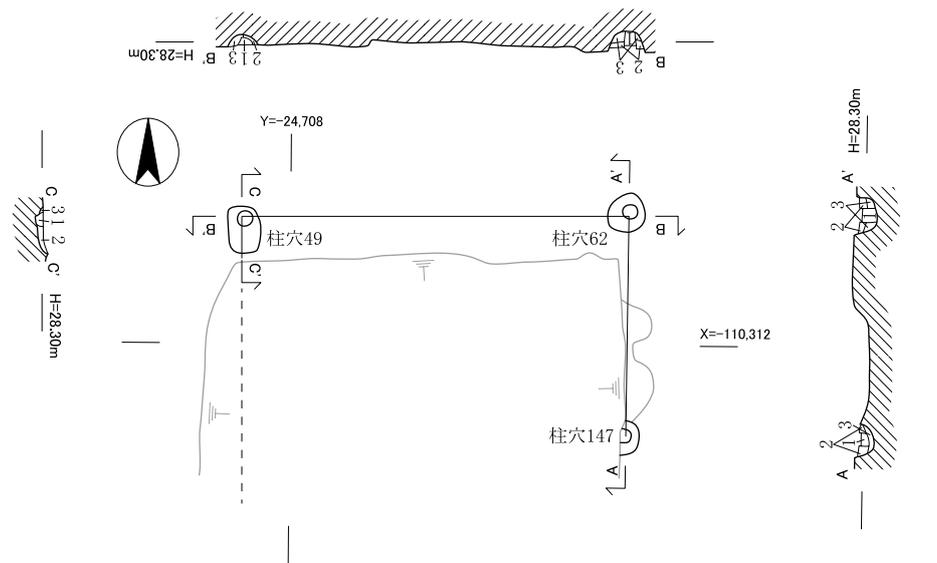
建物1



- 1 2.5Y3/2黒褐色 シルト～細砂 炭化物少量
- 2 2.5Y4/2暗灰黄色 細砂 φ4cm礫・粘土塊・炭化物少量
- 3 2.5Y3/3暗オリーブ褐色 細砂 φ4cm礫・粘土塊少量



建物2

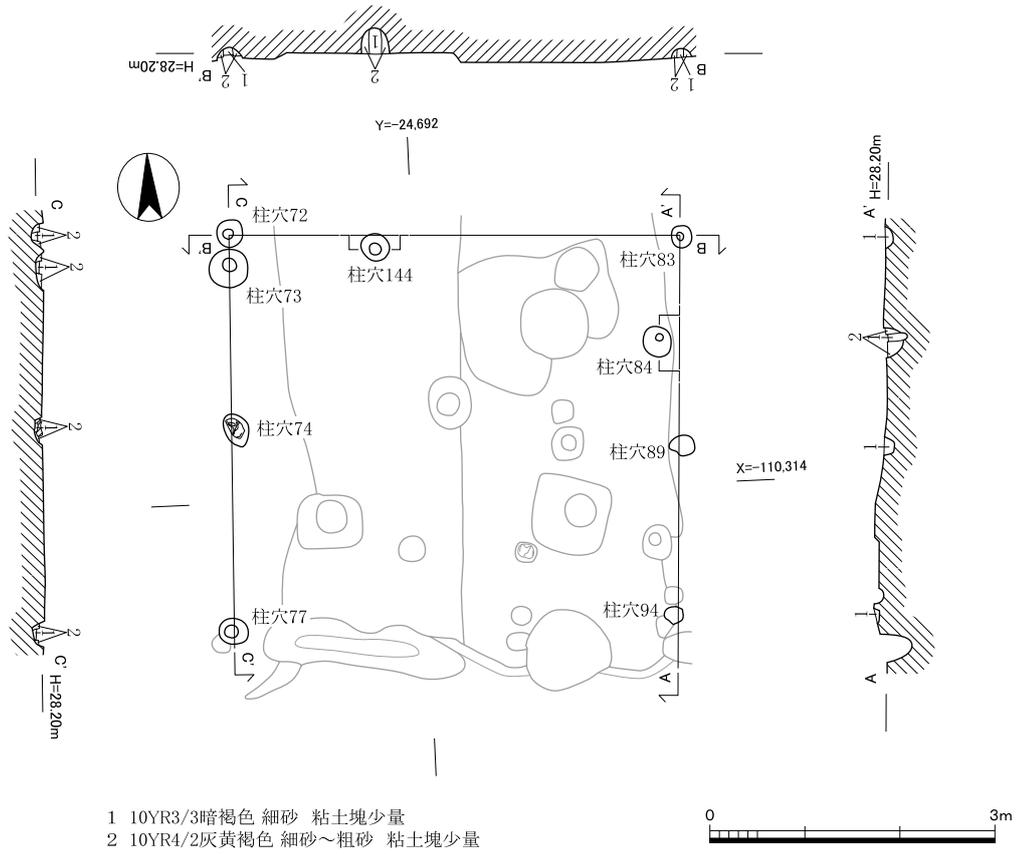


- 1 2.5Y3/3暗オリーブ褐色 細砂 φ2～4cm礫
- 2 2.5Y4/3オリーブ褐色 細砂 φ3～4cm礫少量
- 3 2.5Y4/1黄灰色 細砂 φ2～3cm礫、粘土塊

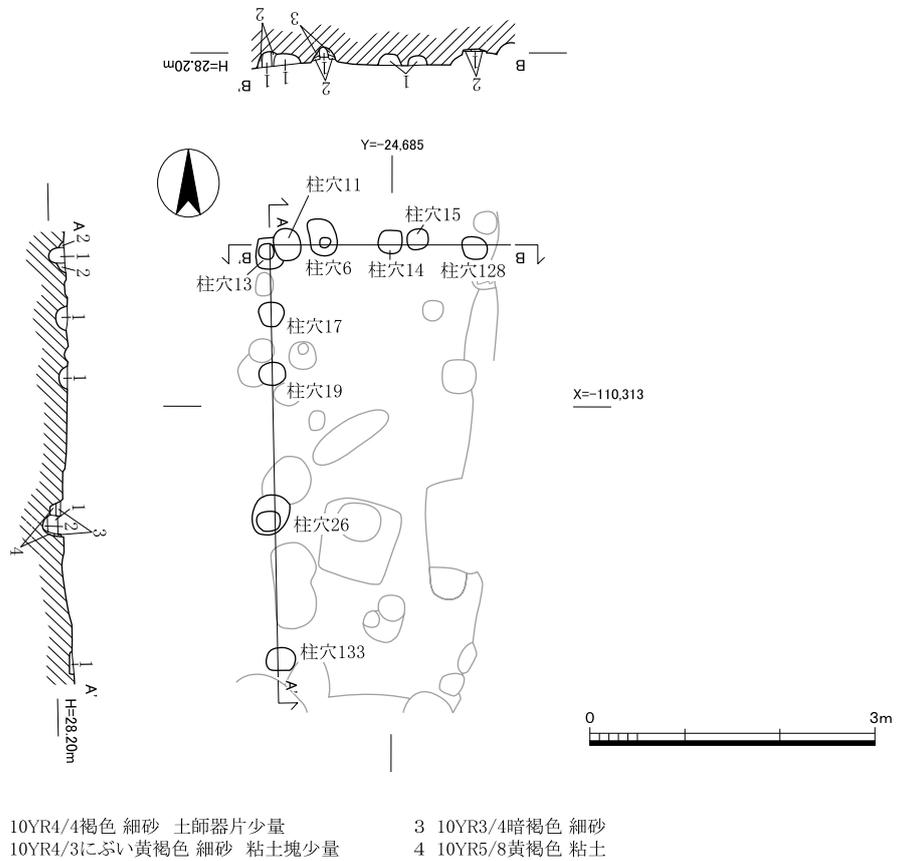


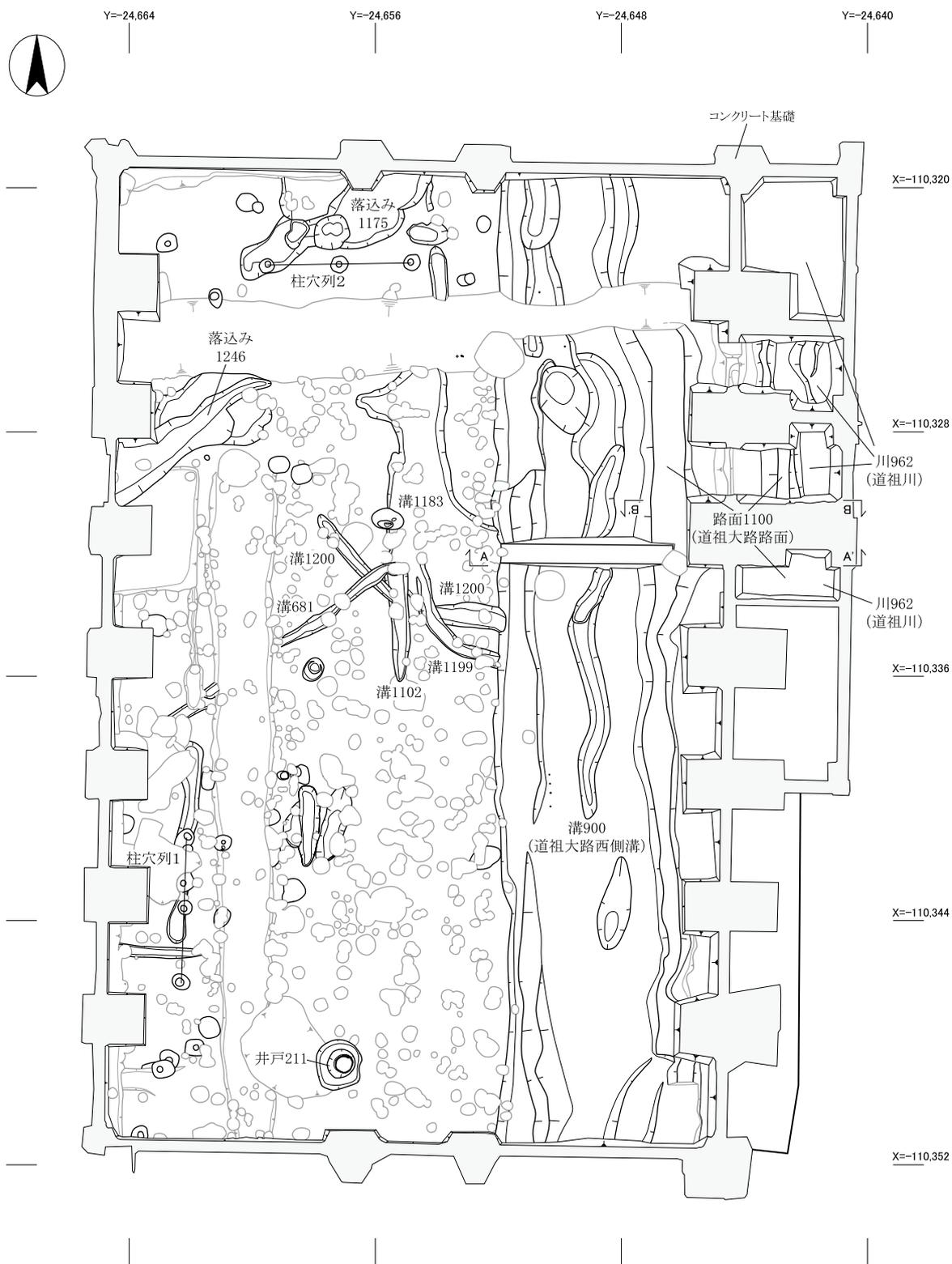
1区建物1・2実測図 (1:80)

建物3



建物4

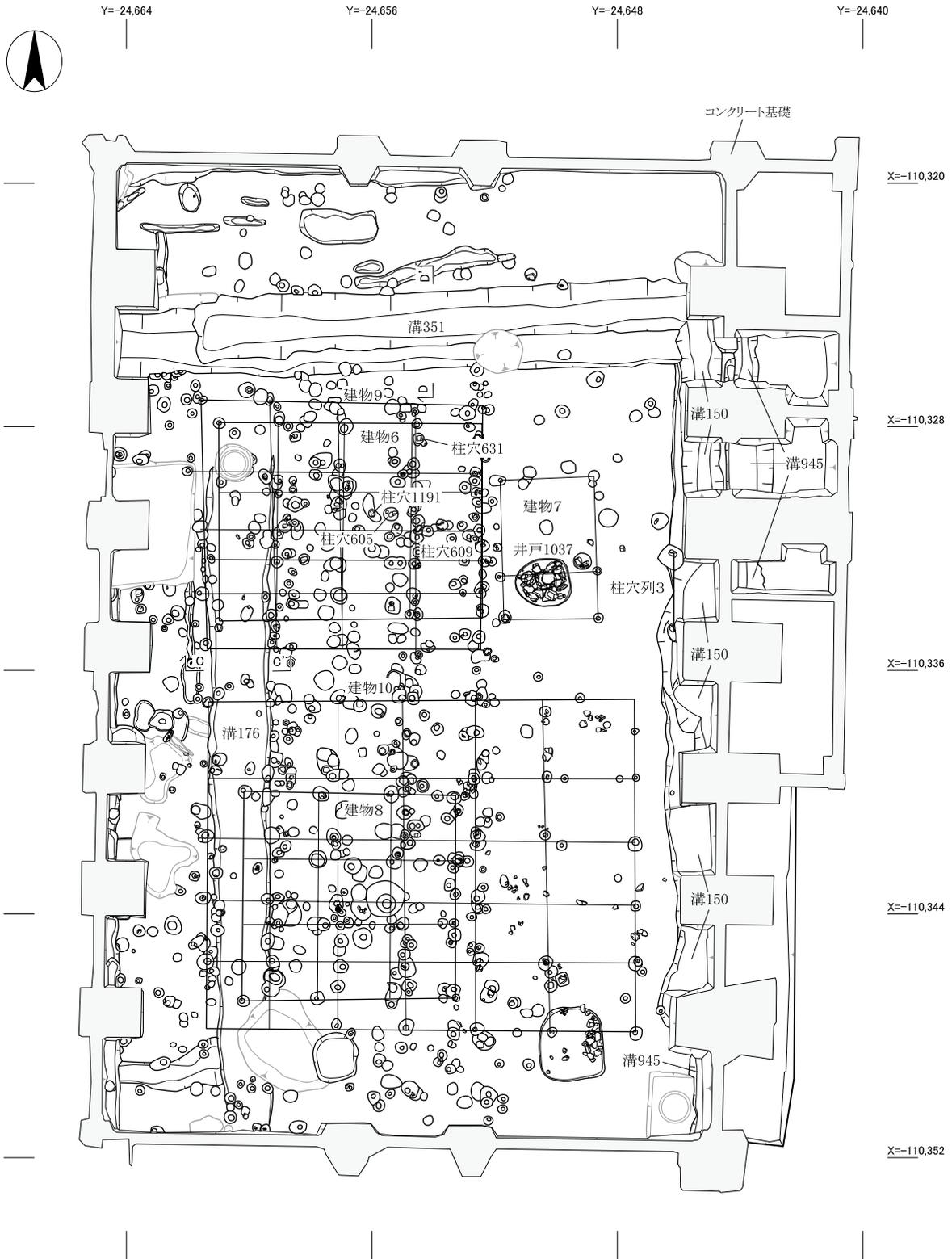




※ A-A'断面ラインは図版10、B-B'断面ラインは図版11に対応。



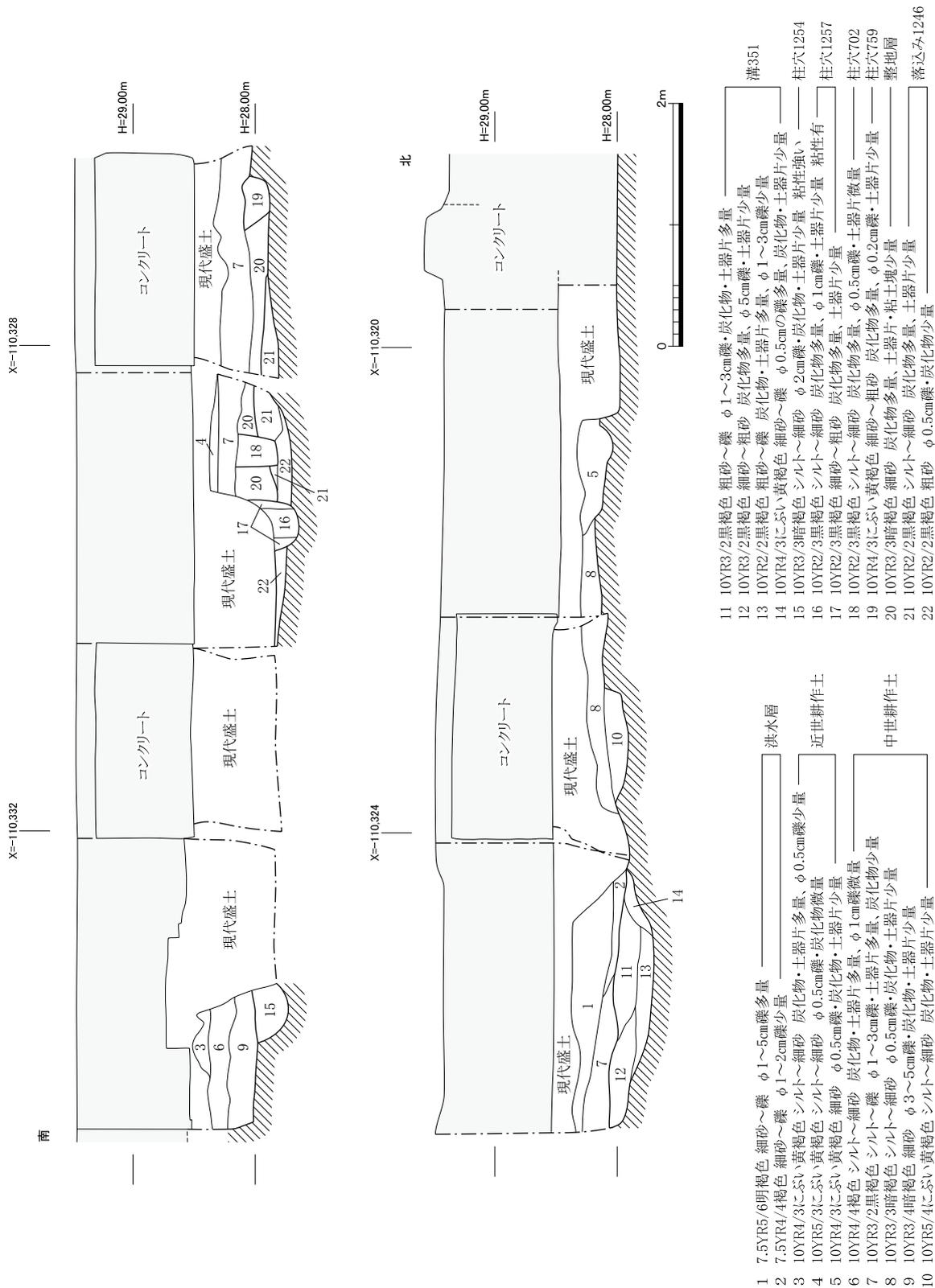
2区第2面平面図 (1 : 200)



※ C-C'断面ラインは図22、D-D'断面ラインは図版11に対応。



2区第1面平面図 (1 : 200)

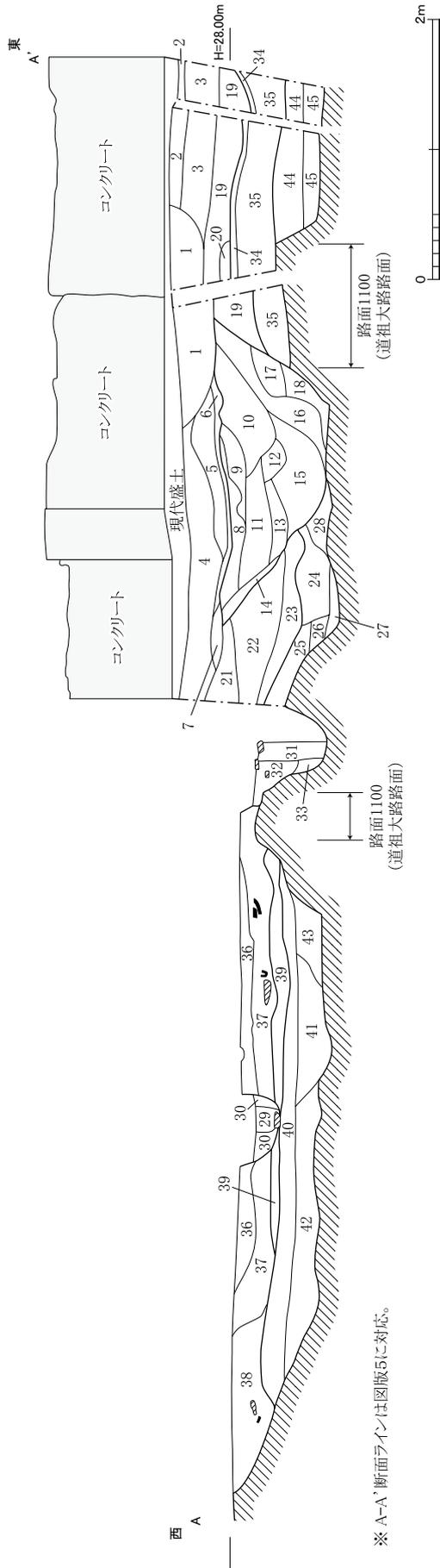


2区西壁断面図 (1 : 50)

Y=-24.652

Y=-24.648

Y=-24.644



※ A-A'断面ラインは図版5に対応。

- 1 10YR4/2灰黄褐色 粗砂 礫 φ1~3cm 礫多量
- 2 10YR4/6褐色 細砂 礫 φ1~3cm 礫多量
- 3 10YR4/3にぶい黄褐色 細砂 礫 φ0.5~2cm 礫多量
- 4 5YR2/4極暗赤褐色 礫 φ1~5cm 礫多量
- 5 2.5Y4/3オリーブ褐色 粗砂 礫 φ0.1cm 礫少量
- 6 2.5Y4/2暗灰黄色 シルト ミナ有
- 7 10YR4/4褐色 シルト 礫 φ1~3cm 礫・炭化物微量
- 8 2.5Y4/1黄灰色 シルト 炭化物微量
- 9 2.5Y4/6オリーブ褐色 粗砂 炭化物微量 ミナ有
- 10 2.5Y4/4オリーブ褐色 粗砂 礫 φ1~5cm 礫多量、漆喰崩れ
- 11 10YR5/6黄褐色 粗砂 礫 φ0.5~3cm 礫多量
- 12 2.5Y4/6オリーブ褐色 粗砂 礫 φ0.2cm 礫多量、φ5cm 礫微量
- 13 2.5Y3/2黒褐色 シルト 礫 φ2~3cm 礫少量、炭化物微量
- 14 10YR3/1黒褐色 粗砂 礫 φ0.1~1cm 礫少量
- 15 10YR3/1黒褐色 粘土 シルト 炭化物多量、φ3~5cm 礫少量
- 16 2.5Y5/6黄褐色 粘土 礫 φ2~3cm 礫多量 堅い(漆喰か?)
- 17 10YR3/3暗褐色 粗砂 礫 φ3cm 礫多量
- 18 10YR3/1黒褐色 シルト 礫 φ3cm 礫・炭化物多量
- 19 10YR4/3にぶい黄褐色 粗砂 礫 φ1~3cm 礫多量
- 20 10YR3/2黒褐色 粗砂 礫 φ1.5cm 礫多量、φ2cm 礫少量
- 21 10YR5/3にぶい褐色 シルト φ0.2cm 礫・炭化物微量
- 22 10YR3/2黒褐色 細砂 粗砂 φ0.5cm 礫少量
- 23 10YR4/2灰褐色 粗砂 礫 φ0.5~3cm 礫・炭化物・土器片多量

- 24 10YR2/3極暗褐色 粘土 φ3cm 礫・木炭粒・瓦片微量
- 25 10YR3/2黒褐色 細砂 φ0.5cm 礫・炭化物少量
- 26 10YR5/6明褐色 粗砂 礫 φ0.5cm 礫多量、φ5cm 礫微量
- 27 10YR2/3極暗褐色 粗砂 礫 φ0.5cm 礫多量、φ1~3cm 礫少量
- 28 10YR3/1黒褐色 粘土 礫 φ2.5~3cm 礫多量、木炭粒少量
- 29 10YR4/4褐色 細砂 φ0.5cm 礫・炭化物・土器片微量
- 30 10YR3/3暗褐色 粗砂 礫 φ3cm 礫・炭化物・土器片少量
- 31 2.5Y3/3暗オリーブ褐色 シルト 礫 φ0.5cm 礫・炭化物少量
- 32 2.5Y3/2黒褐色 粗砂 礫 φ1~2cm 礫・炭化物少量
- 33 2.5Y4/1黄灰色 粗砂 φ1cm 礫少量
- 34 10YR3/4暗褐色 シルト φ1cm 礫・炭化物・土器片微量
- 35 10YR3/2黒褐色 シルト 礫 炭化物多量、φ0.5~2cm 礫微量
- 36 10YR5/4にぶい褐色 細砂 礫 φ1cm 礫・炭化物・土器片多量
- 37 10YR4/2灰黄褐色 粗砂 礫 φ1~3cm 礫・炭化物・土器片多量、φ20cm 石少量
- 38 10YR5/6明褐色 細砂 礫 炭化物多量、φ1~3cm 礫、瓦片少量
- 39 10YR3/2黒褐色 シルト 炭化物多量、φ0.5cm 礫少量 粘性有
- 40 10YR5/3にぶい褐色 粗砂 礫 φ1~2cm 礫多量、土器片少量
- 41 10YR3/2黒褐色 粗砂 礫 φ2~6cm 礫多量
- 42 10YR4/3褐色 粗砂 礫 φ1~5cm 礫多量
- 43 2.5Y4/2暗灰黄色 粗砂 礫 φ1~3cm 礫多量
- 44 10YR4/4褐色 粗砂 礫 φ3~5cm 礫多量、水平堆積
- 45 5YR3/2暗赤褐色 粗砂 礫 φ5~8cm 礫多量、水平堆積

溝150

柱穴966

柱穴1074

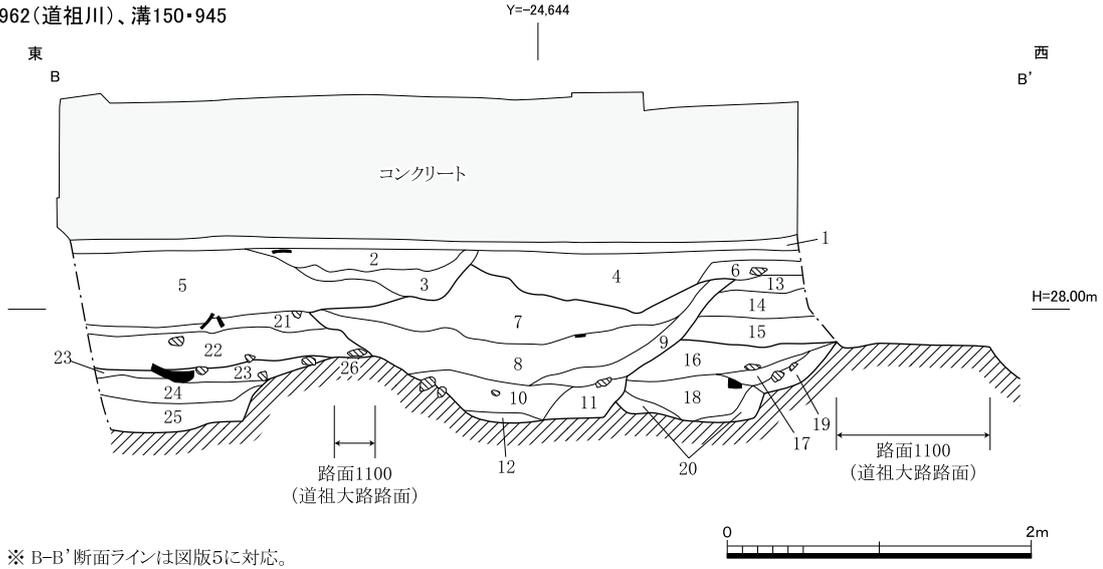
溝945

溝900:道祖大路西側溝上層

溝900:道祖大路西側溝下層

川962:道祖川

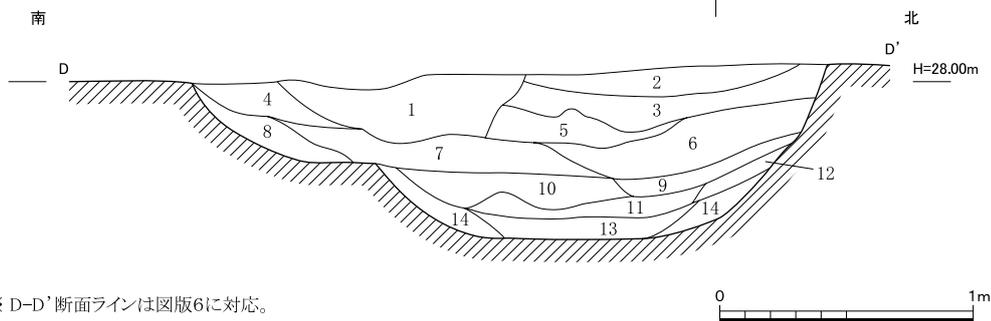
川962(道祖川)、溝150・945



※ B-B'断面ラインは図版5に対応。

- | | | | |
|-----------------------------------|--------------------------|---------------------|------|
| 1 10YR6/2灰黄褐色 礫 φ3~5cm礫多量 | 現代盛土 | 16 10YR4/2灰褐色 粗砂~礫 | 溝150 |
| 2 10YR4/3にぶい黄褐色 シルト~細砂 | 溝945 | φ0.5~3cm礫・炭化物・土器片多量 | |
| 3 10YR4/2灰黄褐色 粗砂~礫 φ1~3cm礫多量 | | 17 10YR3/2黒褐色 細砂 | 溝945 |
| 4 10YR5/6黄褐色 粗砂~礫 φ0.5~5cm礫多量 | φ0.5cm礫・木炭粒少量 | | |
| 5 10YR4/6褐色 粗砂~礫 φ1~5cm礫多量 | 18 10YR2/3極暗褐色 粘土 | 溝945 | |
| 6 10YR4/4褐色 シルト~細砂 | φ3cm礫・炭化物・瓦片微量 | | |
| 7 10YR4/3にぶい黄褐色 シルト~細砂 | 19 10YR5/6明褐色 粗砂~礫 | 溝945 | |
| φ0.1cm礫・炭化物微量 ラミナ有 | φ0.5cm礫多量、φ5cm礫微量 | | |
| 8 10YR4/3にぶい黄褐色 粗砂~礫 | 20 10YR2/3極暗褐色 粗砂~礫 | 溝945 | |
| φ0.5~2cm礫多量 ラミナ有 | φ0.5cm礫多量、φ1~3cm礫少量 | | |
| 9 10YR3/1黒褐色 細砂~粗砂 φ0.1~1cm礫少量 | 21 10YR3/4暗褐色 シルト | 溝945 | |
| 10 10YR2/1黒色 粘質土 φ1~3cm礫・骨片少量 | φ1cm礫・炭化物・土器細片微量 | | |
| 11 10YR2/1黒色 粘質土~礫 φ1~2cm礫多量 | 22 10YR3/2黒褐色 シルト~細砂 | 溝945 | |
| 12 10YR3/1黒褐色 粗砂~礫 φ0.5~2cm礫多量 | 炭化物多量、φ0.5~2cm礫微量 | | |
| 13 10YR5/3にぶい褐色 シルト φ0.2cm礫・木炭粒微量 | 23 10YR2/3極暗褐色 シルト~粗砂 | 溝945 | |
| 14 10YR3/2黒褐色 細砂~粗砂 | φ0.2cm礫多量、φ3cm礫・瓦片微量 | | |
| 15 10YR3/1黒褐色 細砂~粗砂 | 24 10YR4/4褐色 粗砂~礫 | 溝945 | |
| φ0.5cm礫・木炭粒多量、土器片少量 | φ3~5cm礫多量、水平堆積 | | |
| | 25 5YR3/2暗赤褐色 粗砂~礫 | 溝945 | |
| | φ5~8cm礫多量、水平堆積 | | |
| | 26 2.5Y5/2暗灰黄色 礫 φ3cm礫多量 | 基盤層 | |

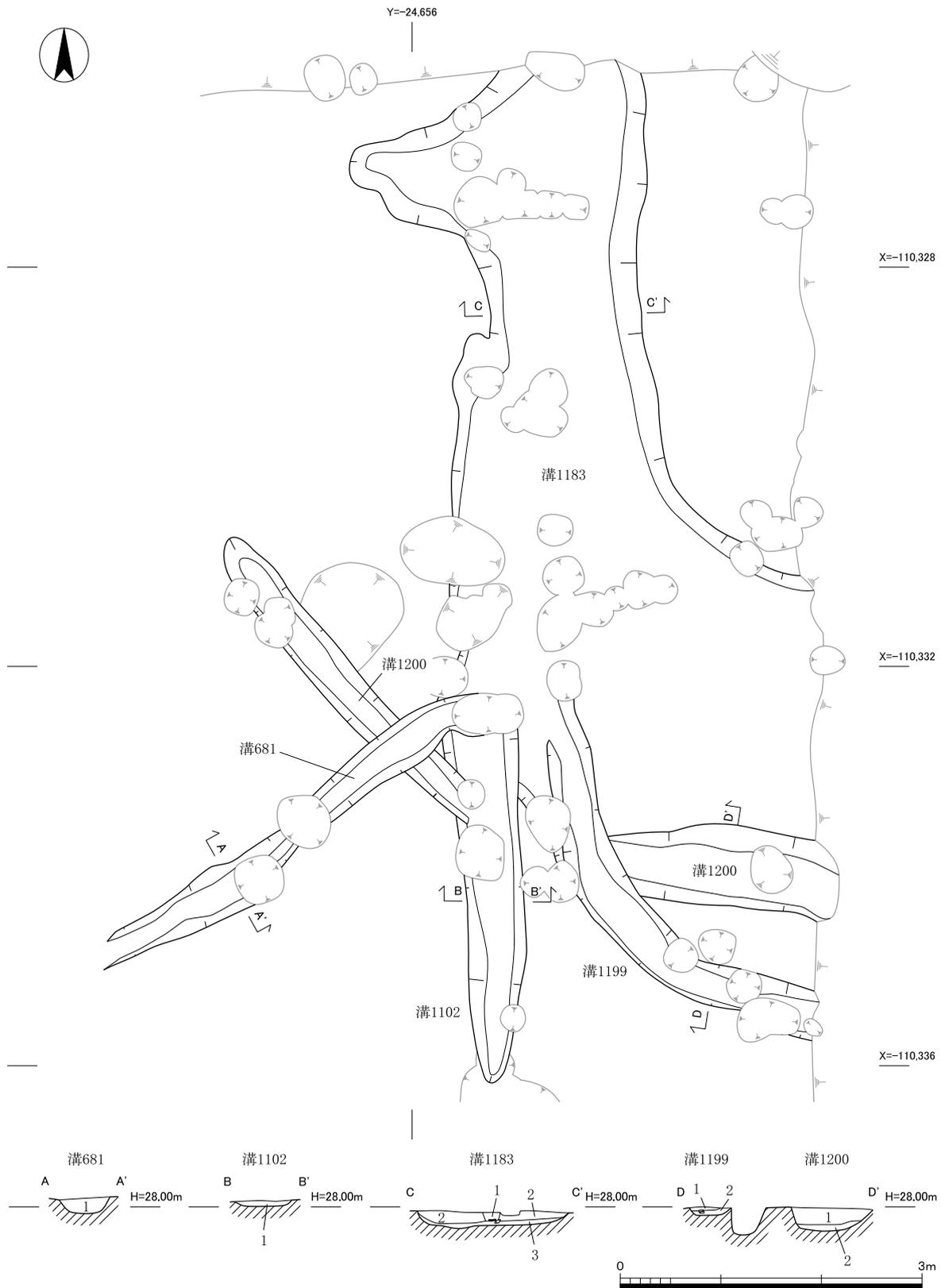
溝351



※ D-D'断面ラインは図版6に対応。

- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| 1 10YR6/2灰黄褐色 細砂 φ10cm礫少量 | 8 10YR4/2灰黄褐色 細砂 φ3cm礫多量 |
| 2 10YR6/6明黄褐色 粗砂 | 9 10YR5/2灰黄褐色 極細砂 |
| 3 10YR6/8明黄褐色 砂礫 φ3cm礫極多量 | 10 10YR3/1黒褐色 極細砂 |
| 4 10YR6/1褐灰色 極細砂 | 11 10YR3/2黒褐色 シルト粘質 |
| 5 10YR5/1褐灰色 極細砂 | 12 10YR4/2灰黄褐色 細砂 φ5cm礫多量 |
| 6 10YR3/1黒褐色 極細砂 φ5cm礫少量 | 13 10YR2/2黒褐色 シルト粘質 |
| 7 10YR4/1褐灰色 極細砂 φ2cm礫混 | 14 10YR3/3暗褐色 細砂 φ5cm礫多量 |

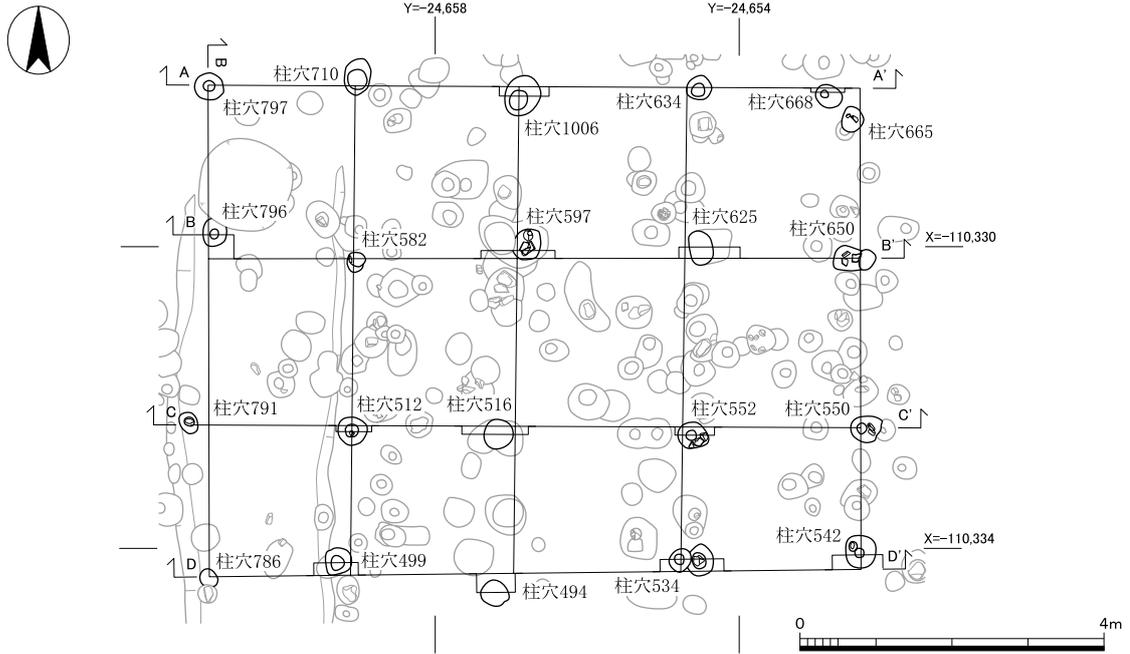
2区川962(道祖川)、溝150・945断面図(1:50)、溝351断面図(1:30)



- 溝681
1 10YR4/2灰黄褐色 細砂 φ10cm礫・土器片・炭化物少量
- 溝1102
1 10YR3/4暗褐色 細砂～粗砂
- 溝1183
1 2.5Y4/1黄灰色 シルト φ1～5cm礫・土器多量
2 2.5Y4/2暗灰黄色 シルト～細砂 φ1～5cm礫・炭化物少量
3 2.5Y3/1黒褐色 シルト 粗砂混

- 溝1199
1 2.5Y3/1黒褐色 シルト～細砂 炭化物少量
2 2.5Y4/1黄灰色 細砂
- 溝1200
1 10YR4/1褐灰色 シルト～細砂 φ3～10cm礫多量 固くしまる
2 2.5Y3/1黒褐色 粘質シルト

2区溝681・1102・1183・1199・1200実測図 (1 : 60)



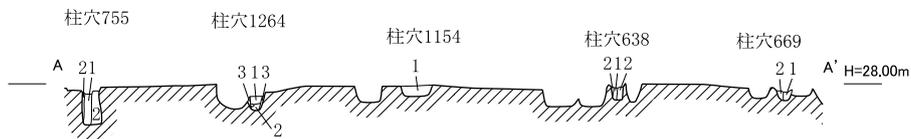
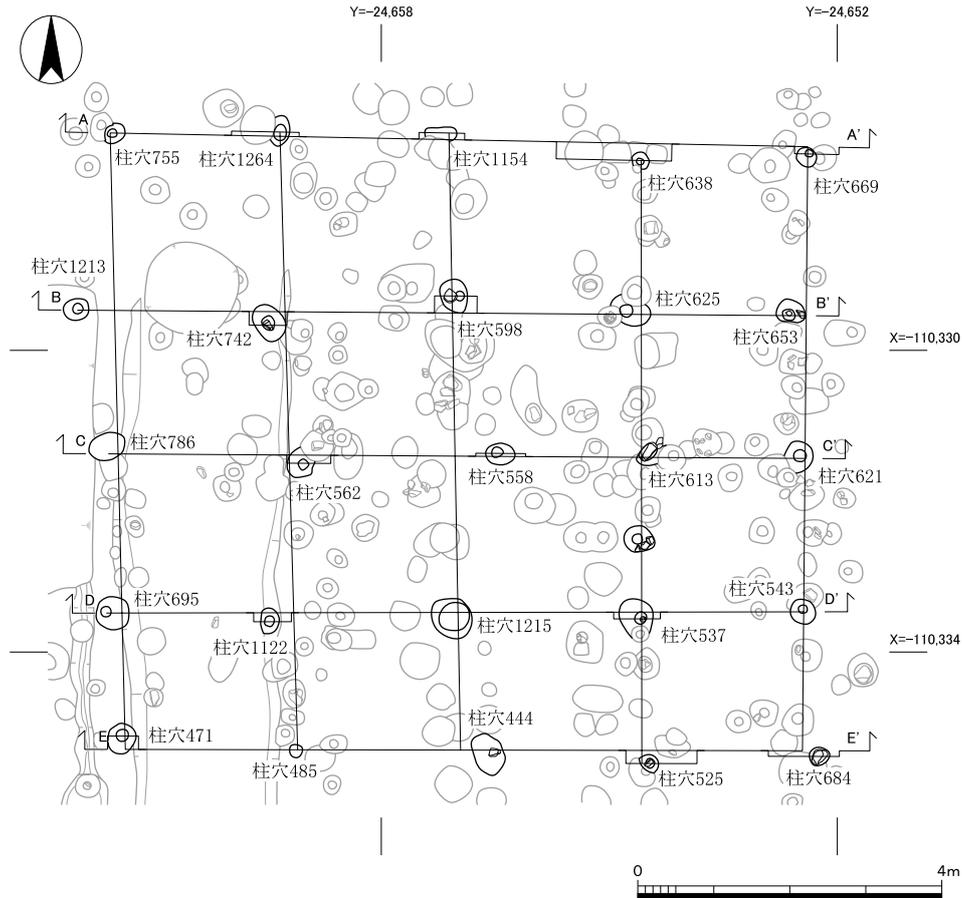
- 柱穴797
 1 2.5Y3/1黒褐色 細砂 φ1~2cm礫・炭化物・土師器片少量
 2 10YR4/2灰黄褐色 粗砂~細砂 φ1~5cm礫・炭化物・土師器片少量
 柱穴710
 1 2.5Y3/2黒褐色 細砂 φ0.5cm礫・炭化物・土師器片少量
 2 10YR4/2灰黄褐色 粗砂 φ2~4cm礫少量・炭化物・土師器片少量
 柱穴1006
 1 10YR4/2灰黄褐色 細砂 φ0.5~3cm礫・炭化物少量
 柱穴634
 1 2.5Y3/2黒褐色 細砂 土師器片少量
 2 10YR3/2黒褐色 粗砂 φ0.5~3cm礫・木炭粒・土師器片少量
 柱穴668
 1 10YR3/3暗褐色 細砂 炭化物・土師器片少量
 2 10YR4/2灰黄褐色 細砂~粗砂 炭化物・土師器片少量

- 柱穴796
 1 10YR3/2黒褐色 細砂 φ1~3cm礫・炭化物・土師器片少量
 2 2.5Y4/2暗灰黄色 細砂~粗砂 φ3cm礫・土師器片少量
 柱穴582
 1 10YR4/2灰黄褐色 粗砂 φ1cm礫・炭化物・土師器片少量
 柱穴597
 1 2.5Y3/2黒褐色 細砂 φ1cm礫・炭化物・土師器片少量
 柱穴625
 1 10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 土師器片少量
 柱穴650
 1 2.5Y4/2暗灰黄色 細砂~粗砂 φ1~10cm礫少量
 2 2.5Y3/3暗オリーブ褐色 細砂 φ0.5~1cm礫多量

- 柱穴791
 1 2.5Y4/3オリーブ褐色 細砂 炭化物少量
 2 2.5Y3/2黒褐色 粗砂 φ2~4cm礫・炭化物・土師器片少量
 柱穴512
 1 2.5Y3/3にぶい黄褐色 シルト 粘質 φ1~2cm礫少量
 2 2.5Y4/2暗灰黄色 細砂 φ3~4cm礫少量
 柱穴516
 1 2.5Y3/2黒褐色 細砂 φ1cm礫・炭化物・土師器片少量
 柱穴552
 1 2.5Y4/2暗灰黄色 細砂 炭化物少量
 2 10YR3/3暗褐色 細砂 φ1~5cm礫・炭化物少量
 柱穴550
 1 10YR3/2黒褐色 細砂
 2 2.5Y3/3暗オリーブ褐色 細砂

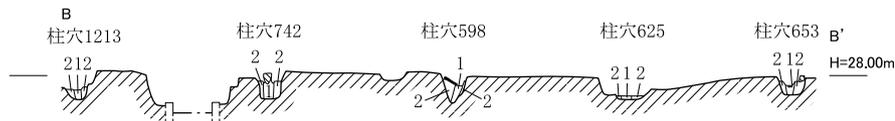
- 柱穴786
 1 10YR4/3にぶい黄褐色 細砂 φ1~6cm礫・炭化物・土師器片少量
 柱穴499
 1 10YR4/2灰黄褐色 細砂 炭化物・土師器片少量
 2 10YR4/3にぶい黄褐色 粗砂 φ1~5cm礫少量
 柱穴494
 1 2.5Y4/2暗灰黄色 細砂 炭化物・土師器片少量
 柱穴534
 1 2.5Y4/1黄灰色 細砂 炭化物・土師器片少量
 柱穴542
 1 2.5Y3/3暗オリーブ褐色 細砂
 2 2.5Y3/2黒褐色 シルト~細砂 やや粘質
 3 2.5Y3/2黒褐色 シルト やや粘質
 4 2.5Y4/2暗灰黄色 細砂 φ3cm礫・土師器片少量
 5 10YR4/2灰黄褐色 細砂
 6 2.5Y3/2黒褐色 細砂 やや粘質

2区建物6実測図 (1 : 100)



- 柱穴755
 1 10YR3/3暗褐色 細砂 炭化物・土師器片・瓦片少量
 2 10YR3/1黒褐色 細砂～粗砂 炭化物多量
 柱穴1264
 1 10YR3/4暗褐色 シルト 炭化物多量、土器片少量
 2 10YR3/3暗褐色 シルト～細砂 炭化物多量、土器片少量
 3 10YR4/3にぶい黄褐色 粗砂 炭化物・土器片少量

- 柱穴1154
 1 10YR3/3暗褐色 シルト 炭化物・土師器片少量
 柱穴638
 1 10YR4/2灰黄褐色 細砂 φ1～3cm礫少量
 2 10YR4/3にぶい黄褐色 細砂 土師器片少量
 柱穴669
 1 10YR4/3にぶい黄褐色 細砂
 2 10YR4/2灰黄褐色 細砂 炭化物・土師器片少量



- 柱穴1213
 1 2.5Y3/2黒褐色 シルト～細砂 炭化物・土師器片
 2 2.5Y3/3暗オリーブ褐色 粗砂 φ2cm礫少量、炭化物・土師器片
 柱穴742
 1 10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 炭化物多量、土器片少量
 2 10YR4/6褐色 細砂～礫 φ2cm礫・粘土ブロック多量
 柱穴598
 1 10YR3/2黒褐色 細砂～礫 φ1～2cm礫・炭化物多量、土器片少量
 2 10YR4/3にぶい黄褐色 粗砂 φ1～2cm礫・炭化物多量、土器片少量

- 柱穴625
 1 10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 土師器片
 2 10YR3/3暗褐色 細砂～粗砂 炭化物・土師器片少量
 柱穴653
 1 10YR3/3暗褐色 細砂 炭化物・土師器片少量
 2 10YR3/2黒褐色 細砂～礫 φ2cm礫多量、炭化物・土器片少量

2区建物9実測図1 (1:100)



柱穴786
1 10YR4/3にぶい黄褐色 細砂 炭化物・土師器片少量

柱穴562
1 2.5Y5/2暗灰黄色 シルト φ0.5cm礫少量
2 10YR6/4にぶい黄褐色 細砂 φ0.5~1cm礫多量

柱穴558
1 10YR4/2灰黄褐色 シルト
2 2.5Y3/3暗オリーブ褐色 シルト~細砂 炭化物少量

柱穴613
1 10YR4/2灰黄褐色 シルト 炭化物少量
2 10YR3/3暗褐色 細砂 炭化物・土師器片少量

柱穴621
1 10YR4/2灰黄褐色 細砂 炭化物・土師器片少量
2 10YR4/3にぶい黄褐色 粗砂 φ1cm礫・炭化物多量



柱穴695
1 2.5Y4/2暗灰黄色 細砂 炭化物・土師器片少量
2 10YR3/1黒褐色 細砂~粗砂 炭化物多量、土器片少量

柱穴1122
1 10YR4/2灰黄褐色 シルト 炭化物少量
2 10YR4/4褐色 細砂 φ1~12cm礫・土師器片少量

柱穴1215
1 2.5Y3/2黒褐色 細砂 炭化物・土師器片少量

柱穴537
1 2.5Y4/2暗灰黄色 細砂 φ2cm礫少量
2 2.5Y3/3暗オリーブ褐色 細砂 炭化物・土師器片少量

柱穴543
1 2.5Y3/2黒褐色 細砂 φ1~2cm礫少量、炭化物少量
2 2.5Y4/1黄灰色 細砂 炭化物少量



柱穴471
1 10YR3/2黒褐色 細砂 炭化物・土師器片少量
2 2.5Y4/2暗灰黄色 細砂 φ1cm礫・炭化物少量

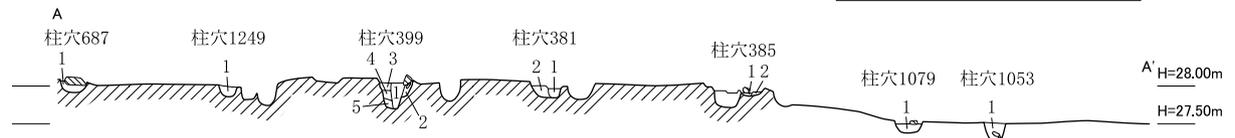
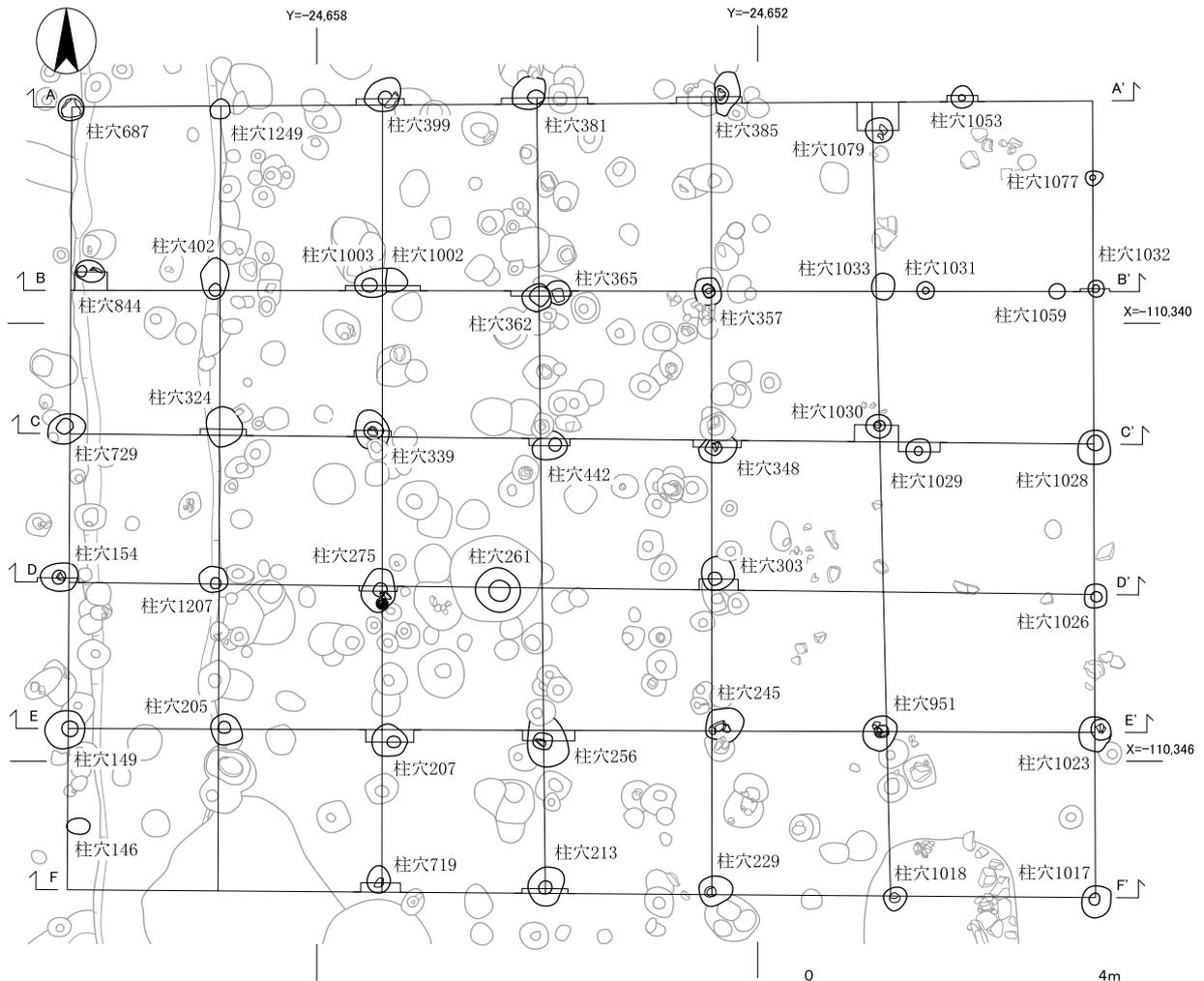
柱穴485
1 10YR4/2灰黄褐色 細砂 炭化物少量

柱穴444
1 2.5Y4/2暗灰黄色 細砂 φ1~2cm礫少量、炭化物・土師器片

柱穴525
1 2.5Y4/2暗灰黄色 細砂 φ2~3cm礫・炭化物少量
2 2.5Y3/3暗オリーブ褐色 粗砂 炭化物・土師器片少量

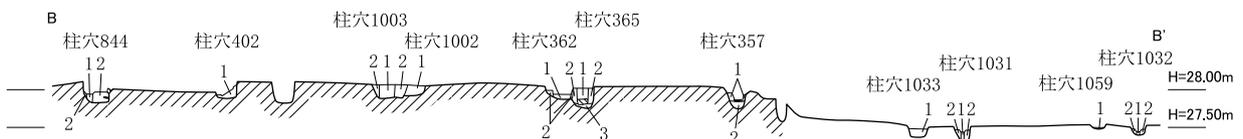
柱穴684
1 2.5Y4/2暗灰黄色 細砂





- 柱穴687
1 2.5Y4/2暗灰黄色 細砂~粗砂 炭化物・土師器片少量
柱穴1249
1 2.5Y4/2暗灰黄色 細砂~粗砂
柱穴399
1 2.5Y3/2黒褐色 細砂 炭化物少量
2 2.5Y4/1黄灰色 細砂 φ0.5~1cm礫少量
3 2.5Y3/2黒褐色 細砂~粗砂 φ0.5~4cm礫・炭化物少量
4 2.5Y4/1黄灰色 粗砂~礫 φ1~4cm礫・炭化物・土師器片少量
5 2.5Y4/2暗灰黄色 粗砂~礫 φ2cm礫・炭化物少量

- 柱穴381
1 2.5Y3/1黒褐色 細砂 炭化物・土師器片少量
2 2.5Y4/2暗灰黄色 粗砂 φ1~5cm礫
柱穴385
1 2.5Y4/2暗灰黄色 細砂 やや粘質 炭化物少量
2 2.5Y4/3オリーブ褐色 粗砂 φ0.5~2cm礫多量
柱穴1079
1 10YR4/2灰黄褐色 細砂 炭化物少量
柱穴1053
1 10YR4/2灰黄褐色 細砂 土師器片・瓦片少量

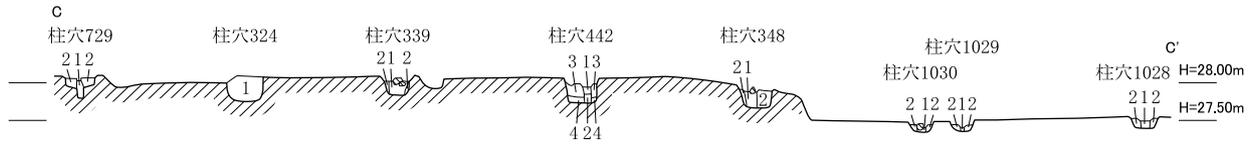


- 柱穴844
1 2.5Y3/2黒褐色 細砂 φ1cm礫少量
2 10YR5/2灰黄褐色 細砂~粗砂
柱穴402
1 2.5Y4/2暗灰黄色 細砂~粗砂 φ1~3cm礫少量
柱穴1003
1 10YR2/3黒褐色 細砂
2 10YR3/2黒褐色 粗砂~礫 φ1~2cm礫多量
柱穴1002
1 10YR4/1褐灰色 細砂~粗砂 φ1~2cm礫多量

- 柱穴362
1 10YR3/3暗褐色 細砂 やや粘質
2 10YR4/1褐灰色 細砂~粗砂 φ2cm礫少量
柱穴365
1 10YR3/2黒褐色 シルト~細砂
2 10YR3/1黒褐色 細砂
3 10YR4/1褐灰色 細砂~粗砂 φ2cm礫少量
柱穴357
1 10YR3/1黒褐色 細砂 やや粘質
2 10YR2/2黒褐色 細砂~粗砂 φ1~2cm礫少量

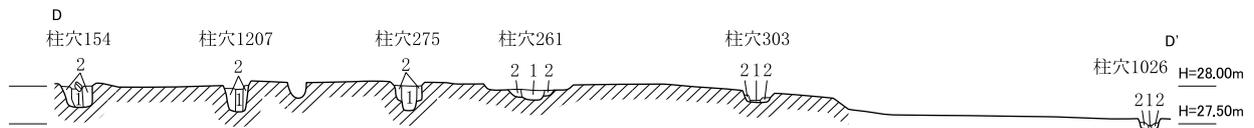
- 柱穴1033
1 10YR3/2黒褐色 シルト やや粘質
柱穴1031
1 10YR3/2黒褐色 シルト~細砂 φ1cm礫少量
2 10YR2/2黒褐色 細砂~粗砂
柱穴1059
1 10YR4/4褐色 細砂~粗砂
柱穴1032
1 2.5Y5/1黄灰色 シルト~細砂
2 2.5Y5/1黄灰色 細砂~粗砂

2区建物10実測図1 (1:100)



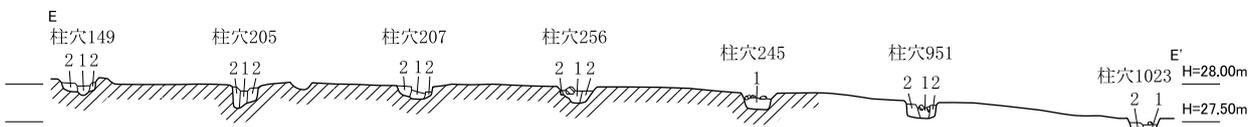
- 柱穴729
1 2.5Y4/2暗灰黄色 細砂 炭化物・土師器片少量
2 2.5Y4/1黄灰色 細砂～粗砂 炭化物・土師器片少量
- 柱穴324
1 2.5Y3/3暗オリーブ褐色 細砂 炭化物少量
- 柱穴339
1 2.5Y3/1黒褐色 細砂 やや粘質 炭化物・土師器片
2 2.5Y3/2黒褐色 粗砂 やや粘質 φ2cm礫・炭化物・土師器片少量
- 柱穴442
1 10YR3/1黒褐色 シルト～細砂 粘質 炭化物・土師器片少量
2 2.5Y3/1黒褐色 シルト～細砂 φ1～2cm礫・炭化物少量
3 10YR3/2黒褐色 細砂～粗砂 φ1～4cm礫少量
4 2.5Y4/1黄灰色 細砂～粗砂 やや粘質 φ0.5cm礫少量

- 柱穴348
1 2.5Y3/1黒褐色 シルト～細砂 粘質 炭化物少量
2 2.5Y3/1黒褐色 細砂～粗砂 φ1～3cm礫少量
- 柱穴1030
1 10YR3/2黒褐色 シルト～細砂
2 10YR4/1褐色 細砂～粗砂 炭化物・土師器片少量
- 柱穴1029
1 10YR3/3暗褐色 シルト～細砂 φ1～3cm礫少量
2 10YR4/1褐色 細砂～粗砂 φ2cm礫・炭化物少量
- 柱穴1028
1 2.5Y3/1黒褐色 シルト～細砂
2 2.5Y3/2黒褐色 細砂～粗砂 φ1～3cm礫・炭化物少量



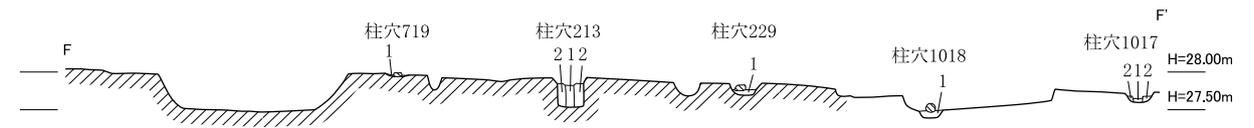
- 柱穴154
1 2.5Y3/2黒褐色 細砂～粗砂 φ0.5cm礫少量・炭化物・土師器片
2 2.5Y3/2黒褐色 細砂～粗砂 φ1～3cm礫・炭化物少量
- 柱穴1207
1 10YR4/4褐色 シルト 炭化物・土師器片
2 10YR3/2黒褐色 細砂～粗砂 φ1～4cm礫少量
- 柱穴275
1 2.5Y3/2黒褐色 細砂 φ1～3cm礫・炭化物少量
2 2.5Y3/1黒褐色 細砂 φ2～5cm礫・炭化物少量

- 柱穴261
1 10YR4/1褐色 シルト 炭化物・土師器片少量
2 10YR4/1褐色 細砂～粗砂 φ1～2cm礫・炭化物・土師器片少量
- 柱穴303
1 10YR4/2灰黄褐色 細砂 φ1～3cm礫・炭化物少量
2 10YR4/3にぶい黄褐色 細砂 φ1～5cm礫
- 柱穴1026
1 2.5Y3/2黒褐色 シルト φ0.5cm礫微量
2 2.5Y4/2暗灰黄色 シルト～細砂 炭化物少量



- 柱穴149
1 10YR4/2灰黄褐色 細砂 炭化物・土師器片少量
2 2.5Y4/2暗灰黄色 細砂～粗砂
- 柱穴205
1 10YR3/2黒褐色 シルト～細砂 粘質 炭化物・土師器片
2 2.5Y3/2黒褐色 細砂 φ1～2.5cm礫・炭化物・土師器片少量
- 柱穴207
1 2.5Y3/2黒褐色 細砂 炭化物・土師器片少量
2 2.5Y3/1黒褐色 細砂～粗砂 φ1cm礫・炭化物・土師器片少量
- 柱穴256
1 10YR4/2灰黄褐色 細砂 φ1～5cm礫微量
2 10YR4/2灰黄褐色 細砂～粗砂 φ1～2cm礫・炭化物少量

- 柱穴245
1 2.5Y4/2暗灰黄色 細砂～礫 φ1～3cm礫
- 柱穴951
1 10YR2/3黒褐色 シルト やや粘質 炭化物少量
2 10YR2/3黒褐色 細砂 炭化物少量
- 柱穴1023
1 2.5Y3/2黒褐色 シルト 炭化物少量
2 2.5Y3/1黒褐色 粗砂 φ2cm礫・炭化物・土師器片少量

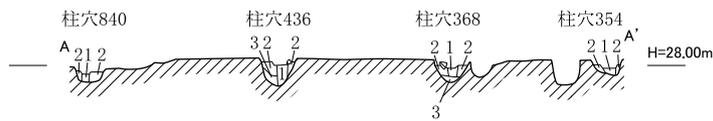
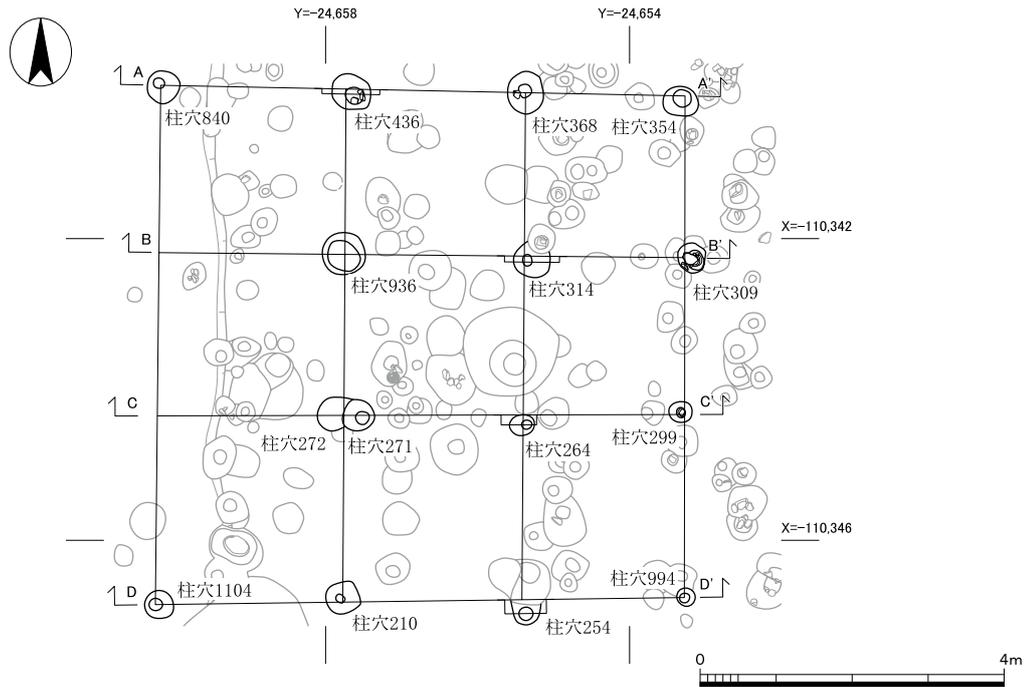


- 柱穴719
1 2.5Y3/3暗オリーブ褐色 粗砂 φ1～4cm礫
- 柱穴213
1 10YR4/2灰黄褐色 細砂 やや粘質 炭化物・土師器片少量
2 2.5Y3/2黒褐色 細砂～礫 φ1～4cm礫
- 柱穴229
1 10YR3/2黒褐色 細砂～礫 φ1～2cm礫・炭化物多量

- 柱穴1018
1 10YR3/2黒褐色 細砂 φ1～3cm礫少量
- 柱穴1017
1 2.5Y3/2黒褐色 シルト～細砂
2 2.5Y3/2暗オリーブ褐色 シルト～粗砂 φ1cm礫少量



2区建物10実測図2 (1:100)



柱穴840

- 1 10YR4/1 褐灰色 細砂 土師器片
- 2 2.5Y4/2 暗灰黄色 細砂～粗砂 炭化物少量

柱穴436

- 1 2.5Y3/1 黒褐色 シルト～細砂 粘質 φ1～3cm 礫・炭化物少量
- 2 2.5Y3/2 黒褐色 細砂 炭化物少量
- 3 2.5Y4/1 黄灰色 細砂～粗砂 炭化物少量

柱穴368

- 1 2.5Y4/2 暗灰黄色 細砂 φ3cm 礫少量
- 2 2.5Y4/2 暗灰黄色 細砂～粗砂 φ2～3cm 礫少量
- 3 2.5Y4/1 灰黄色 粗砂～礫 φ1～3cm 礫少量

柱穴354

- 1 2.5Y4/1 黄灰色 細砂 φ2cm 礫少量
- 2 2.5Y4/2 暗灰黄色 細砂～粗砂 φ2～4cm 礫・炭化物少量



柱穴936

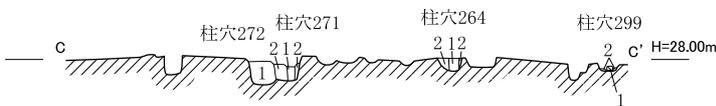
- 1 2.5Y4/2 暗灰黄色 細砂 炭化物多量、φ1～5cm 礫・土師器片少量
- 2 2.5Y3/2 黒褐色 細砂～粗砂 炭化物少量

柱穴314

- 1 10YR3/2 黒褐色 シルト～細砂 炭化物・土師器片
- 2 10YR3/2 黒褐色 細砂 φ1～2cm 礫・炭化物・土師器片

柱穴309

- 1 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 細砂～礫 φ4～5cm 礫
- 2 10YR3/2 黒褐色 細砂 やや粘質 φ1～3cm 礫少量



柱穴272

- 1 10YR4/4 黒褐色 細砂 φ1～7cm 礫・炭化物少量

柱穴271

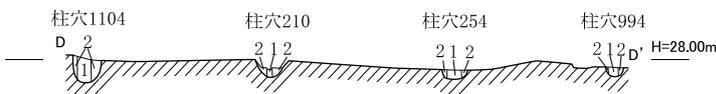
- 1 10YR4/2 灰黄褐色 細砂 炭化物・土師器片少量
- 2 10YR4/4 褐色 粗砂 φ1～4cm 礫・土師器片少量

柱穴264

- 1 10YR4/1 褐灰色 細砂 炭化物・土師器片少量
- 2 10YR3/2 黒褐色 細砂～粗砂 φ1～2cm 礫少量

柱穴299

- 1 10YR4/2 灰黄褐色 細砂～粗砂 φ1～4cm 礫・炭化物少量
- 2 10YR3/2 黒褐色 粗砂 φ1～2cm 礫少量



柱穴1104

- 1 10YR4/2 灰黄褐色 細砂～粗砂 炭化物・土師器片・瓦片少量
- 2 10YR2/2 黒褐色 細砂～粗砂 炭化物・土師器片少量

柱穴210

- 1 10YR4/1 褐灰色 細砂 φ1cm 礫・炭化物・土師器片少量
- 2 10YR4/4 褐色 粗砂～礫 φ1～5cm 礫

柱穴254

- 1 10YR3/2 黒褐色 シルト～細砂 炭化物・土師器片
- 2 10YR2/2 黒褐色 粗砂 炭化物・土師器片少量

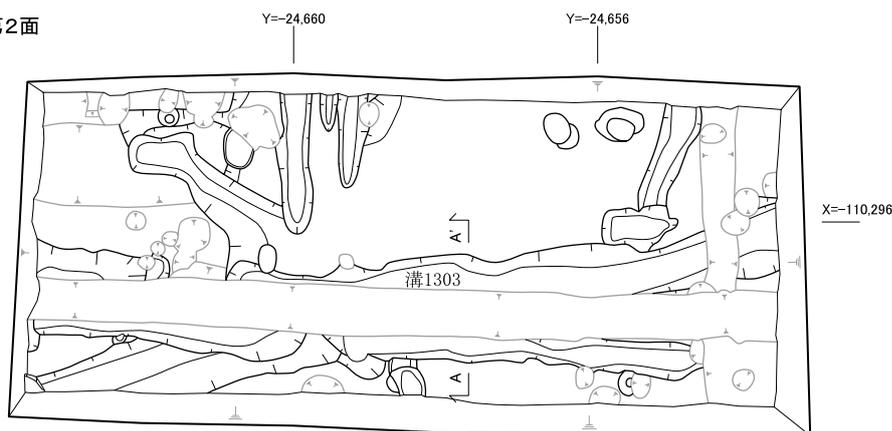
柱穴994

- 1 10YR4/3 にこい黄褐色 細砂 炭化物・土師器片
- 2 10YR4/4 褐色 細砂～粗砂 炭化物少量

2区建物8実測図 (1:100)

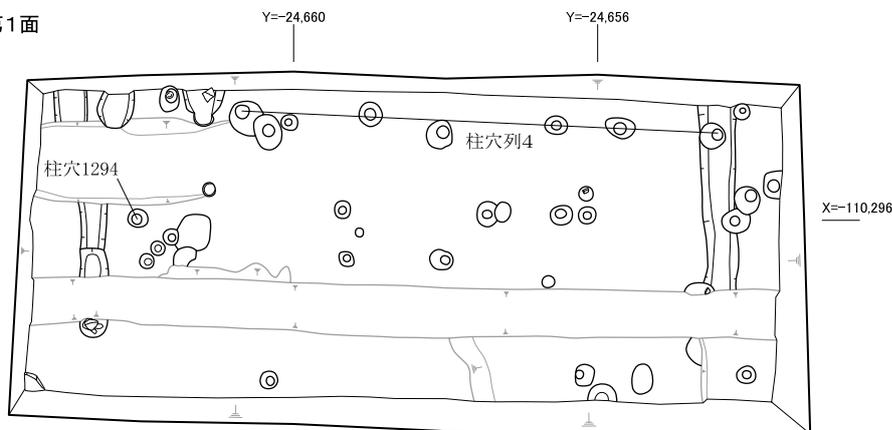


第2面

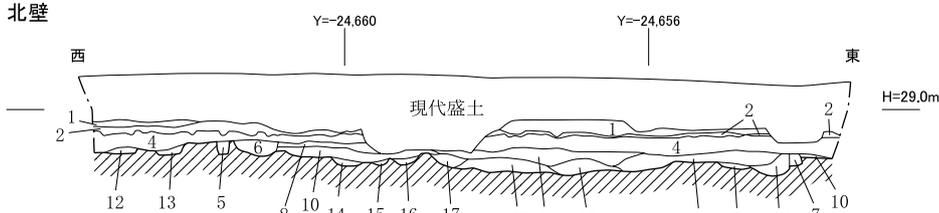


※ A-A'断面ラインは図25に対応。

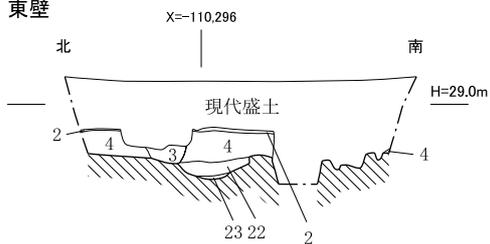
第1面



北壁



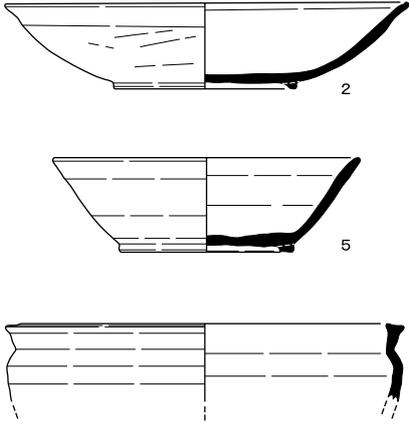
東壁



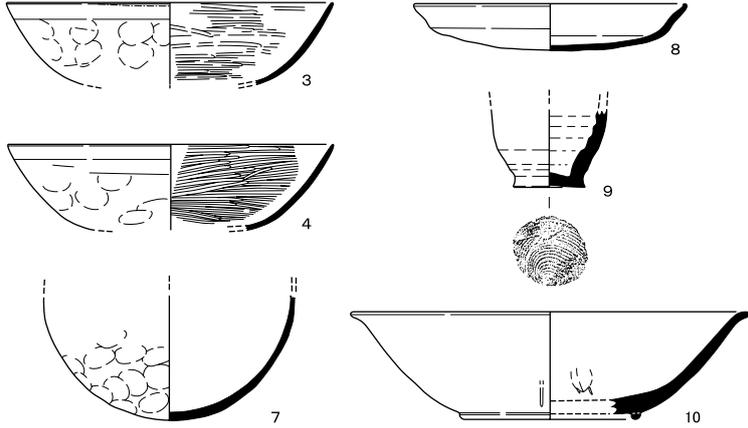
- | | | |
|----|---|--------|
| 1 | 10YR4/4褐色 粗砂～礫 φ0.2～1cm礫多量 | 洪水層 |
| 2 | 10YR5/3にぶい黄褐色 細砂 炭化物微量 | |
| 3 | 10YR3/1黒褐色 細砂
粘土塊多量、φ0.5cm礫・炭化物少量 | 柱穴1330 |
| 4 | 10YR4/2灰黄褐色 細砂～礫
φ1～2cm礫・炭化物・土器片多量 | 耕作土 |
| 5 | 10YR3/2黒褐色 細砂 粘土塊多量、土器片微量 | 柱穴1298 |
| 6 | 10YR4/2灰黄褐色 シルト～細砂
φ0.2cm礫・炭化物・土器片微量 | 柱穴1320 |
| 7 | 10YR4/2灰黄褐色 シルト～細砂 炭化物微量 | 柱穴1335 |
| 8 | 10YR3/3暗褐色 細砂 φ0.2cm礫・粘土塊・炭化物少量 | 整地層 |
| 9 | 10YR4/2灰黄褐色 細砂 φ0.1cm礫・炭化物多量 | |
| 10 | 10YR3/2黒褐色 シルト～細砂
粘土塊多量、炭化物・土器片微量 | 耕作溝 |
| 11 | 10YR3/2黒褐色 細砂 粘土塊・炭化物多量、土器片微量 | |
| 12 | 10YR5/3にぶい黄褐色 シルト φ0.1cm礫・炭化物微量 | |
| 13 | 10YR4/3にぶい黄褐色 シルト～細砂 粘土塊・炭化物少量 | |
| 14 | 10YR4/2灰黄褐色 シルト 粘土塊多量、炭化物微量 | |
| 15 | 10YR4/2灰黄褐色 シルト 粘土塊多量、炭化物微量 | |
| 16 | 10YR4/2灰黄褐色 シルト～細砂 粘土塊多量、炭化物微量 | |
| 17 | 10YR4/1褐灰色 細砂～粗砂
φ0.1cm礫・粘土塊多量、土器片微量 | |
| 18 | 10YR4/1褐灰色 シルト～細砂 粘土塊多量、炭化物少量 | 溝1348 |
| 19 | 10YR3/2黒褐色 細砂～粗砂
φ0.1cm礫多量、炭化物・土器片少量 | |
| 20 | 10YR3/2黒褐色 細砂～粗砂
φ0.1～0.5cm礫多量、粘土塊・炭化物少量 | |
| 21 | 10YR3/1黒褐色 シルト 粘土塊多量、炭化物微量 | 溝1345 |
| 22 | 10YR3/2黒褐色 シルト～細砂 炭化物・粘土塊微量 | 溝1303 |
| 23 | 10YR3/1黒褐色 細砂～粗砂 φ0.2cm礫多量 | |

3区実測図 (1:100)

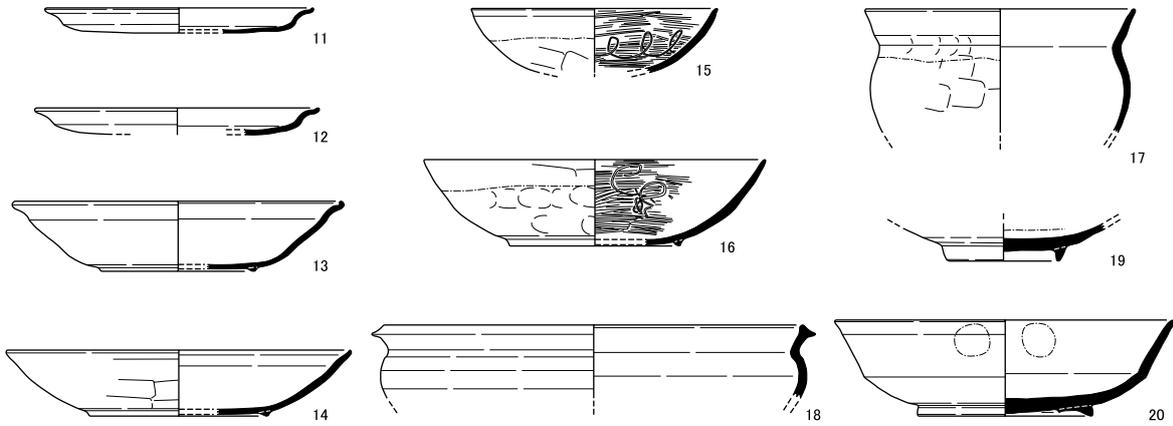
溝1183



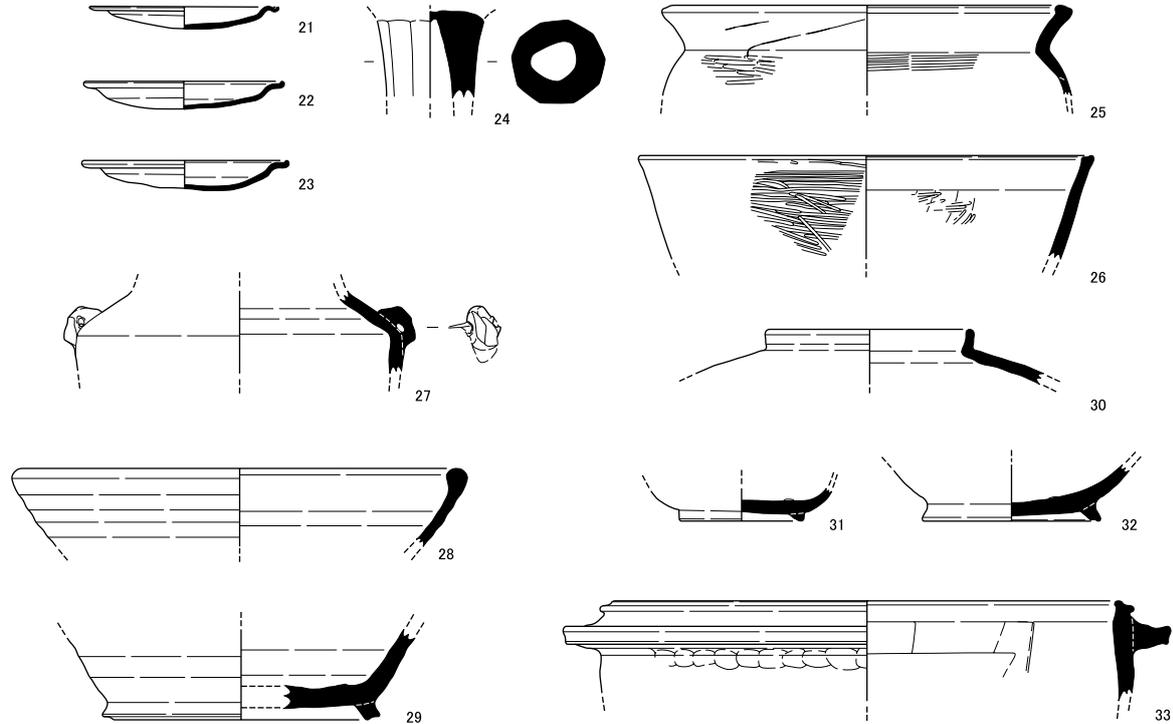
落込み1246



落込み1175

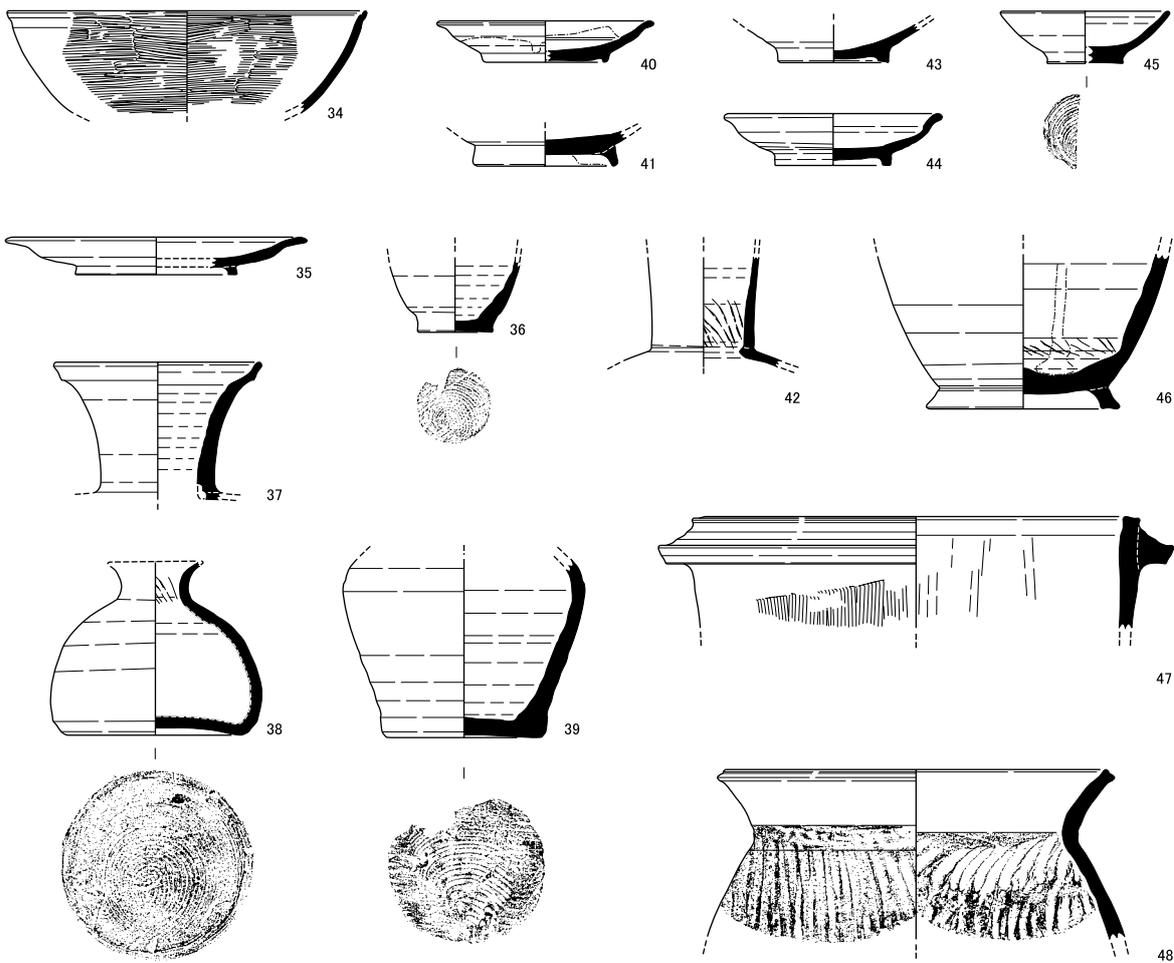


井戸211

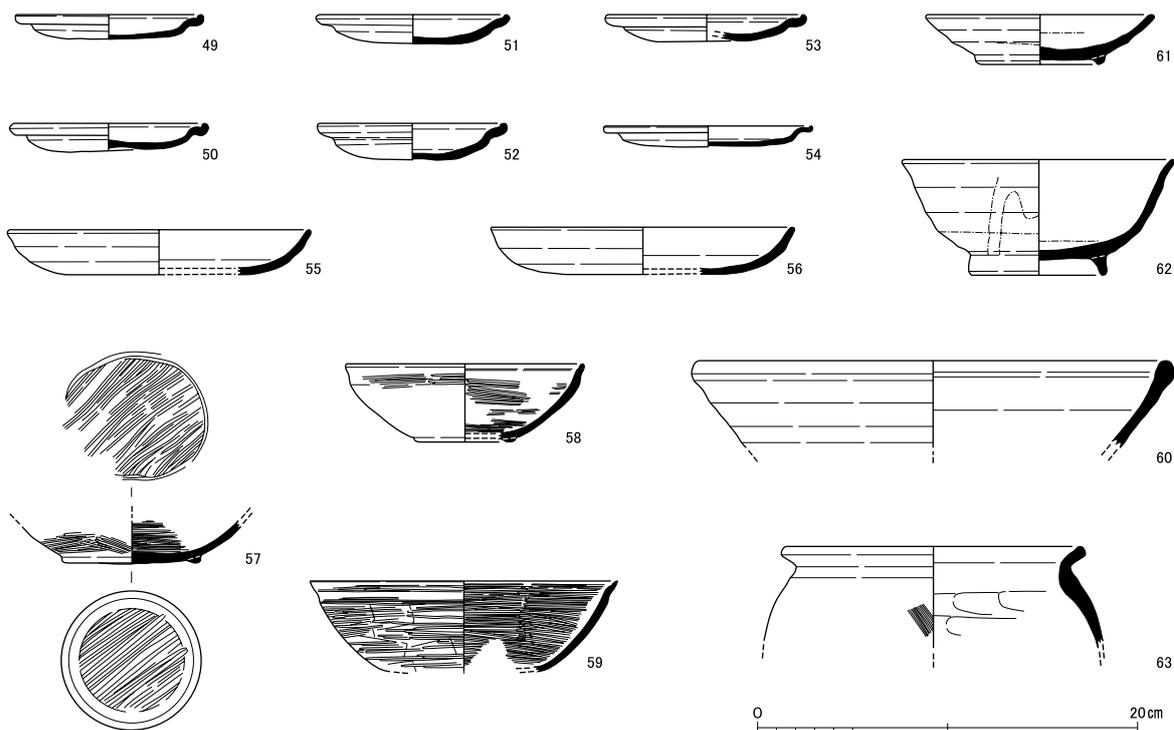


溝1183、落込み1246・1175、井戸211出土土器実測図（1：4）

溝900下層



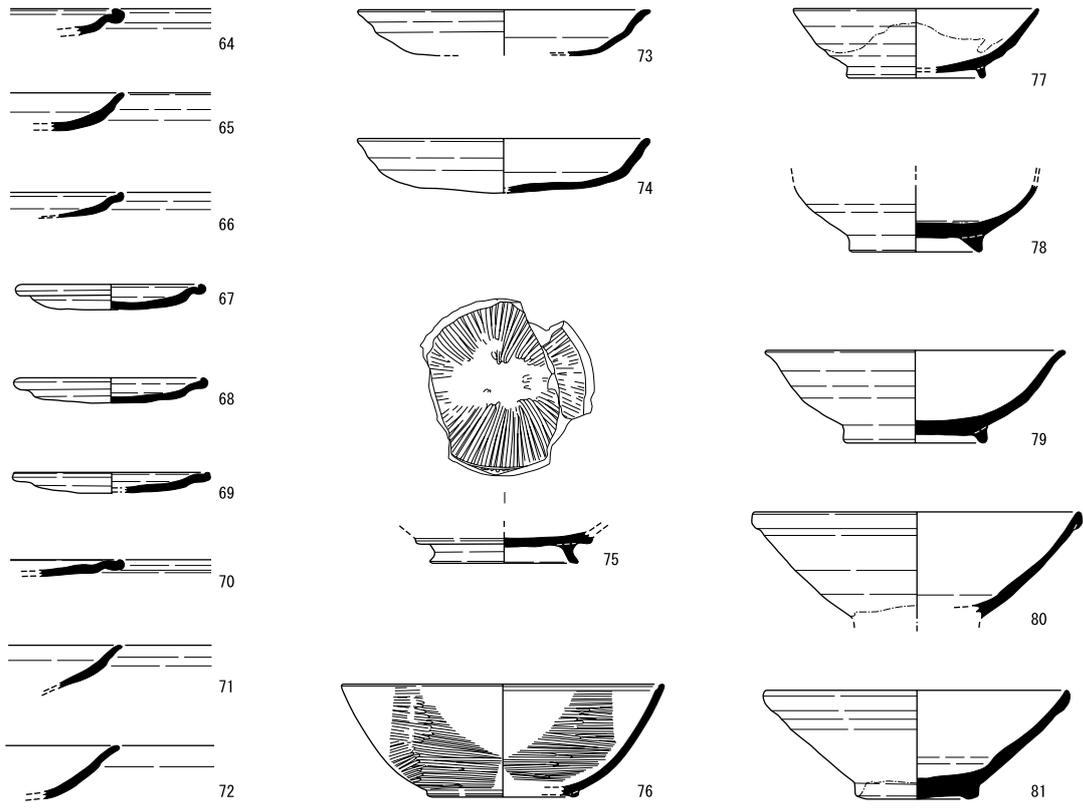
溝900上層



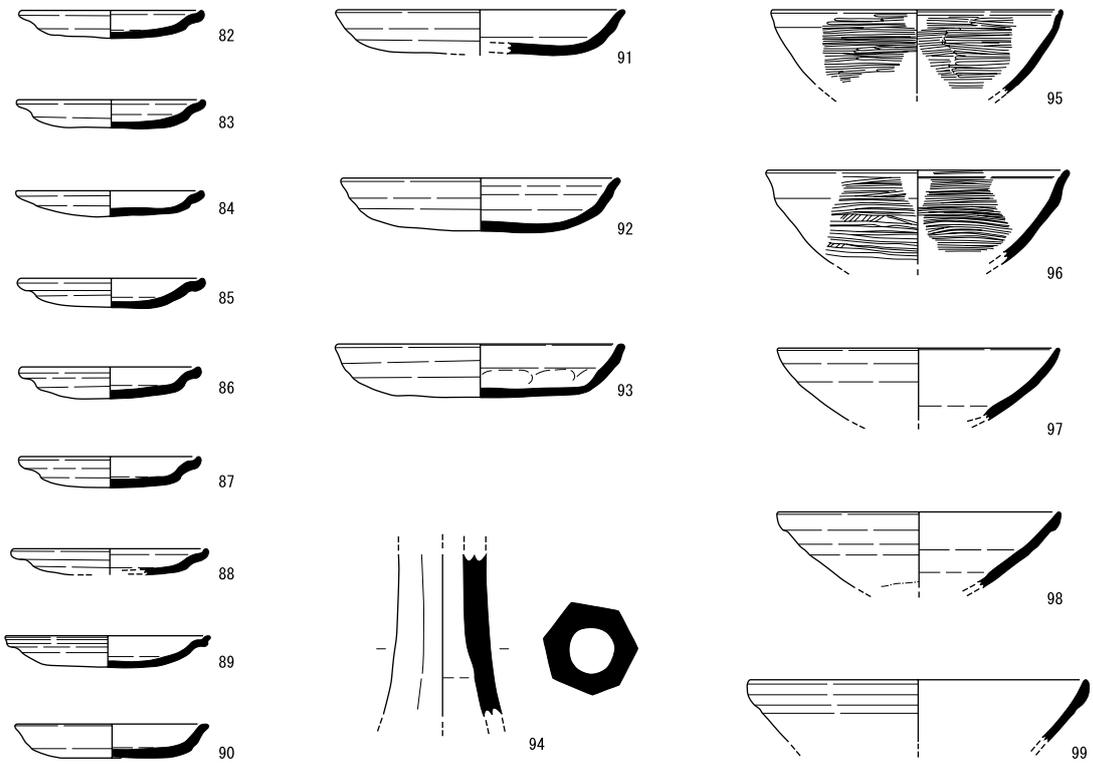
0 20cm

溝900出土土器実測図（1：4）

整地層

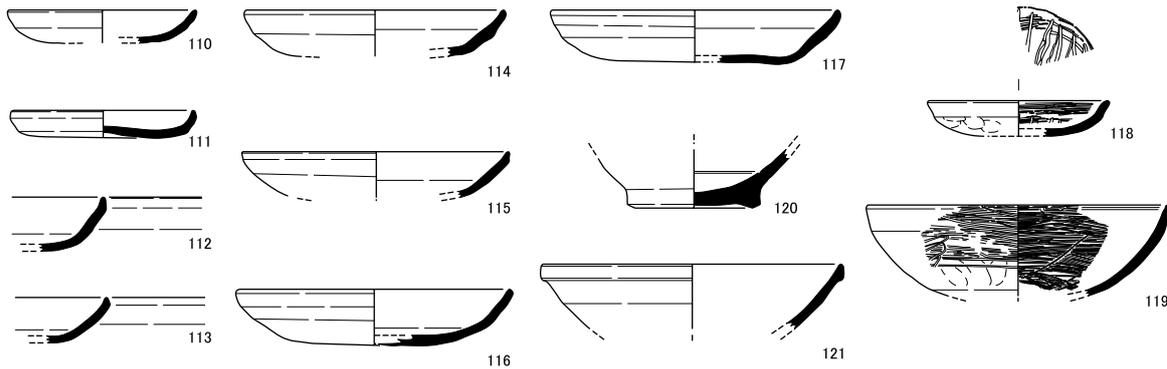


井戸1037

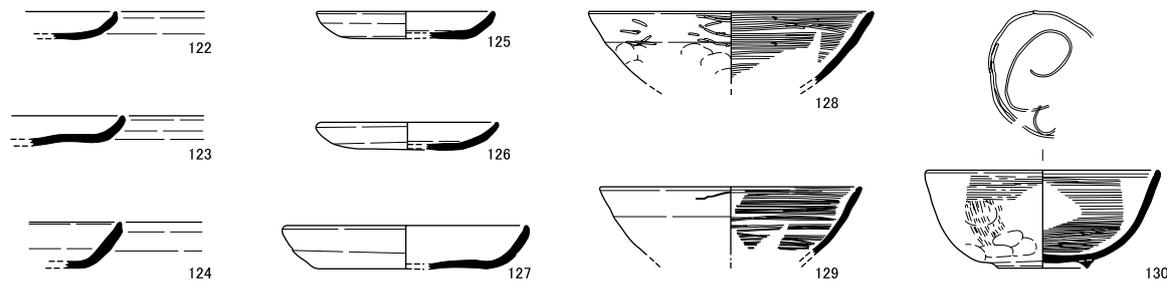


整地層・井戸1037出土土器実測図（1：4）

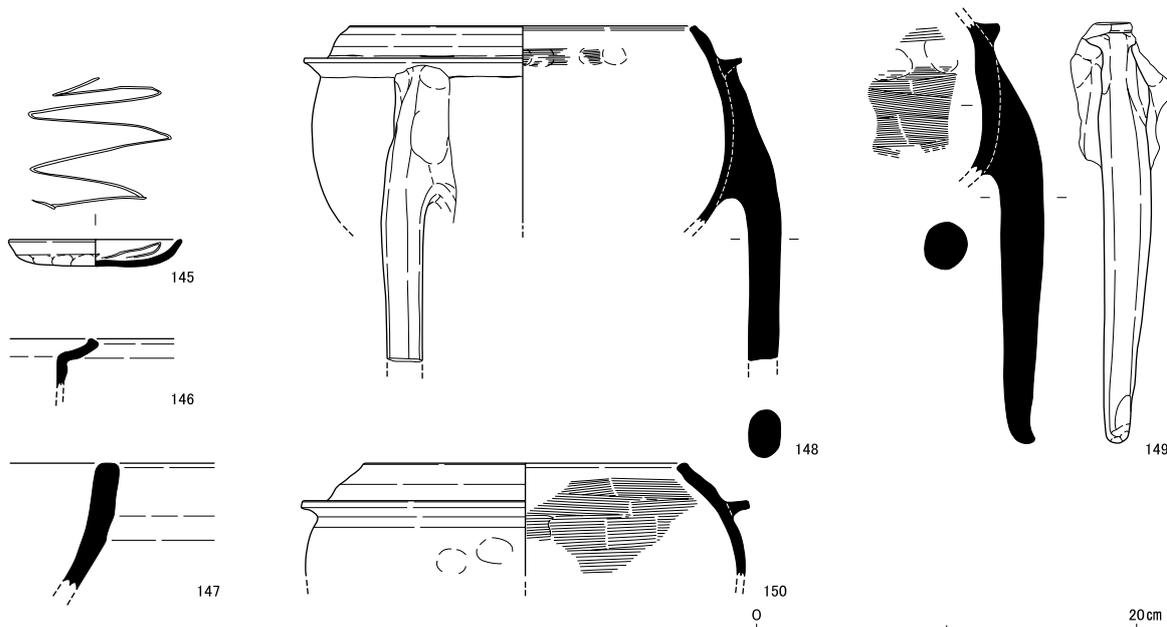
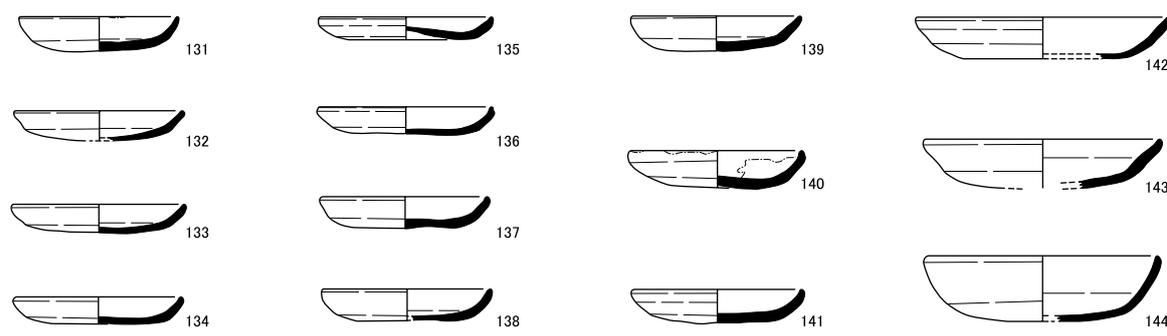
溝150



溝945

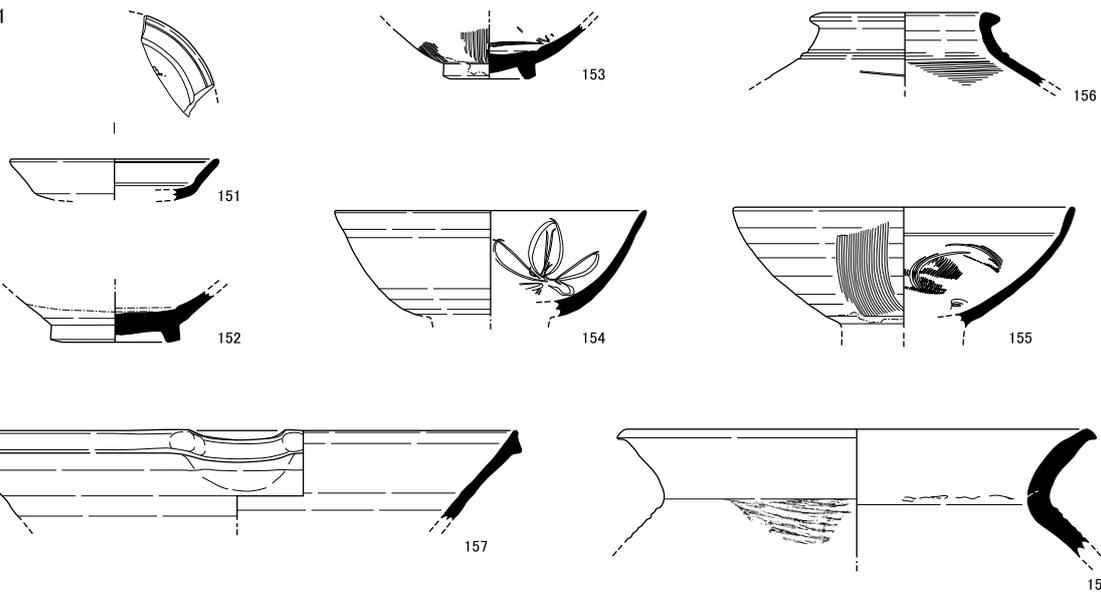


溝351

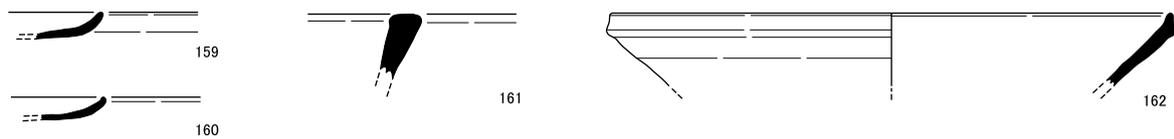


溝150・945・351出土土器実測図(1:4)

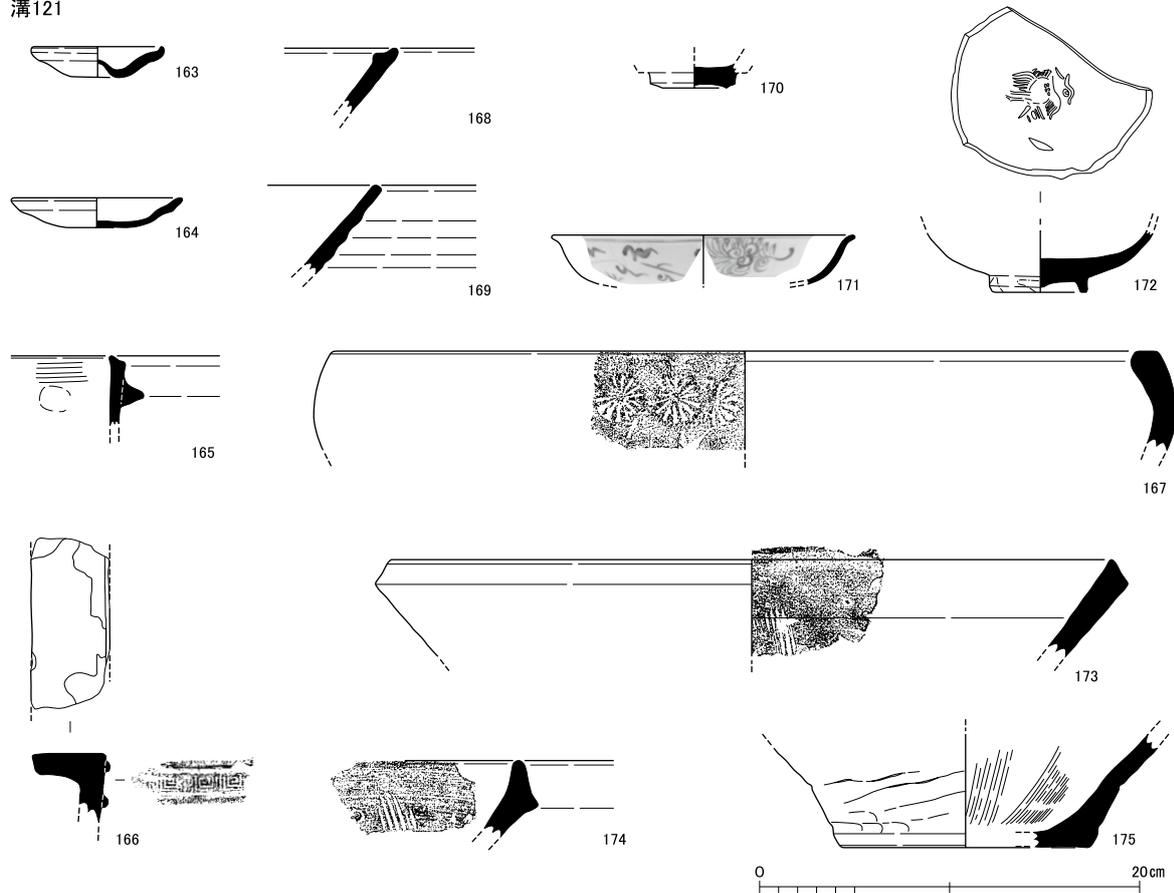
溝351



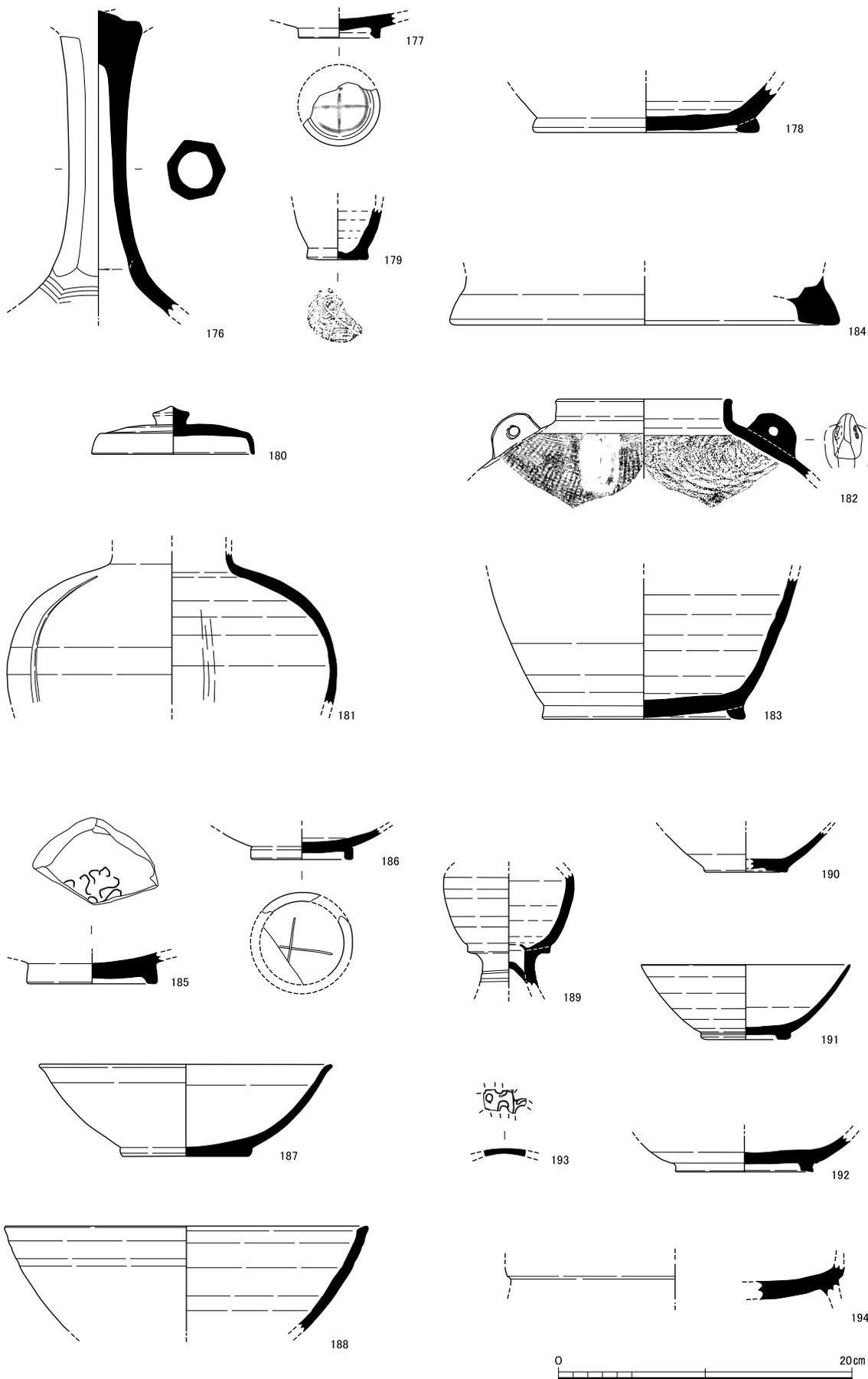
溝176



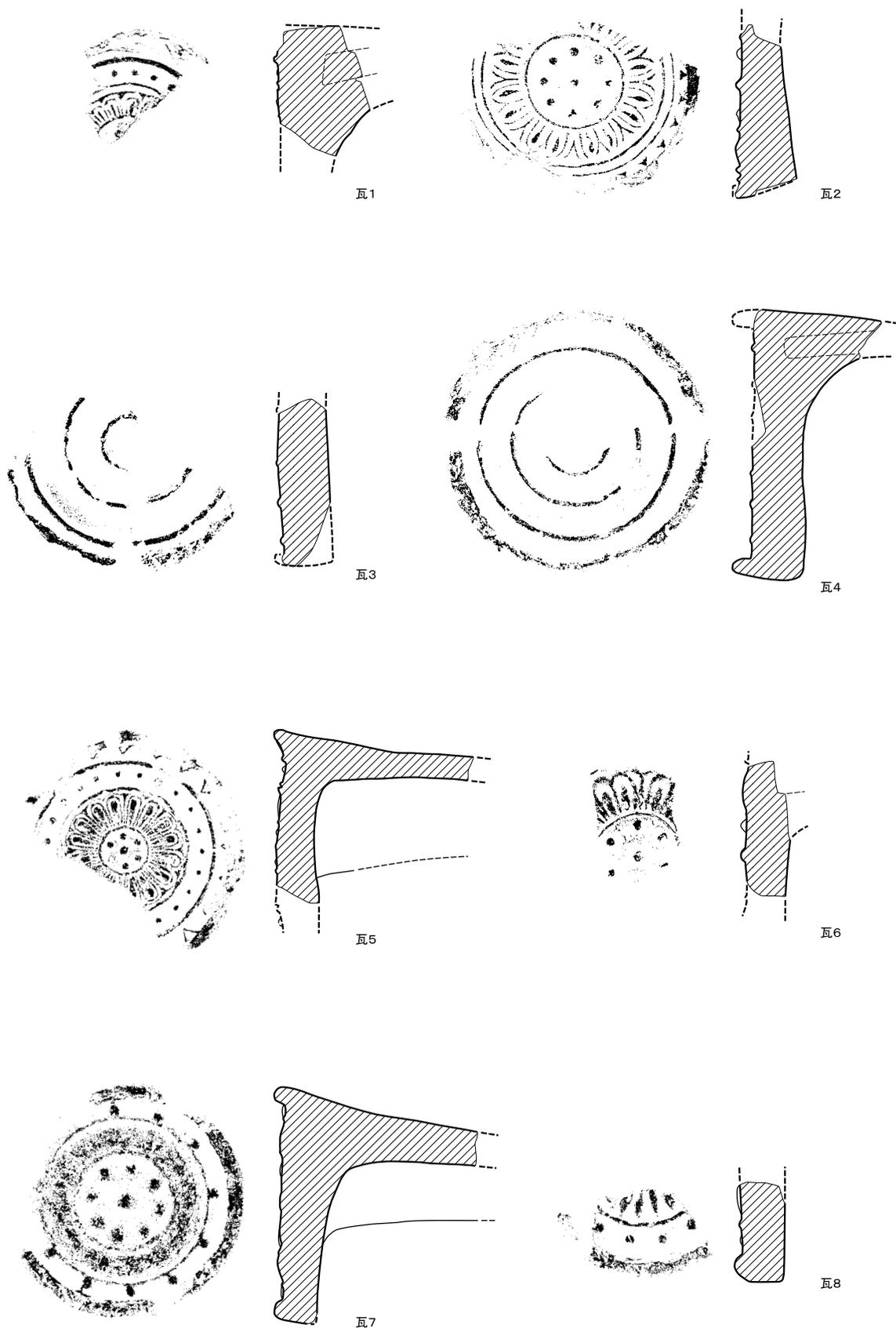
溝121



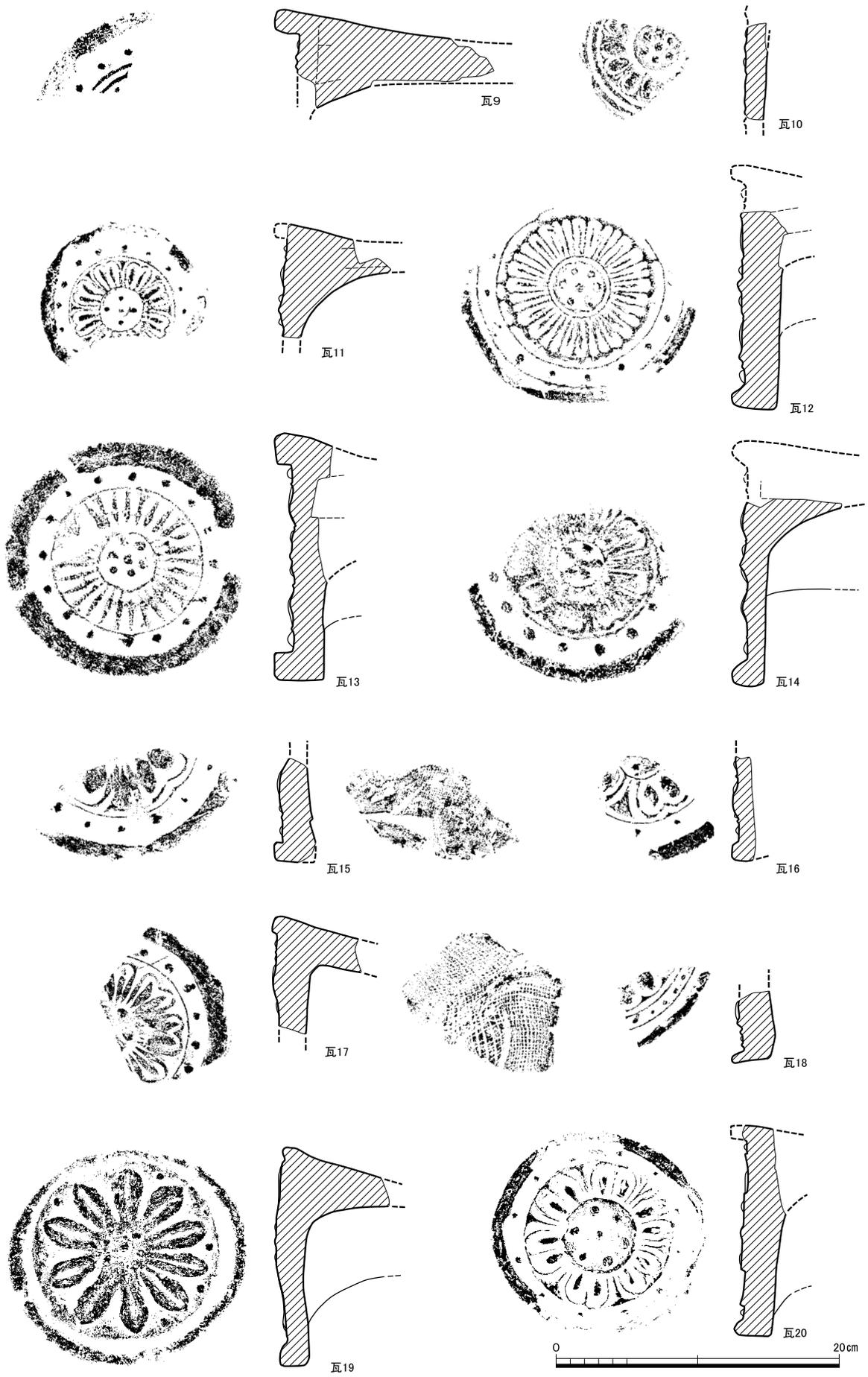
溝351·176·121出土土器实测图(1:4)



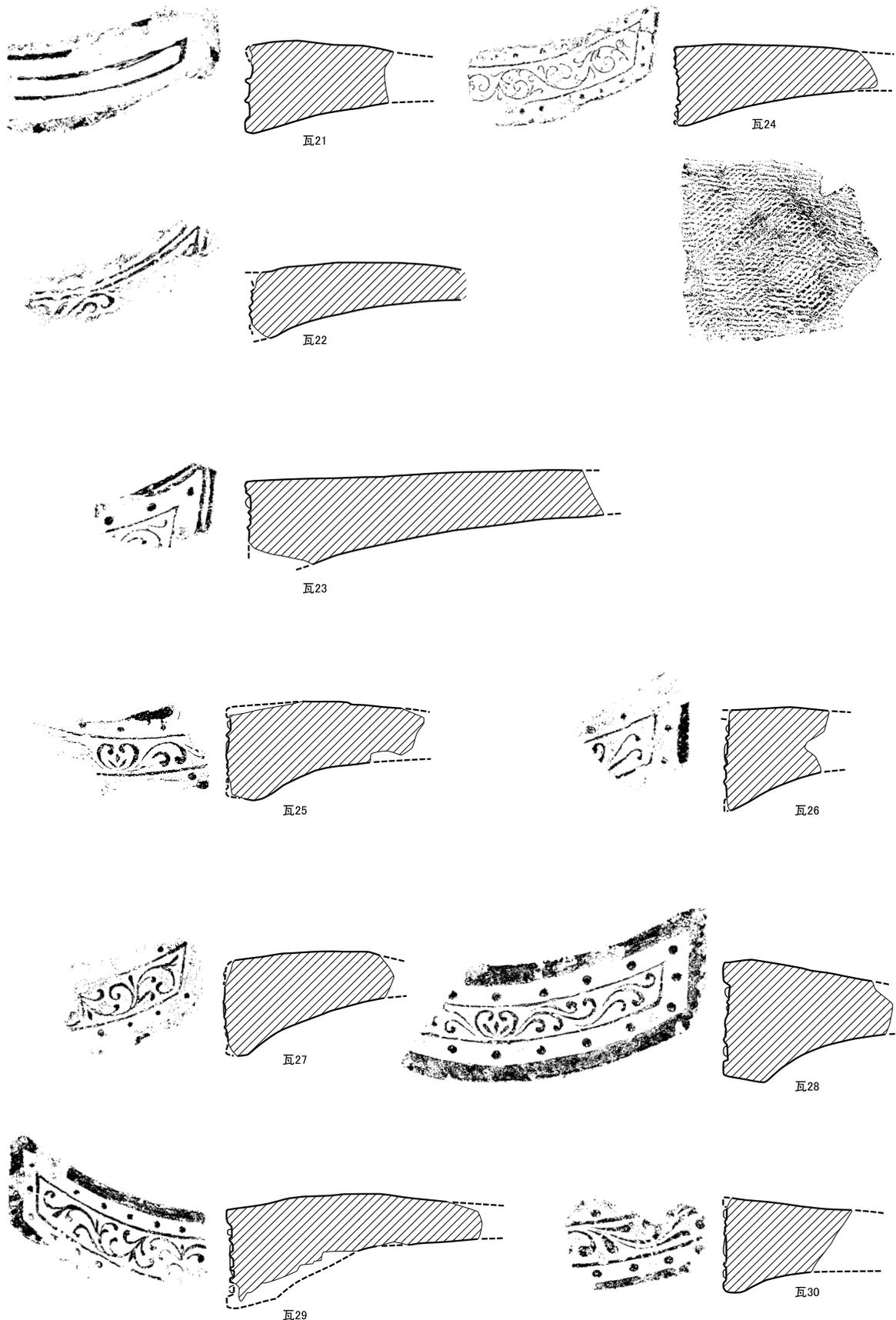
その他の土器実測図 (1 : 4)



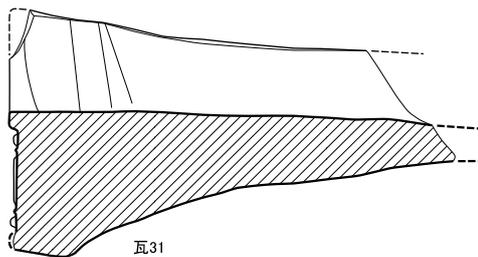
軒丸瓦拓影及び実測図1 (1 : 4)



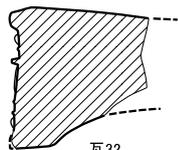
軒丸瓦拓影及び実測図2 (1 : 4)



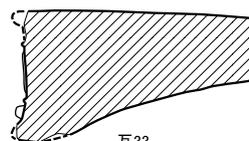
軒平瓦拓影及び実測図1 (1 : 4)



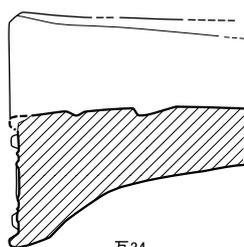
瓦31



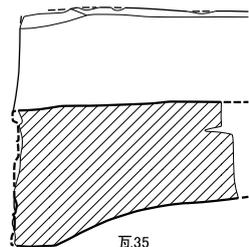
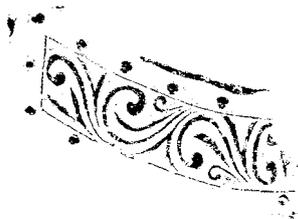
瓦32



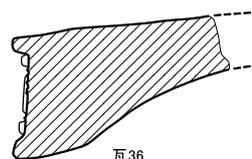
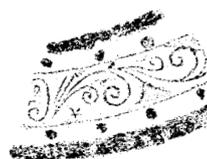
瓦33



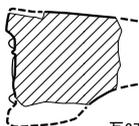
瓦34



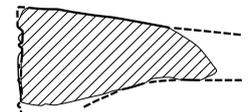
瓦35



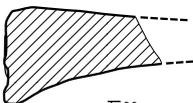
瓦36



瓦37



瓦38



瓦39



瓦40





1 1区全景（東から）



2 1区建物5（東から）



3 1区建物1・2（東から）



1 2区第1面全景（北から）



2 2区第2面全景（北から）



1 2区溝900（道祖大路西側溝）東西セクション断面（南西から）



2 2区路面1100（道祖大路路面）、川962（道祖川）（北東から）



1 2区溝681・1102・1183・1199・1200（北西から）



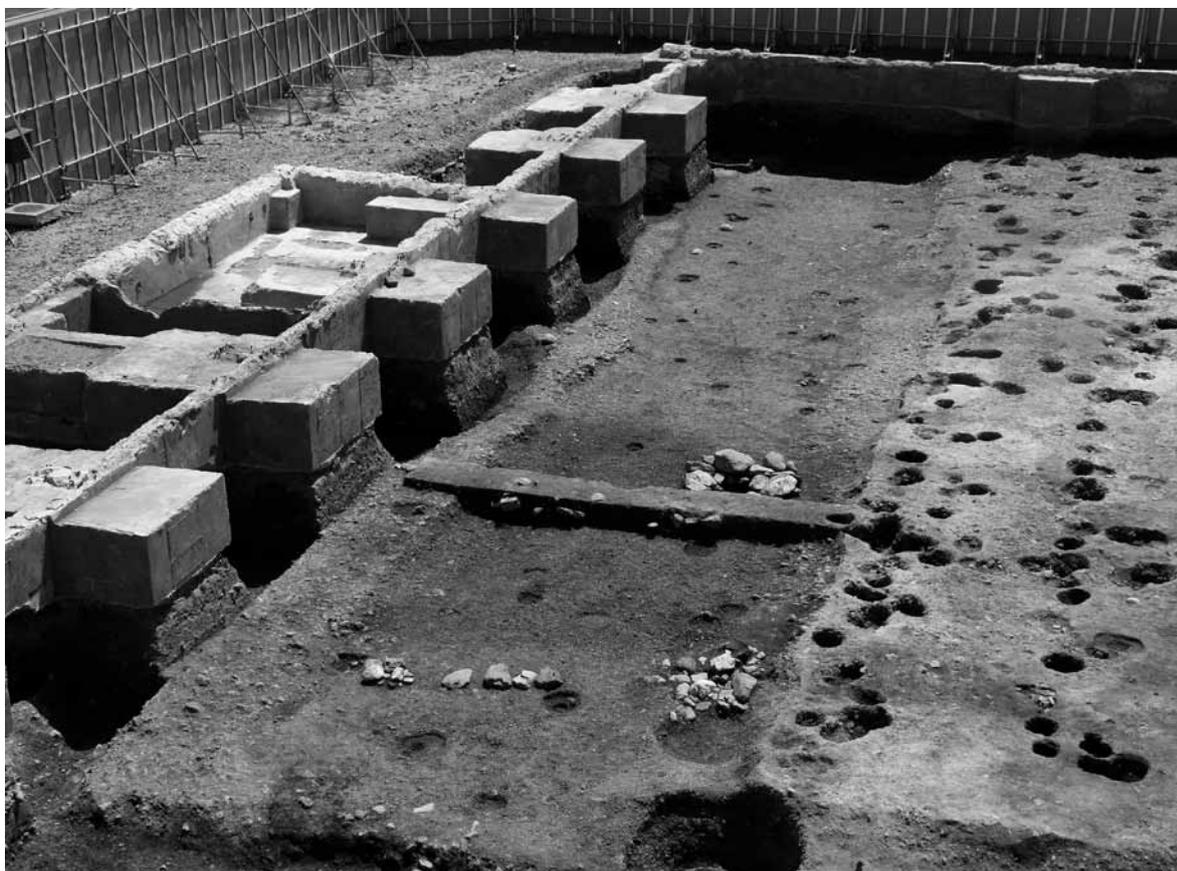
2 2区井戸211（東から）



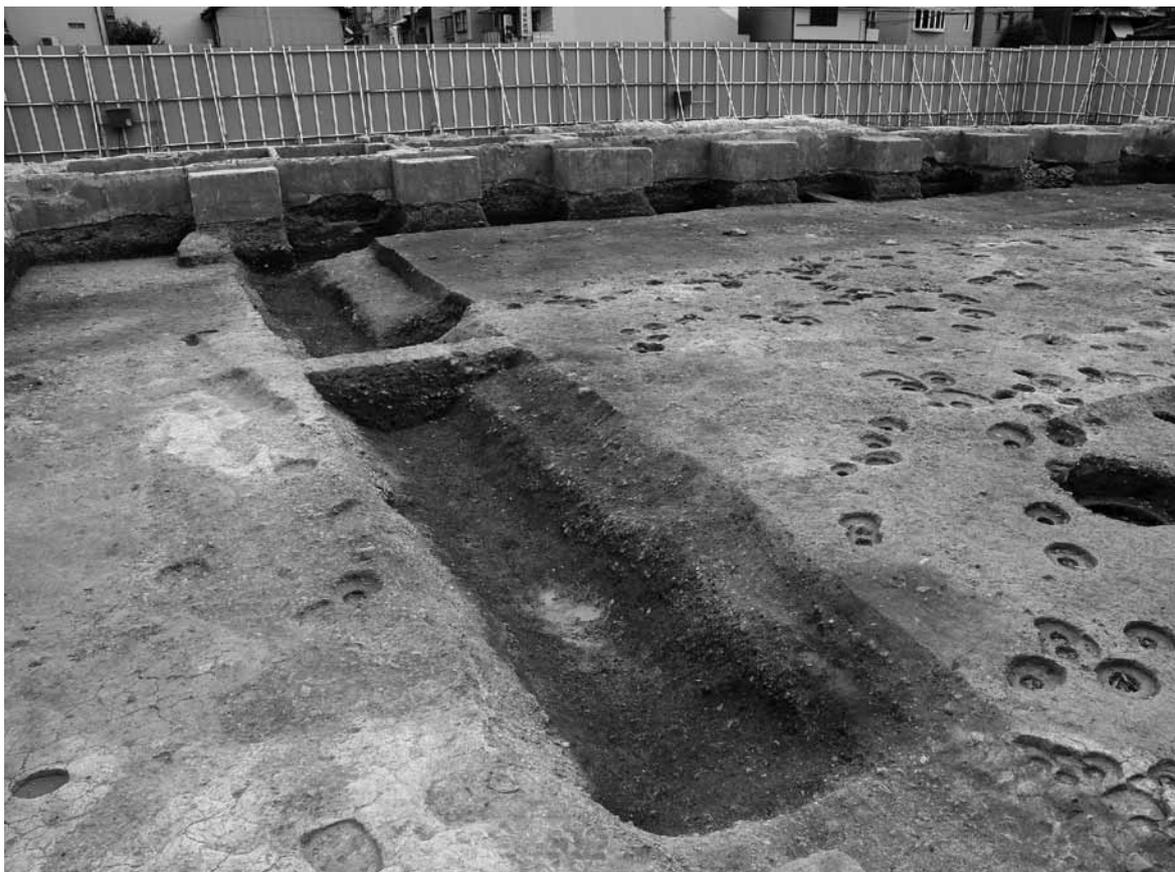
3 2区井戸211詳細（南から）



1 2区建物6~10 (北東から)



2 2区溝900埋土下層上面 (北西から)



1 2区溝351 (北西から)



2 2区溝351・150・945合流点 (北西から)



3 2区石列1075 (南西から)



1 2区井戸1037（東から）



2 2区井戸1037詳細（南西から）



3 3区第1面全景（東から）



4 3区第2面全景（東から）



溝4・溝1183・落込み1175・井戸211・溝900・整地層・井戸1037出土土器



溝150・溝351・溝121出土土器、その他の土器



瓦2



瓦4



瓦5



瓦11



瓦12



瓦13



瓦14



瓦17



瓦19



瓦20



瓦21



瓦24



瓦28



瓦29



瓦32



瓦34



瓦33



瓦36



瓦31

軒平瓦

報 告 書 抄 録

ふりがな	へいあんきょううきょうしじょうさんぼうさんちょうあと							
書名	平安京右京四条三坊三町跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告							
シリーズ番号	2021-10							
編著者名	李 銀眞・松永修平							
編集機関	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2022年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
へいあんきょうあと 平安京跡	きょうとうしうきょうく 京都市右京区 さいいんかすがちょう 西院春日町 3番地1ほか	26100	1	35度 00分 18秒	135度 43分 48秒	2020年12月 14日～2021 年6月30日	1,113m ²	小学校 校舎建設 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
平安京跡	都城跡	奈良時代	溝	土師器、瓦類		道祖大路から道祖川への変遷が明らかになった。「小泉庄」に関連する建物跡を初めて検出した。		
		平安時代前期～中期	道祖大路路面・西側溝、道祖川、建物、井戸、溝、落込み、柱穴列	土師器、白色土器、須恵器、黒色土器、灰釉陶器、緑釉陶器、輸入陶磁器、青磁、瓦類、土製品、金属製品、動植物遺存体				
		平安時代後期～鎌倉時代前半	建物、井戸、溝、土坑、石列、柱穴群	土師器、須恵器、黒色土器、灰釉陶器、緑釉陶器、瓦器、輸入陶磁器、瓦類、土製品、石製品、木製品、金属製品、動植物遺存体				
		室町時代	溝、耕作溝	土師器、瓦器、施釉陶器、染付、焼締陶器、金属製品				

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2021-10

平安京右京四条三坊三町跡

発行日 2022年3月31日

編集
発行 公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
〒602-8435 TEL 075-415-0521
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地
〒604-0093 TEL 075-256-0961